

第2次島田市総合計画策定のための 基礎資料集

(市を取り巻く環境、市の現況や将来性の調査・分析資料)

＜目 次＞

1. 国・県・周辺自治体における上位・関連計画等の整理	1
(1) 現行計画策定以降の状況.....	1
(2) 静岡県等の状況.....	2
(3) 土地利用に関する計画.....	3
2. 時代潮流の整理	8
(1) 概要	8
(2) 時代潮流について.....	9
3. 島田市の現状及び都市比較	14
(1) 人口等の状況	15
(2) 土地利用等の状況.....	27
(3) 計画主分野に関する状況.....	35
(4) 他都市比較	48
4. まちづくり課題の整理	60
5. 島田市の将来像に関する市民意向	66

1. 国・県・周辺自治体における上位・関連計画等の整理

(1) 現行計画策定以降の状況

・まち・ひと・しごと創生総合戦略

計画名（策定主体）	島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 ～未来創造～
策定年月	平成27年10月
目標年度	平成31年度
〈基本的な考え方〉 ○地域経済の持続的な発展 ○人口減少の克服 ○暮らしやすいまちづくり	
〈政策の企画・実行にあたっての基本方針〉 (1) 市民・事業者・市が連携した取組 ●これまで継承されてきた産業・文化がしっかりと次世代につながり、新たな芽吹きを發展させ、市民がいきいきと住み続けられる島田を創る。 (2) 島田市の特性と地域課題を踏まえた施策の展開 ●現状や将来の動向に関し必要な分析と研究を行い、地域課題等をふまえ、島田市の特性に即した施策を展開する。 (3) 「まち・ひと・しごと創生」政策5原則 ●国が掲げる「まち・ひと・しごと創生」政策5原則に基づき関連する施策を展開する。 (4) 施策目標設定と検証の仕組み ●地域課題に基づく適切な政目標を設定し、それぞれの進捗について、アウトカム指標（結果として住民にもたらされた便益）を原則とした「重要行政評価指標（KPI）」により検証し、改善する仕組み（PDCAサイクル）を確立する。 ●総合戦略の検証及び見直しについては、住民をはじめ、産官学金労言で構成する組織により、基本的に毎年度、検証及び見直しを行う。	
〈今後の施策の方向〉 ■「しごと」：日本で、世界で、稼ぐ産業の創出 ●高速交通網の拠点で稼ぐ…空港およびインターチェンジ周辺の整備を進め、稼ぐ拠点の形成に取り組む。 ●市内の観光資源を活かし、滞在に繋がる観光を推進する。また、海外就航先からの外国人観光客を誘客する。 ●地域で生産される農産物や木材の生産基盤強化や消費拡大、担い手確保を進めるとともに、付加価値を高めることでブランド力の強化と安定供給・販路拡大を狙う。 ●創業支援や企業誘致の促進により、すべての人がいきいきと働くことができる安定した雇用の場を創出する。 ■島田市に住み、好きになる ●市の特性や魅力の情報発信や移住体験、空き家の有効活用などを含めた取組を行い、移住・定住を促進する。 ●市内外の人や企業などへアピールできる「島田市ブランド」を創出、発信していくための取組を積極的に推進し、その中で市に対する市民等の愛着や誇りを醸成するとともに、島田市におけるライフスタイル等を提案し、実現する。 ■「ひと」：希望通り結婚、妊娠、出産し、子どもをまんやかに子育てする ●出逢い方向上のための講座や出逢いの機会づくりなどを行う。 ●妊娠、出産に関する正しい知識の普及活動を行うとともに、希望する妊娠・出産に向けて支援する。 ●子育てを地域全体で支援する子育てしやすいまちづくりに取り組む。 ●学校教育の充実を図るとともに、島田市への愛着を高める取組や、地域力の活用による幅広い年齢層の学習を推進する。 ■「まち」：水と緑に囲まれた健康長寿の暮らしやすいまちづくり ●市民一人ひとりが健康に対する意識を高め、仕事や地域で活躍し、社会全体で健康づくりのための環境を整える。 ●医療、介護、介護予防、住まい及び生活支援が包括的に提供できる地域包括ケアを推進する。 ●通勤・通学、買物や通院の利便性を確保し、健康長寿や地域医療の土台となる公共交通環境を整える。	

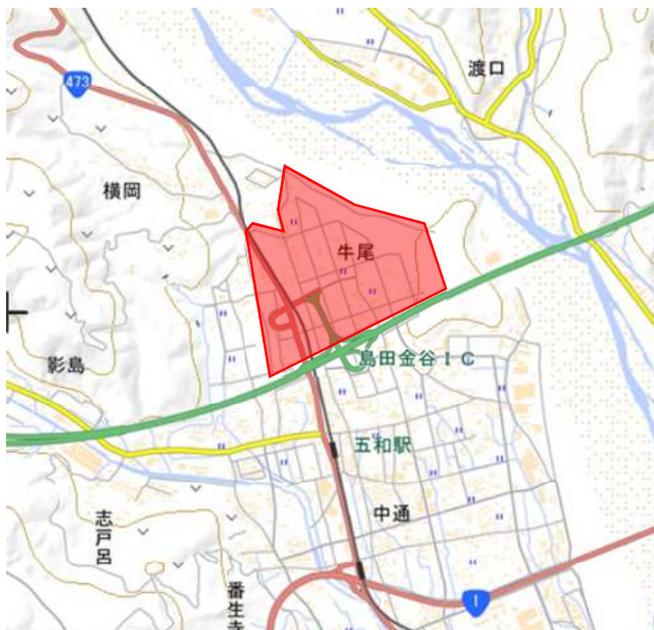
(2) 静岡県等の状況

- ・島田市内陸フロンティア推進区域（新東名島田金谷 IC 周辺地区、中河東中瀬地区）

計画名（策定主体）	新東名島田金谷 IC 周辺都市的土地利用推進区域
策定年月	平成 26 年 5 月 27 日
目標年度	平成 29 年度

《内陸フロンティア推進区域の趣旨》

- 防災・減災と地域成長を両立させた魅力ある地域づくりを実現する「内陸のフロンティア」を拓く取組の県全域への拡大に向け、市町の取組や事業の具体化強化のため設置
- 内陸フロンティア推進区域への支援の特例
 - ・企業の用地取得に対する補助率及び限度額の引上げ
 - ・市町等行う工業用地の整備のうち市町が負担する公共施設整備に対する助成
 - ・設備投資等を行う中小企業への貸付に対する利子補給
 - ・事業者が行う豊かな暮らし空間を実現する住宅地整備のうち、市町が補助する公共施設整備に対する助成
 - ・開発地周辺農地の農業基盤整備等への支援



《政策課題と解決策》

- 沿岸部企業の移転先用地の確保及び交通結節点としての地の利を活かし、有事の際にも対応できる拠点としての活用が求められる
 - ・都市計画用途地域の指定による工業用地の創出及び農業の6次産業化による都市的土地利用を推進する。
 - ・災害時には、緊急輸送路である新東名高速道路や国道1号からの物資供給拠点・食料供給拠点を創出する。

《事業内容》

- 有事の際にも活用できる工業団地の整備

《推進体制の設置状況及び活動状況》

- 庁内にプロジェクトチーム設置済み
- まちづくり協議会設置（平成26年8月）

《スケジュール》

平成 26 年度	まちづくり構想の策定 土地利用可能性調査
平成 27 年度	土地利用に係る基本設計、地元調整
平成 28 年度	農業振興地域の定期変更への対応
平成 29 年度	用途地域の変更、実施設計

(3) 土地利用に関する計画

- ・島田市都市計画都市計画区域の整備、開発及び保全の方針

計画名（策定主体）	島田市都市計画都市計画区域の整備、開発及び保全の方針 (静岡県都市計画区域マスタープラン)
策定年月	平成28年4月
目標年度	平成32年度、平成42年度

《都市づくりの基本理念》

○都市づくりの理念、将来の都市構造については、平成42年の姿として策定する。また、区域区分、都市施設の整備等については、平成32年の姿として策定する。

《地域ごとの市街地像》

1. 住宅地域

- ・地区特性を踏まえた密度構成に配慮しながら、土地の有効利用や都市施設の整備を進め、良好な市街地形成に努める。

2. 商業・業務地域

- ・JR島田駅周辺の商業系用途地域は、商業・業務機能の再編により、多様な都市的サービスの充実を図る。
- ・JR金谷駅から都市計画道路志戸呂河原線に至る商業系用途地域は、地域拠点として生活利便施設を配置する。
- ・JR六郷駅周辺地区及び初倉地区については、地域レベルの商業・業務サービス地域として整備を検討する。

3. 工業地域

- ・一級河川大井川沿いに展開する工業系用途地域は、今後も工業地域として位置づけ機能強化を目指す。
- ・新東名高速道路島田金谷IC周辺、東名高速道路吉田IC及び富士山静岡空港周辺においては、農林業等との調整を行い、高速交通網を活かした必要な企業立地を検討する。

4. 農業地域

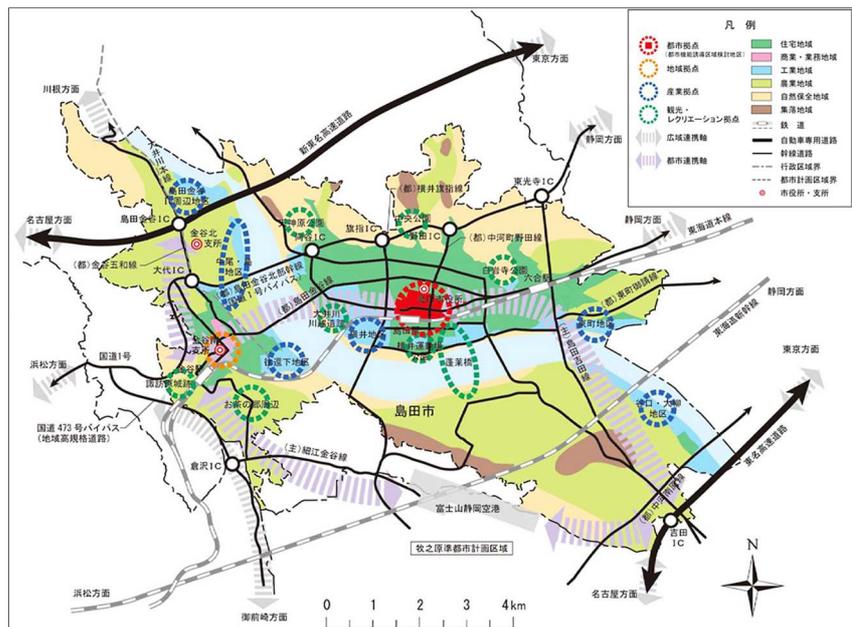
- ・牧之原台地の茶園や市街地周辺の農地等農業振興地域の農用区域は、本区域の農業生産の基盤であるとともに、良好な景観や水源涵養機能も有することから、今後も優良農地として保全していく。

5. 集落地域

- ・市街地以外の農家住宅と農地が混在する地区及び、計画的に整備された住宅団地是集落地域として位置づけ、周辺の自然環境との調和を図りつつ、ゆとりある居住環境の形成を図る。

6. 自然保全地域

- ・樹林地は、本区域の恵まれた自然環境の骨格を成しており、今後も適切に保全していく。
- ・主要な河川は、水と緑の軸として位置づけ、水辺環境の保全のもと、水辺に親しめる憩いの場としての活用を図る。
- ・白岩寺公園、天神原公園、諏訪原城跡、大井川川越遺跡及び蓬萊橋付近、中央公園、横井運動場公園及び河川敷、お茶の郷付近を観光・レクリエーション拠点として位置づけ、他地域との交流及び自然とのふれあいの場として整備を進める。



計画名（策定主体）	静岡県国土利用計画第4次
策定年月	平成20年4月
目標年度	平成28年度末

《土地利用の基本理念》

○県土が、現在及び将来における県民のための限られた資源であるとともに、生活及び生産を通ずる諸活動の共通の基盤であることにかんがみ、公共の福祉を優先させ、自然環境の保全を図りつつ、美しい景観の保全や自然との共生、災害防止、豊かで快適な県民生活の創造などに配慮し、健康で文化的な生活環境の確保と県土の均衡ある発展を図る。

《平成29年における県土の利用目的に応じた区分ごとの規模の目標の地域別の概要》

地域名	概ねの地域エリア
伊豆半島	熱海市、伊東市、下田市、伊豆市、伊豆の国市、東伊豆町、河津町、南伊豆町、松崎町、西伊豆町 (5市5町)
東部	沼津市、三島市、富士市、富士宮市、御殿場市、裾野市、小山町、長泉町、清水町、函南町、芝川町、富士川町 (6市6町)
中部	静岡市、由比町 (1市1町)
志太榛原・中東遠	焼津市、藤崎市、 島田市 、牧之原市、御前崎市、菊川市、掛川市、袋井市、磐田市、吉田町、川根本町、森町 (9市5町)
西部	浜松市、湖西市、新居町 (2市1町)

※施策によっては、それぞれの地域が連携し、総合的な展開を図ることが必要となっていることから、地域の境界については、厳密に区切られるものではなく、境界を越えた交流・連携の中で柔軟に捉えることとする。

○志太榛原・中東遠地域の措置

1. 全体構想

- 陸・海・空の交通結節地域として、地域内都市や中山間地域、海岸地域が連携し、都市間の連携により富士山静岡空港を生かした都市機能がバランスよく配置され、本県の新たな玄関口にふさわしい都市圏づくりや、国内外との交流拠点の形成、特色ある産業集積を図るなど、多重心型の地域の形成を図る。

2. 自然環境

- 大井川上流域等の貴重な自然環境の保全を図る。また、大井川流域等においては、災害防止や水源かん養等の多面的機能を有する森林の適正な整備や保全を図る。
- 森林景観、田園景観、茶園景観、水辺景観等の形成を促進する。
- JR六郷駅周辺地区及び初倉地区については、地域レベルの商業・業務サービス地域として整備を検討する。

3. 農業・林業・水産業

- 農業生産の経営規模の拡大や生産性向上を図るため、引き続き、優良農地の確保と生産基盤の整備を進める。
- 林業振興を図る森林の整備や水産業振興を図る漁港の整備を進める。

4. 産業誘致

- 優れた立地条件を生かし、フーズ・サイエンスヒルズ(食品・衣料品・化成品産業集積)の形成や、国内外からの企業誘致を積極的に展開し、特色ある産業集積地域の形成を促進する。
- 低・未利用地の有効利用を促進するとともに、工業団地の整備などを進める。

5. 市街地整備

- JR 駅周辺や、中心市街地においては、都市区画整備事業や市街地再開発事業等により都市基盤の整備と商業・業務施設等の立地を促進し、土地利用の高度化を図る。
- 周辺市街地においては、地域特性を生かした土地区画整備事業等により、快適な生活空間の形成を促進する。

6. 交通

- 自然環境の保全や農業的土地利用との調整に配慮しつつ、交通結節点の機能を生かした都市的土地利用の誘導につとめる。
- 新東名高速道路や国道1号のバイパスの4車線化などの広域幹線道路の整備を促進し、空港アクセス主要3ルート等の地域内の主要道路等の整備を進める。

計画名（策定主体）	国土利用計画島田市計画
策定年月	平成 20 年
目標年度	平成 30 年度

《土地利用の基本理念》

- 市域の土地利用は、公共の福祉を優先させ、自然環境の保全を図る
- 地域の自然的、社会的、経済的及び文化的条件に配慮して、健康で文化的な生活環境の確保と市域全体の均衡ある発展を図る。

《土地利用の基本方針》

1. 自然と共生した土地利用

- ・優れた自然の保全や都市環境と調和した身近な自然の維持・復元などを進める。
- ・地球的視点に立って、環境への負担の軽減を図り、自然と共生した土地利用を図る。

2. 災害に強い安全な土地利用

- ・東海地震等による地震災害に備えた適正な土地利用を図る。
- ・河川整備の促進や農用地、森林の保全や機能の維持・向上に努める。

3. 市全体のバランスのとれた土地利用

- ・商業機能や居住機能の計画的な誘導により、周辺環境と調和したバランスの取れた土地利用を図る。
- ・既存市街地では高度利用や機能集積を促し、効率的な行政経営にも貢献する土地利用を進める。

4. 地域の魅力や個性を活かした土地利用

- ・地域の魅力や個性を活かし、郷土への愛着や誇りが育まれることを目指す。

5. 快適でうるおいある土地利用

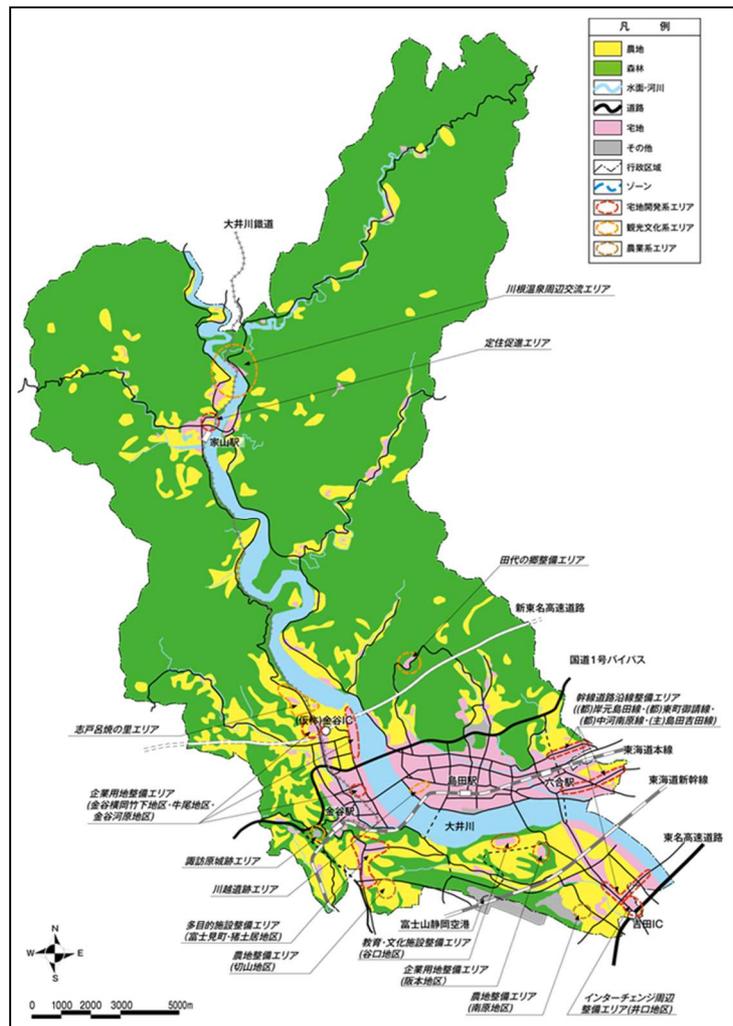
- ・都市基盤の整備や地域特性と調和した居住環境の整備により、誇りや愛着を持てる美しい景観の形成に努める。

6. 活力あふれる土地利用

- ・地域経済を支える産業基盤の整備・充実を図る。
- ・市内外の人々が集い、活発に交流する拠点の整備・充実を図る。

7. 市民や地域の主体的な参画

- ・土地利用に対する市民意識の啓発を図り、市民と事業者、行政の協働による土地利用施策の取組を促進する。
- ・市内の各地域間の交流・連携を図る。
- ・様々な活動組織の育成を通じ、市民や地域の主体的な参画によるまちづくり活動を促進する。



(例)・島田市都市計画マスタープラン

計画名（策定主体）	島田市都市計画マスタープラン
策定年月	平成22年3月
目標年度	平成41年度（中間年次は平成30年度）
<p>〈基本理念〉</p> <p>○まとまりのある都市 ○豊かさのある都市 ○つながりのある都市</p>	
<p>〈基本目標〉</p> <p>1. 広域交流の舞台、活力を創造するまち</p> <ul style="list-style-type: none"> 都市間交通、広域移動及び情報発信の拠点として、「ひと・もの・情報」が行き交い、都市の活力を創出するまちを目指す。（広域交流の都市構造、複合的土地利用） <p>2. 安全で安心して快適に暮らせるまち</p> <ul style="list-style-type: none"> すべての人にとって安全で安心して暮らすことのできる、ひとにやさしい快適で潤いのあるユニバーサルデザインに基づくまちをめざす。（市民の暮らしを支える環境形成） <p>3. 集い・憩い・楽しむ新しい交流が生まれるまち</p> <ul style="list-style-type: none"> 居住、地域文化、市民サービス、広域交流拠点とのアクセス機能など、多様な都市生活機能や企業誘致などの産業振興により、新しい交流が生まれるまちをめざす。（中心市街地の再構築、都市と農山村との参加・体験交流） <p>4. 環境と調和したまち</p> <ul style="list-style-type: none"> 大井川をはじめとする周辺の豊かな自然や水と緑の環境と共生し、環境に負荷をかけず、生き生きとした市民の暮らしが営まれるまとまりのある都市構造を持つまちをめざす。（環境負荷を低減し、憩いと潤いを与える空間の形成） <p>5. 地域特性を活かした個性的で魅力あるまち</p> <ul style="list-style-type: none"> 固有の地域文化や特色ある産業、歴史・伝統など、地域資源と風土を活かし、市民生活を大切にす豊かで魅力あるまちをめざす。（景観形成と歴史的街並みの保全） <p>6. 地域コミュニティの連携と協働により未来を彩るまち</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域住民の活発な連携及び協働により相互が認め合い、支え合いながら信頼を築き、そして協力によって創る、地域コミュニティに支えられたまちをめざす。（多様な居住者と多機能なコミュニティ） 	
<p>〈土地利用の方針〉</p> <p>■自然的土地利用</p> <ul style="list-style-type: none"> 市街地北部の山林や市街地周辺の農地や斜面緑地など都市の骨格となる緑地は、都市景観機能、水源涵養機能、国土保全などの公益的な機能を維持するため保全する。 <p>■都市的土地利用</p> <p>○住宅地</p> <ul style="list-style-type: none"> 既成住宅地については、公共施設の整備を図り快適な居住環境への改善に努める。 市街地周辺に自然や農地と調和し、良好な居住環境を有する住宅地を計画的に配置する。 <p>○商業・業務地</p> <ul style="list-style-type: none"> 既成市街地に都市拠点を形成するため、都市基盤の整備や土地の高度利用を図るとともに、本市にふさわしい商業・業務機能などの集積を図る。 六合・初倉地域は、近隣住民等を対象とした適正規模の商業・業務機能を計画的に誘導する。 <p>○工業地</p> <ul style="list-style-type: none"> 大井川沿いに集積する既存工業地区は、工業稚気として維持し、本市の産業経済を支える基盤とするほか、周辺地区の居住環境への配慮に努める。 高速交通網に隣接する優位性を活かした企業立地・誘導のための用地を確保する。 <p>○その他の宅地</p> <ul style="list-style-type: none"> 公益公共施設用地については、中心市街地における交流機能の充実や地域バランスに配慮し整備・充実を図る。 工場跡地などの低・未利用地については、土地の有効利用を促進する。 	

《目指すべき都市の姿に向けての基本方針（まとめ）》

目指すべき都市の姿

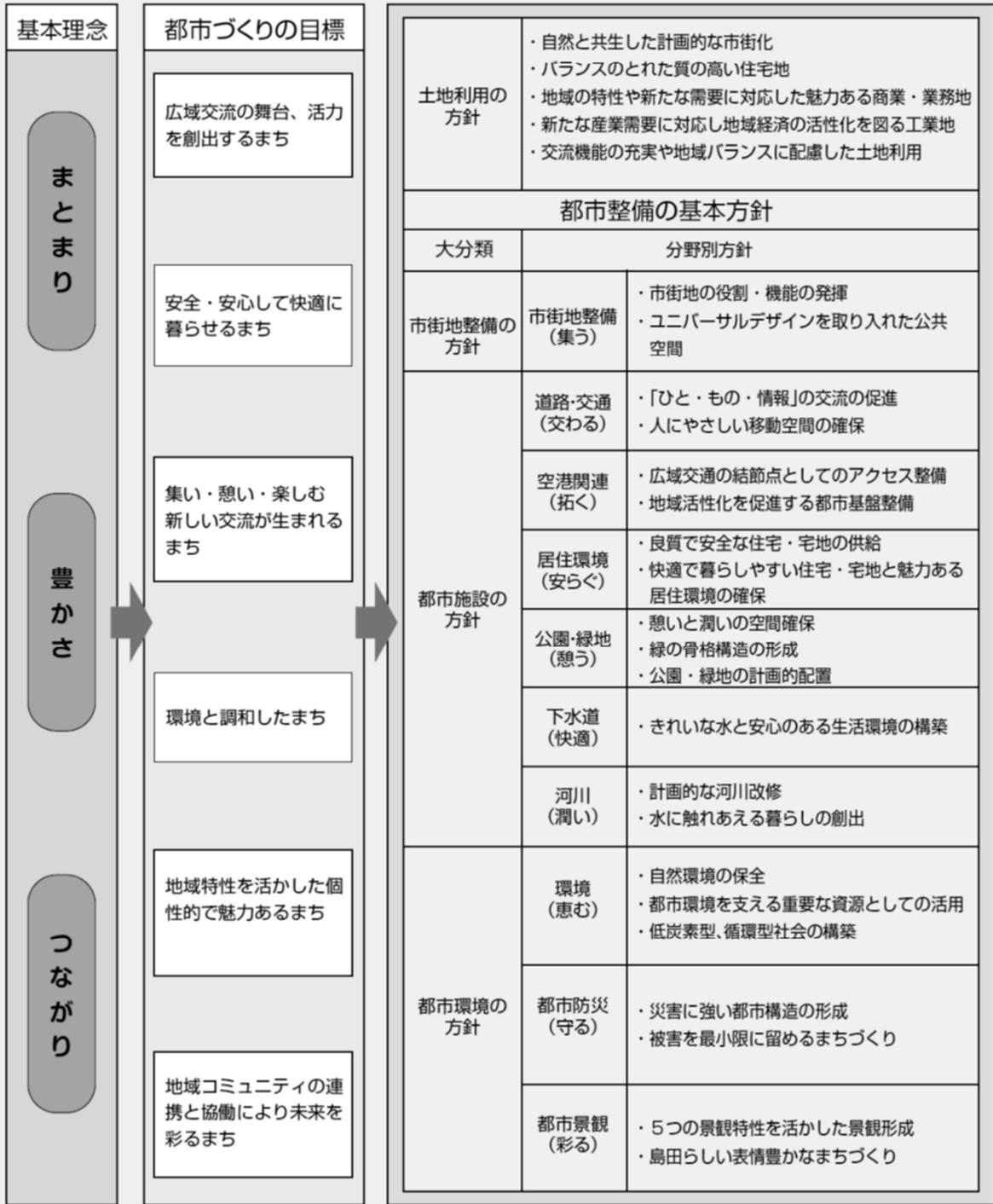
ネットワークの形成により一体的な都市（集約分担・親水緑緑都市）

地域コミュニティへの集約

都市機能の分担

親水空間の保全

森林や緑地の保全



2. 時代潮流の整理

(1) 概要

総合計画に示す分野に関わる近年の社会情勢等を整理します。

①少子高齢化・人口減少の進行	●人口減少・少子高齢化が進み、労働力の減少や地域活力の低下、年金や医療費などの社会保障費の増加など社会のさまざまな面での影響が懸念されます。
②地方分権と行政改革の推進	●地方自治体は財政的に依然厳しい状況にあります。 ●地方自治体の自主性の拡大と自立性の強化を図る取組が進んでいます。
③価値観の多様化	●家族や結婚、就労に関する価値観が多様化し、ワークシェアリング、在宅開業など生活様式や就労形態も多様化しています。 ●家族との交流や自然とのふれあい、健康志向の高まりなど「こころの豊かさ」を重視する人は、若い世代ほど少なくなっています。
④環境問題の進行	●地球温暖化の影響は年々顕在化し、日本国内でも猛暑や集中豪雨などといった形で深刻な被害が出ています。 ●国のエネルギーシステムが抱える脆弱性が顕在化しています。
⑤安全・安心意識の高まり	●地震や台風など、近年大規模な自然災害が多発しており、防災への意識が高まっています。 ●身近に発生している凶悪犯罪への危機意識が高まっています。
⑥地域経済をとりまく環境の変化	●経済のグローバル化が進み経済活動の機会が拡大する一方、経済活動における国際間・地域間の競争は一層激しさを増しています。 ●非正規雇用や外国人労働力の増加など雇用形態が多様化し、賃金格差の拡大なども社会問題化しています。
⑦教育や子育てに対する関心の高まり	●子どもの学力の低下などが社会問題化しており、いじめや不登校などの問題の対応も急務です。
⑧地域の歴史、文化の再認識	●地域独自の歴史・文化が重視される一方で、後継者が消失しつつある自治体も増えており、継承・保存のあり方が求められています。
⑨住民参画・協働意識の高まり	●ICTの活用など、新たな住民参画の手法が検討されています。 ●NPOなど市民団体の活動は年々増加しており、その活動内容も多岐にわたっています。
⑩高度情報化の進展	●マイナンバー制度により行政の効率化や国民の利便性の向上が進んだ一方で、情報弱者への対応や個人情報保護などが課題となっています。
⑪社会資本の老朽化	●わが国全体で大量に整備された道路、河川、下水道、港湾等の社会資本における老朽化が同時に進んでおり、メンテナンスサイクルなどの検討が求められています。

(2) 時代潮流について

① 少子高齢化・人口減少社会の進行

わが国の総人口は、平成 16 年（2004 年）の約 1 億 3 千万人をピークに減少に転じ、国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、今後も減少傾向が続き、平成 35 年（2023 年）には約 1 億 2 千万人になると見込まれています。また、少子高齢化が一層進行し、総人口に占める高齢者（65 歳以上）の割合は、平成 17 年（2005 年）には 20%程度でしたが、平成 35 年（2023 年）には 29.8%と約 3 割まで上昇すると見込まれています。

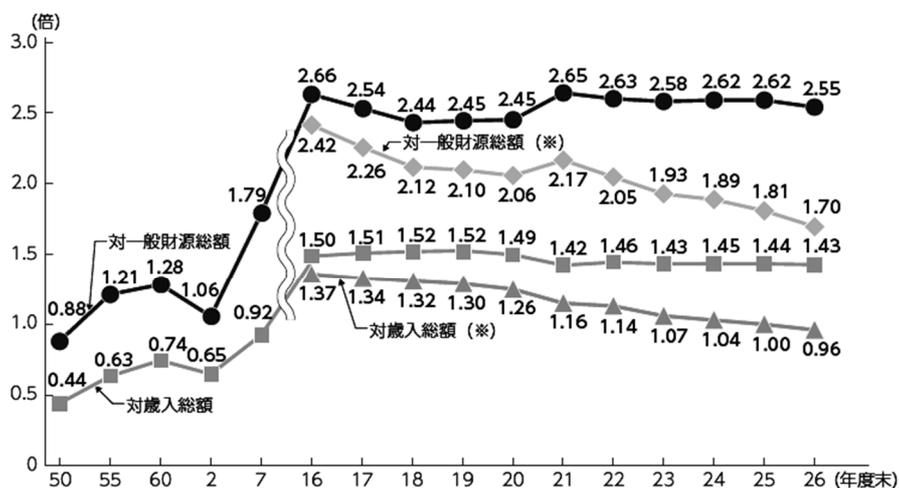
こうした人口減少や少子高齢化により、労働力の減少や地域活力の低下、年金や医療費などの社会保障費の増加など社会のさまざまな面での影響が懸念されます。また、ひとり暮らしの高齢者や核家族世帯の増加など、世帯構成にも変化がみられ、介護や子育てなどの生活不安を増大させています。

② 地方分権と行政改革の推進

社会経済情勢により自治体財政は依然として年々厳しさを増しています。「平成 28 年版地方財政白書」（総務省）によると、地方債現在高は昭和 50 年度末では歳入総額の 0.44 倍、一般財源総額の 0.88 倍でしたが、平成 4 年度末以降急増し、平成 26 年度末では歳入総額の 1.43 倍、一般財源総額の 2.55 倍となっています。

地方自治体は財政的に依然厳しい状況下にあるものの、市民に身近な行政サービスの柔軟な運営が可能になったことから、自主的で自立した政策の立案及び推進体制の構築が急務となっています。平成 23 年（2011 年）には「地域の自主性及び自立性を高めるための関係法律の整備に関する法律」（第 1 次地方分権一括法）が施行され、これを契機として地方自治体の自主性を強化し、自由度の拡大を図るための義務付け・枠付けの見直しが進んでいます。平成 26 年に交付された第 4 次地方分権一括法では 63 の法律が整備され、商工会議所の定款や都市計画区域マスタープランの決定などの事務・権限が、都道府県から地方公共団体へ、都道府県から指定都市へと移譲されました。このような情勢をふまえた行政の取組が必要です。

■地方債現在高の歳入総額等に対する割合の推移



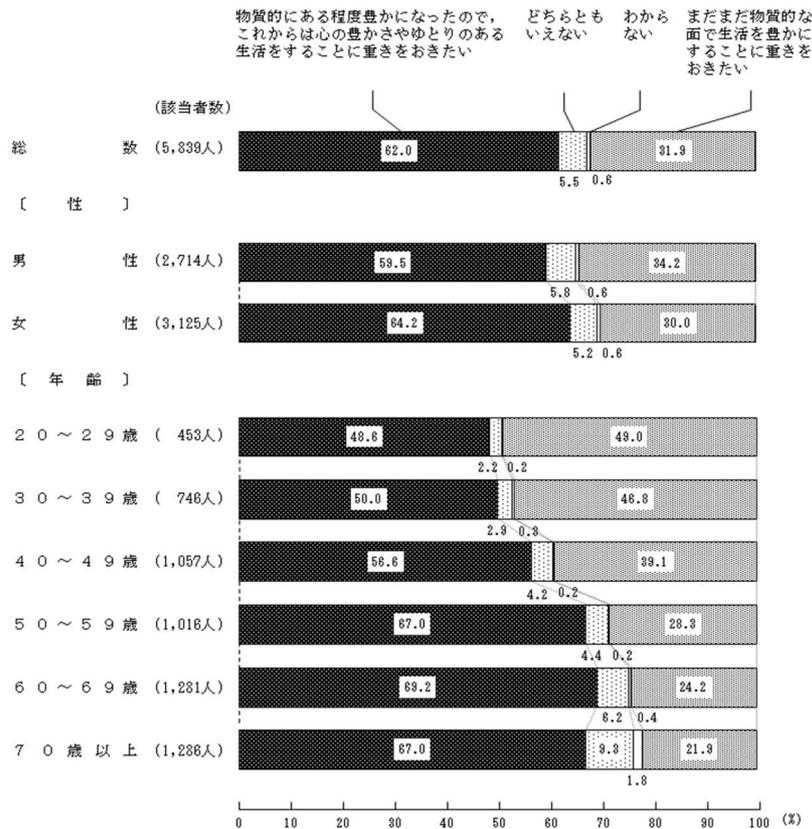
(注) 地方債現在高は、特定資金公共事業債及び特定資金公共投資事業債を除いた額である。
 (※) 臨時財政対策債を除いた地方債現在高の歳入総額等に対する割合である。

資料：平成 28 年版地方財政白書

③ 価値観の多様化

家族や結婚、就労に関する価値観の多様化により、ワークシェアリング、在宅開業など生活様式や就労形態も多様になっています。また、経済的な「ものの豊かさ」から家族との交流や自然とのふれあい、健康志向の高まりなど「こころの豊かさ」を重視する人は多くなっています。しかし、若い世代ほど「まだまだ物質的な面で生活を豊かにすることに重きをおきたい」と答える割合が多くなっており、世代ごとに格差が見られます。今後も市民の多様なニーズに応えられるよう、きめ細かな対応が求められます。

■これからは心の豊かさか、まだ物の豊かさか



資料：平成 27 年度国民生活に関する世論調査(内閣府)

④ 環境問題の進行

これまで多くの環境保全に関する国際協定が結ばれてきましたが、二酸化炭素等の温室効果ガスは依然として増加傾向にあり、地球温暖化の影響は年々顕在化しています。日本国内でも各地で猛暑や集中豪雨が発生しており、平成 26 年（2014 年）には広島市で観測史上最大の降雨量を記録し、土砂災害等により多くの犠牲者が出るなど深刻な被害をもたらしました。

平成 27 年には「パリ協定」が採択され、温室効果ガス排出削減や温室効果ガス吸収源（森林等）の保全及び強化などに関する取組が掲げられました。日本国内では、平成 28 年 3 月に「地球温暖化対策の推進に関する法律の一部を改正する法律案」が閣議決定され、国際協力を通じた対策に加え、地域における対策の推進のために必要な措置を講じることが掲げられています。今後地域レベルでの環境問題への取組は、重要な課題となっていくと考えられます。

■地球温暖化の影響の現状

指標	観測された変化
世界平均気温	<ul style="list-style-type: none"> ・1880年から2012年の間に世界の平均気温が0.85℃上昇 ・最近の30年の各10年間はいずれも、1850年意向の各々に先立つどの10年感よりも高温でありつづけた ・日本の年平均基本も、1898年～2014年で100年あたり約1.15℃の割合で上昇している(気象庁HP)
平均海面水位	<ul style="list-style-type: none"> ・20世紀を通じた海面水位上昇量は0.17m ・1993年～2013年の平均海面水位上昇率は年当たり2.99±0.13mm
暑い日及び熱波	<ul style="list-style-type: none"> ・発生頻度が増加、人間活動が影響している可能性が高い
寒い日、寒い夜及び霜が降りる日	<ul style="list-style-type: none"> ・発生頻度が減少、人間活動が影響している可能性が非常に高い
大雨現象	<ul style="list-style-type: none"> ・発生頻度が増加、人間活動が影響している確信度は中程度 ・日本では短期間強雨(1時間降水量50mm及び80mm以上)が増えている

資料:IPCC「第5次評価報告書」より環境省作成

⑤ 安全・安心意識の高まり

平成28年4月に発生した熊本地震では、数週間にわたり大きな揺れが続き、多くの住民が長期間にわたる避難所生活を余儀なくされました。今後も、南海トラフ巨大地震などといった巨大地震が高い確率で発生すると発表されています。さらに、同年8月には北日本各地で台風や大雨による大規模な水害が発生し、人命や農作物に大きな被害を出しました。近年では、これらのようなこれまで地域が経験したことのない自然災害が発生しており、これまで予想されていなかった自然災害への警戒も必要です。

また、高齢者や子どもが被害者となる凶悪犯罪や振り込め詐欺なども多く発生するなど、身近な地域における犯罪への不安が増大しており、日常生活のさまざまな面で安全・安心の確保が強く求められています。

⑥ 地域経済を取り巻く環境の変化

経済のグローバル化が進み経済活動の機会が拡大する一方、東アジア各地域の急速な経済成長の影響なども受け、経済活動における国際間・地域間の競争は激しさを増しています。

平成20年(2008年)の世界同時不況により、日本の経済情勢は大きな打撃を受けました。平成24年12月からは安倍政権による「アベノミクス」が始まり、金融緩和や経済対策予算の計上などによる企業の成長戦略が進められてきました。

労働環境では、非正規雇用や外国人労働力の増加など雇用形態が多様化し、賃金格差の拡大なども社会問題になっています。また、団塊の世代の大量退職により労働力人口が減少する中、65歳までの雇用延長や長期に働く有期雇用者の無期雇用への義務付け、女性が働きやすい環境の整備など雇用の安定確保に向けた議論が深まっています。

⑦ 教育や子育てに対する関心の高まり

近年、子どもの学力の低下などが社会問題化しており、いじめや不登校などの問題についても、急務の課題としてその対応が求められています。こうした背景を踏まえ、教育基本法の改正や新教育指導要領の実施など、教育改革の取り組みが進められています。核家族化や少子化、地域コミュニティの希薄化など、子どもを取り巻く家庭や地域環境の変化が、家庭や地域の教育力の低下の大きな原因となっていることに加え、子ども同士のふれあいの減少により自主性や社会性が育ちにくいといった影響も懸念されています。

学校における教育環境の充実をさらに進めるとともに、家庭や地域の教育力の再生に向け、子どもや地域の実態等を踏まえ、地域における教育体制づくりや、子ども自身が健やかに育っていける社会、子育てに喜びや楽しみを持ち安心して子どもを産み育てることができる社会を形成していくことが求められています。

⑧ 地域の歴史、文化の再認識

21世紀は「こころの時代」とも言われ、地域の特徴、独自の生活風景や文化財が、地域への帰属意識や住民の連帯感を強めるまちづくりのキーワードとして注目されています。しかしながら、少子高齢化や人口減少により地域の歴史・文化の継承が困難になりつつある地域も増えており、継承や保護のあり方が課題となっています。

文化庁は平成24年(2012)に『歴史文化基本構想』策定技術指針』を打ち出し、文化財保護に関するマスタープラン「歴史文化基本構想」の策定を全国の地方自治体に呼び掛けました。この構想策定にあたっては、歴史・文化単体の価値だけを評価するのではなく、地域独自の視点から評価することも重視されています。

⑨ 住民参画・協働意識の高まり

財政状況等の行政情報の公開の徹底やパブリックコメント制度等の導入、行政への住民参加・参画の制度は、現在ほとんどの地方自治体で実施されています。近年では都市部を中心に、ICTを活用した住民参画も導入されはじめており、地域単位のコミュニティに加え、それぞれの住民が関心のあるテーマごとに複層的なコミュニティの形成が期待されています。

住民のボランティアやNPO活動、コミュニティ活動は、保険・医療。社会教育、子どもの健全育成などを中心に年々増加しており、活動内容も多岐にわたっています。地域の活力向上のためには、こうした一人ひとりの力を発揮した住民参画を一層進め、地域のあらゆる情報を共有し、誇りと愛着、パートナーシップを深めることが求められています。

■ NPO法人の活動分野別法人数（上位5位のみ表示 複数回答）

活動種類	法人数
保健・医療又は福祉の増進を図る活動	29,853
社会教育の推進を図る活動	24,436
連絡、助言又は援助の活動	23,850
子どもの健全育成を図る活動	23,087
まちづくりの推進を図る活動	22,415

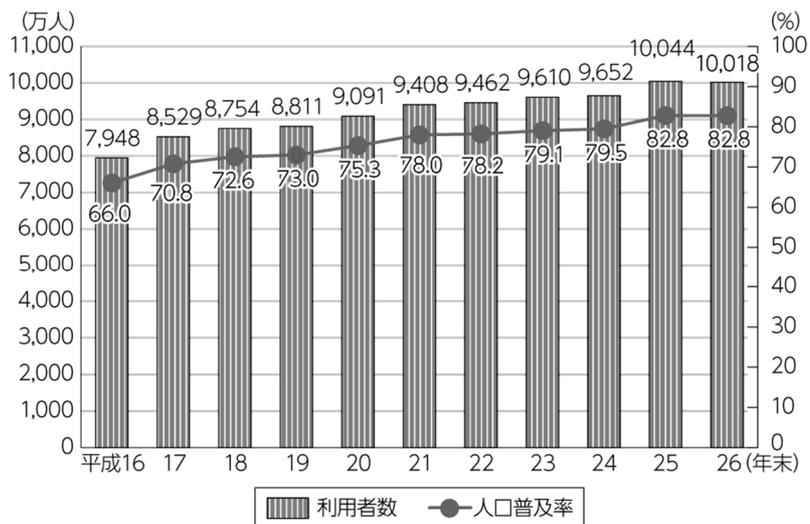
資料：内閣府 NPO ホームページ活動分野別認証数（平成28年3月31日現在）

⑩ 高度情報化の進展

高度な情報通信技術と交通網の発達により個人の地球規模での闊達な活動が可能となり、「人」「もの」「情報」のスピード感ある流動化が進んでいます。身近な地域社会においても公共料金等のコンビニ支払いやネットバンキングの浸透等により、電子化や簡便化が進んでいます。平成 27 年(2015 年)10 月からは行政の効率化や国民の利便性の向上、公平・公正な社会の実現を目的に、マイナンバー制度が開始されました。

一方、こうした社会システムの急速な転換に迅速に対応できない情報弱者への支援、地域による情報格差の発生も課題となっています。また、高度情報化に伴い企業の情報漏えいや個人情報を狙った犯罪も多発しており、個人情報の保護も重要です。

■インターネット利用者数と人口普及率



資料 平成 27 年版情報通信白書

⑪ 社会資本の老朽化

社会経済情勢成長期から成熟期へと変化しているなかで、高度成長期に日本全国で大量に整備された道路、河川、下水道、港湾等の社会資本における老朽化が同時に進行しています。これを受けて、国土交通省では平成 25 年に「インフラ長寿命化基本計画」を策定し、メンテナンスサイクル及びその体制の構築の必要性が掲げられています。今後は、自治体内でも社会資本ストックの計画的な改善が求められます。

■建設後 50 年以上経過する社会資本の割合

	H25 年 3 月	H35 年 3 月	H45 年 3 月
道路橋 [約 15 万 7 千橋 (橋長 2m 以上、約 70 万)]	約 18%	約 43%	約 67%
河川管理施設※ (水門等) ([約 1 万施設])	約 25%	約 43%	約 64%
下水道管きよ [総延長: 約 45 万 km]	約 2%	約 9%	約 24%

※設置年が不明な施設は 50 年以上経過した施設として整理

資料 国土交通省作成「社会資本の老朽化の現状と将来予測」

3. 島田市の現状及び都市比較

- ・ 島田市の人口、産業動向を中心に総合計画分野の主要事項にかかる各種統計資料や文献等の把握・整理により市の現状等を把握します。

(1) 人口等の状況

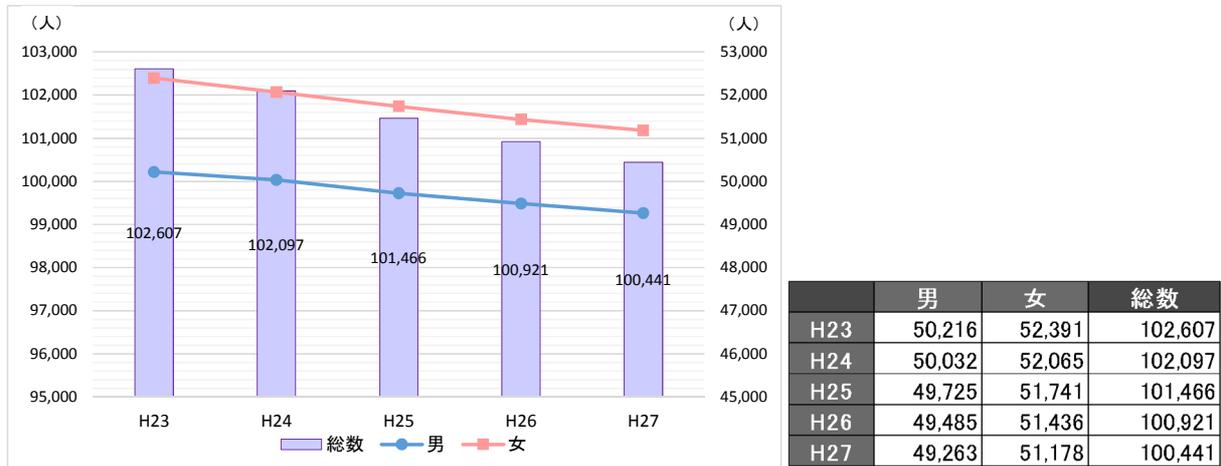
- | | |
|--------|--|
| ①人口・世帯 | <ul style="list-style-type: none">● 全市的動向としては人口減少期に移行しています。● 地区別にみると、六合地区以外の7地区で人口減少が進んでいます。また、全ての地区で一世帯当たり人数が減少しています。 |
| ②年齢別人口 | <ul style="list-style-type: none">● 少子高齢化が進んでおり、特に0～20歳代の若い世代が少なくなっています。● 全体では、65～69歳の人口が最も多くなっています。 |
| ③人口動態 | <ul style="list-style-type: none">● 自然動態、社会動態いずれも減少傾向にあります。● 出生数はゆるやかに減少が進んでいます。● 転入数は近年増加傾向にありますが、依然として転出数が転入数を上回っています。 |
| ④人口流動 | <ul style="list-style-type: none">● 流出超過となっており、特に通勤者の流出が多くなっています。● 市町別にみると、藤枝市、静岡市、焼津市、牧之原市、吉田町への流出・流入が特に多くなっています。 |

① 人口・世帯

1) 人口の推移

住民基本台帳を基にした「島田市の人口・世帯」によると、平成 23 年度以降、人口は減少傾向にあり、毎年 500 人前後の減少がみられます。

性別ごとにみると、平成 23 年以降、女性の人口が男性の人口を上回っています。

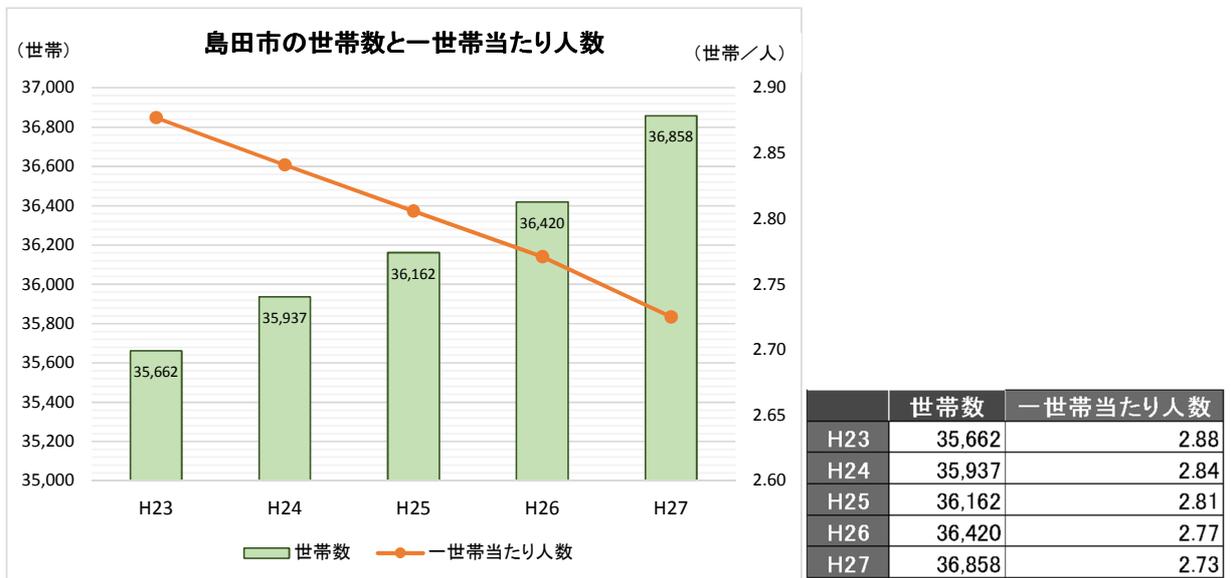


※各年 12 月 31 日現在

資料：島田市市民課「島田市の人口・世帯」

2) 世帯数と一世帯当たり人数

市内では人口減少している一方、世帯数は年々増加しています。また、世帯当たり人数は年々減少しています。



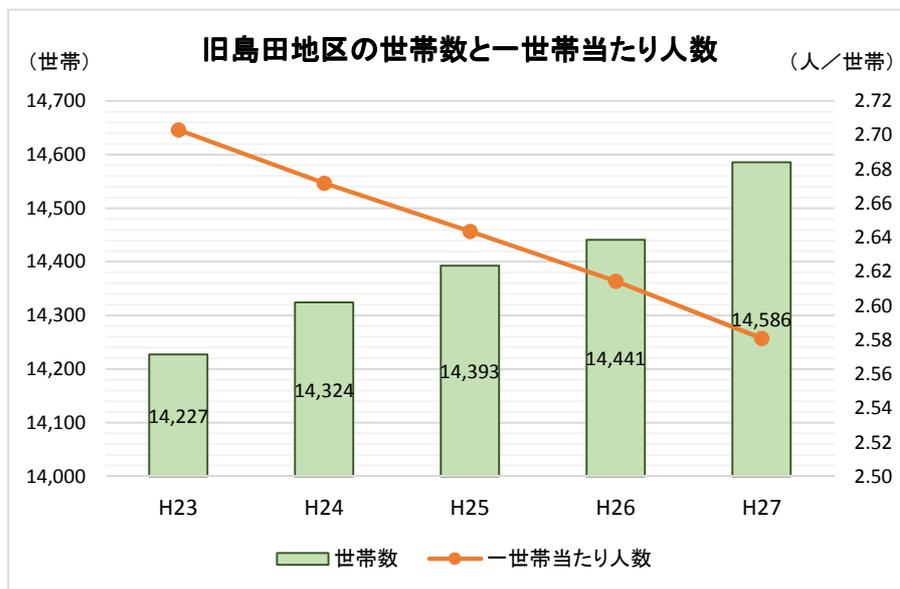
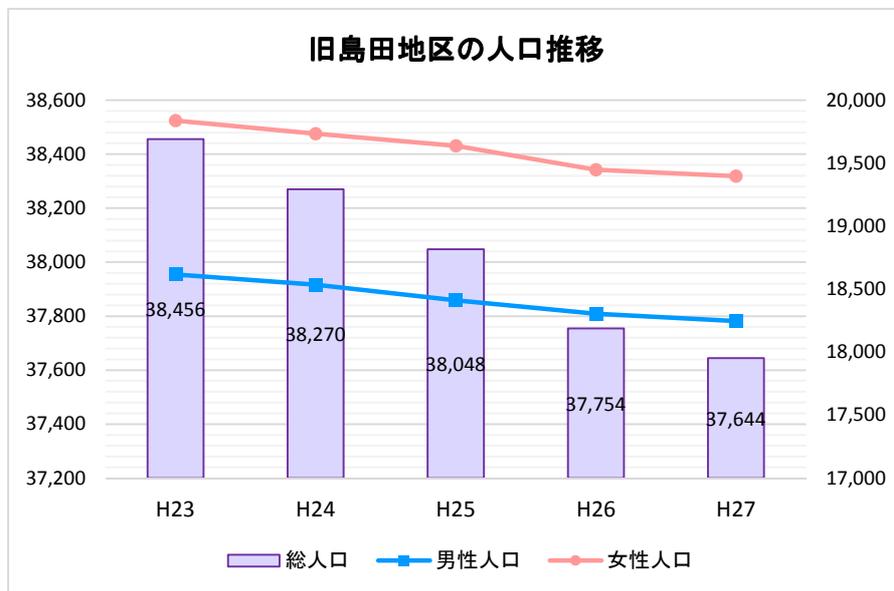
※各年 12 月 31 日現在

資料：島田市市民課「島田市の人口・世帯」

3) 地区別人口推移

【旧島田地区】

島田市内で最も人口の多い地区ですが、総人口は減少傾向にあります。
世帯数は増加している一方、世帯当たり人数は減少しています。



	総人口(人)	男性人口(人)	女性人口(人)	世帯数(世帯)	一世帯当たり人数(人)
H23	38,456	18,617	19,839	14,227	2.70
H24	38,270	18,536	19,734	14,324	2.67
H25	38,048	18,410	19,638	14,393	2.64
H26	37,754	18,306	19,448	14,441	2.61
H27	37,644	18,246	19,398	14,586	2.58

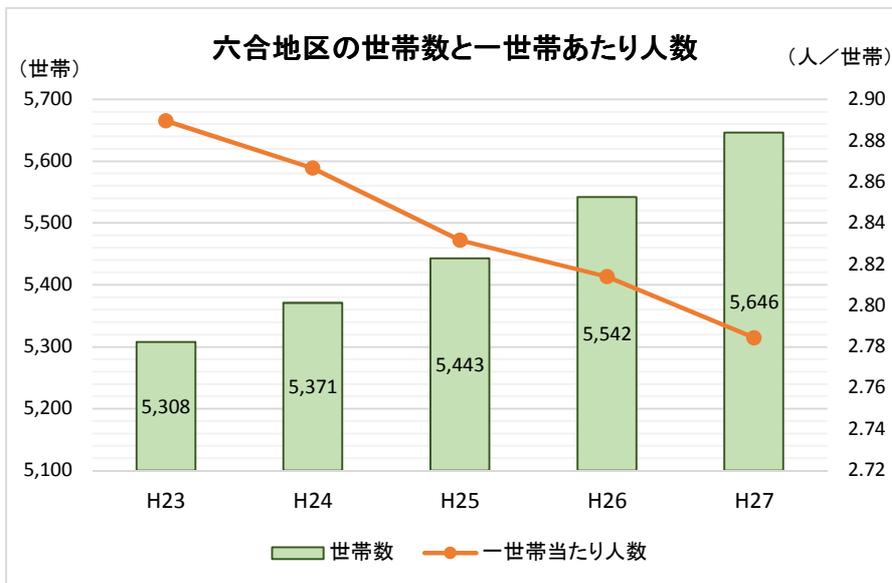
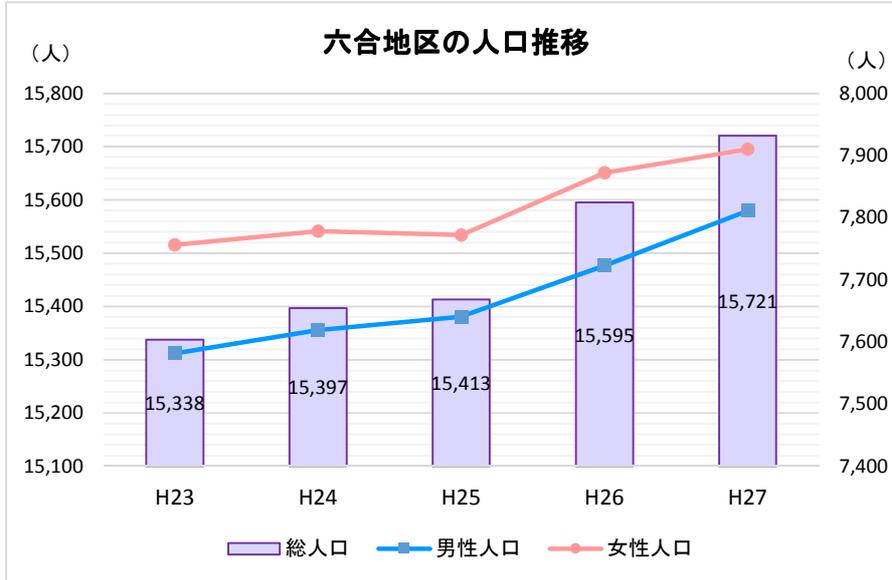
※各年 12 月 31 日現在

資料： 島田市市民課「島田市の人口・世帯」

【六合地区】

島田市内では唯一人口が増加している地区で、特に平成 25 年度以降大きく人口が増加しています。

世帯当たり人数が減少傾向にあることから、単身居住者が増加していると考えられます。



	総人口(人)	男性人口(人)	女性人口(人)	世帯数	一世帯あたり人数
H23	15,338	7,582	7,756	5,308	2.89
H24	15,397	7,619	7,778	5,371	2.87
H25	15,413	7,641	7,772	5,443	2.83
H26	15,595	7,723	7,872	5,542	2.81
H27	15,721	7,811	7,910	5,646	2.78

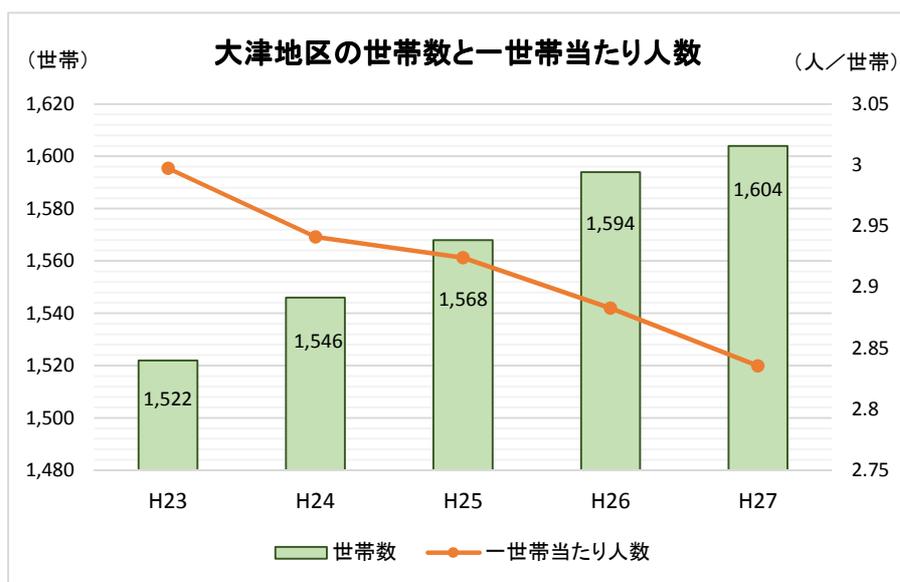
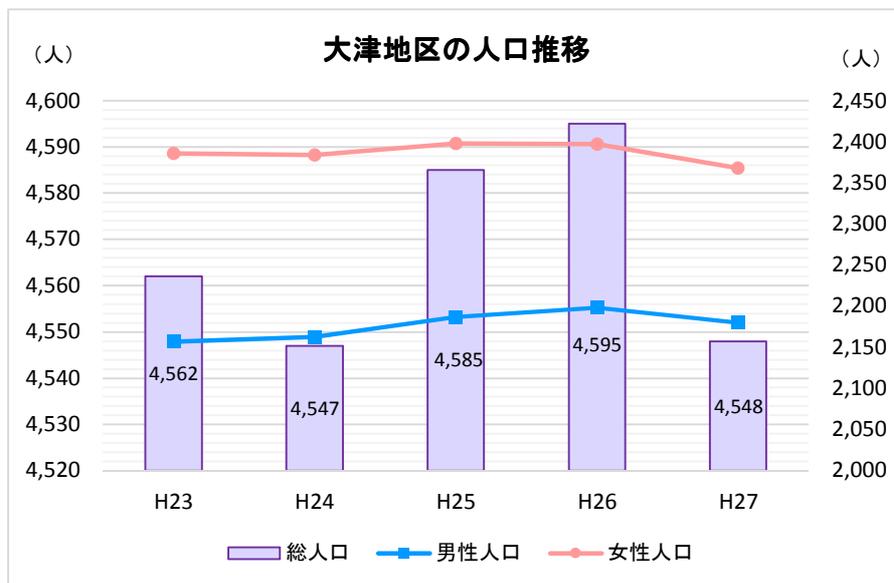
※各年 12 月 31 日現在

資料：島田市市民課「島田市の人口・世帯」

【大津地区】

100人以内で人口が増減を繰り返しており、総人口の増減に波が見られます。

世帯数は一貫して増加傾向にあります、これと反比例して世帯当たり人数は減少しています。



	総人口(人)	男性人口(人)	女性人口(人)	世帯数(世帯)	一世帯当たり人数(人)
H23	4,562	2,157	2,386	1,522	3.00
H24	4,547	2,163	2,384	1,546	2.94
H25	4,585	2,187	2,398	1,568	2.92
H26	4,595	2,198	2,397	1,594	2.88
H27	4,548	2,180	2,368	1,604	2.84

※各年 12 月 31 日現在

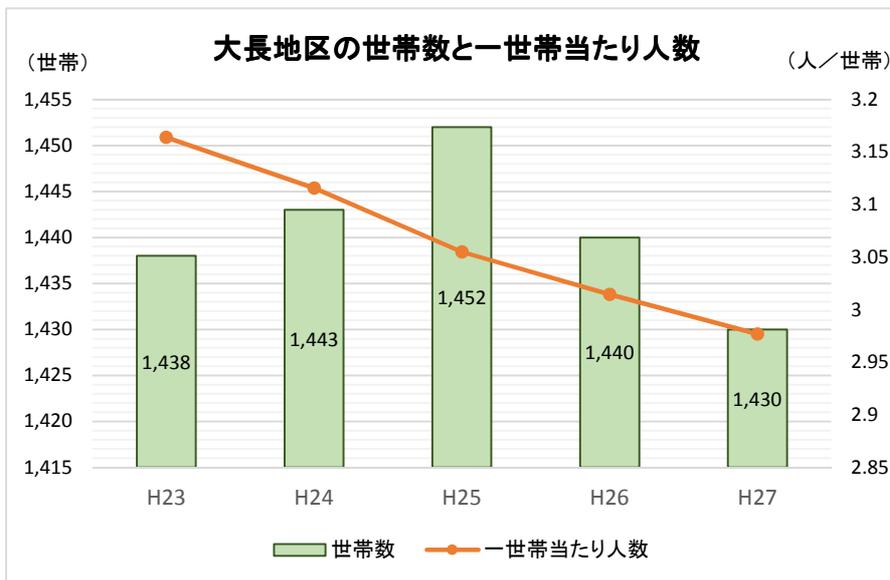
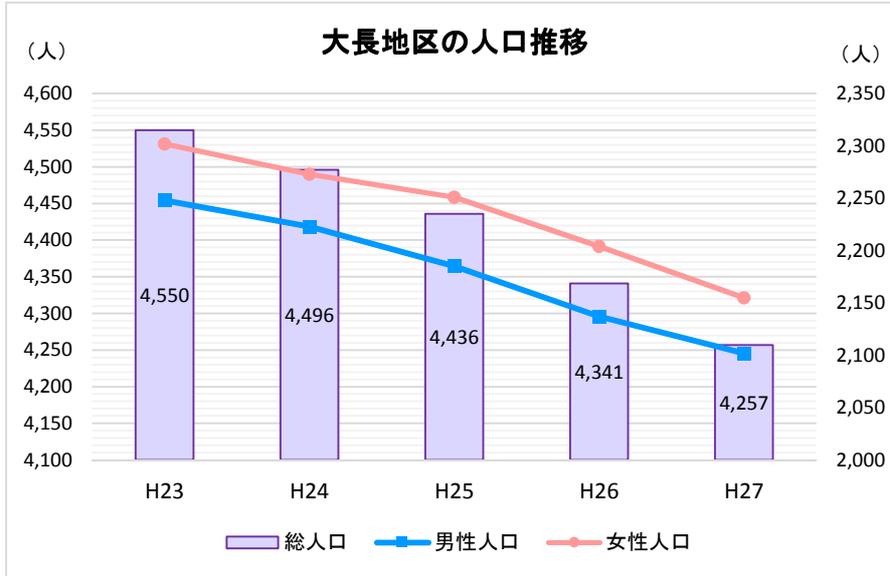
資料：島田市市民課「島田市の人口・世帯」

【大長地区】

人口は5年間通して減少傾向にあります。

世帯数は平成25年まで増加したのち、その後減少しています。

世帯当たり人数は一貫して減少傾向にあります。3人前後を維持しており、地区別では最も大きな値です。



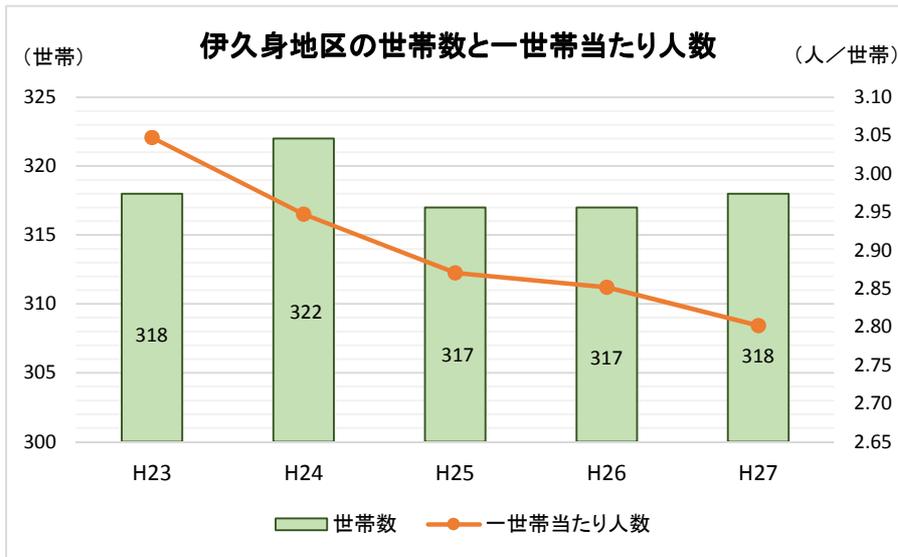
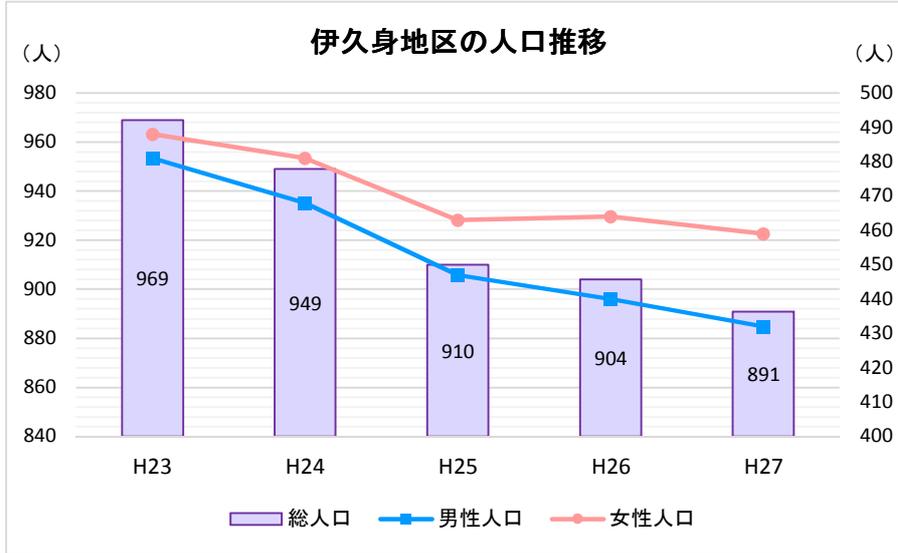
	総人口(人)	男性人口(人)	女性人口(人)	世帯数(世帯)	一世帯当たり人数(人)
H23	4,550	2,248	2,302	1,438	3.16
H24	4,496	2,223	2,273	1,443	3.12
H25	4,436	2,185	2,251	1,452	3.06
H26	4,341	2,137	2,204	1,440	3.01
H27	4,257	2,102	2,155	1,430	2.98

※各年12月31日現在

資料：島田市市民課「島田市の人口・世帯」

【伊久身地区】

島田市内で最も人口が少なく、総人口・世帯数ともに変化が少なくなっています。
特に世帯数は島田市内で最も少なく、5年間で5世帯のみの増減となっています。



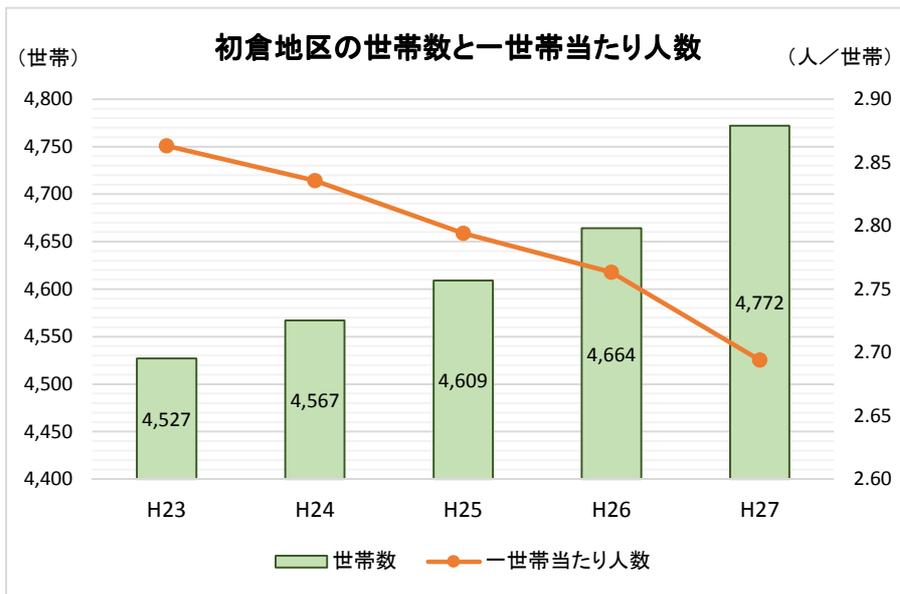
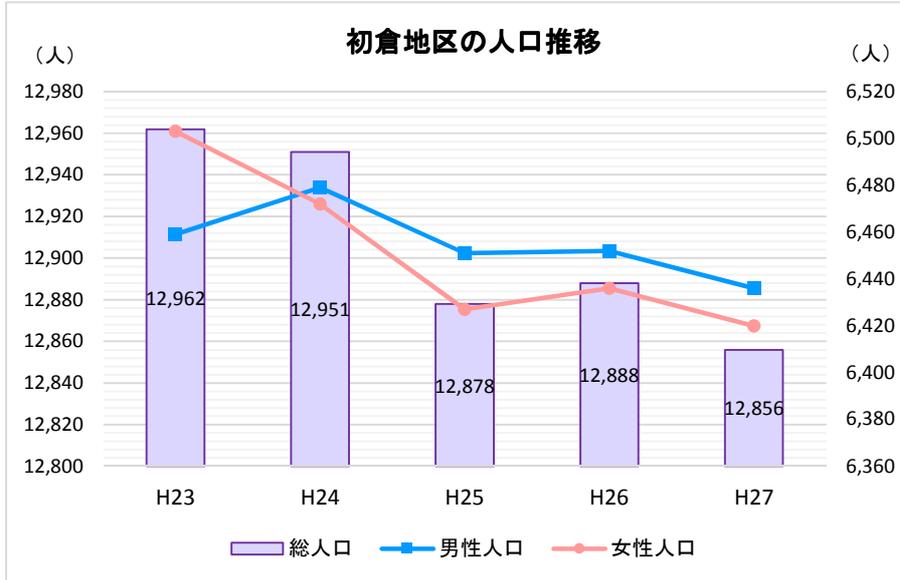
	総人口(人)	男性人口(人)	女性人口(人)	世帯数(世帯)	一世帯当たり人数(人)
H23	969	481	488	318	3.05
H24	949	468	481	322	2.95
H25	910	447	463	317	2.87
H26	904	440	464	317	2.85
H27	891	432	459	318	2.80

※各年 12月31日現在

資料：島田市市民課「島田市の人口・世帯」

【初倉地区】

平成 25 年度から人口の減少が大きくなり、特に女性人口が 5 年間で 80 人減少しています。
 平成 26 年から平成 27 年にかけて、世帯数が増加する一方、世帯当たり人数が減少しており、
 世帯の単独化が進行しています。



	総人口(人)	男性人口(人)	女性人口(人)	世帯数(世帯)	一世帯当たり人数(人)
H23	12,962	6,459	6,503	4,527	2.86
H24	12,951	6,479	6,472	4,567	2.84
H25	12,878	6,451	6,427	4,609	2.79
H26	12,888	6,452	6,436	4,664	2.76
H27	12,856	6,436	6,420	4,772	2.69

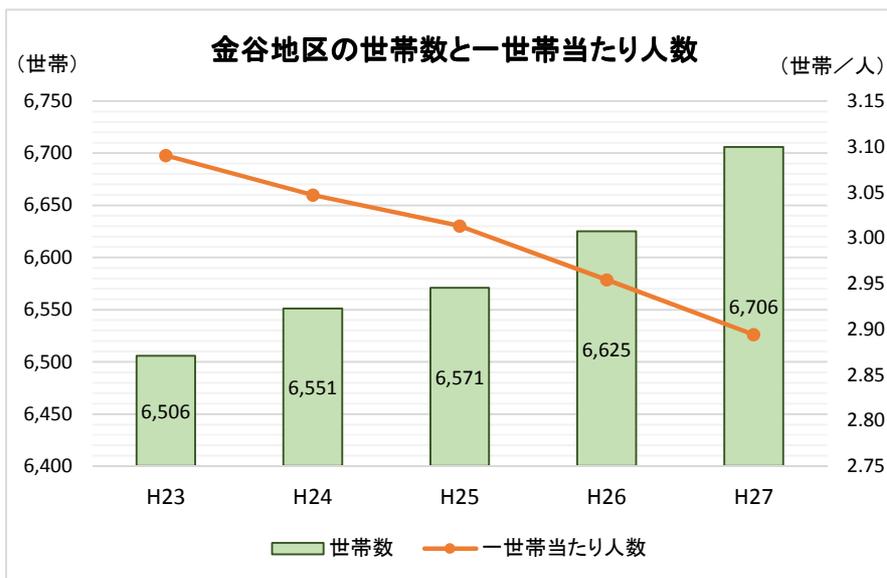
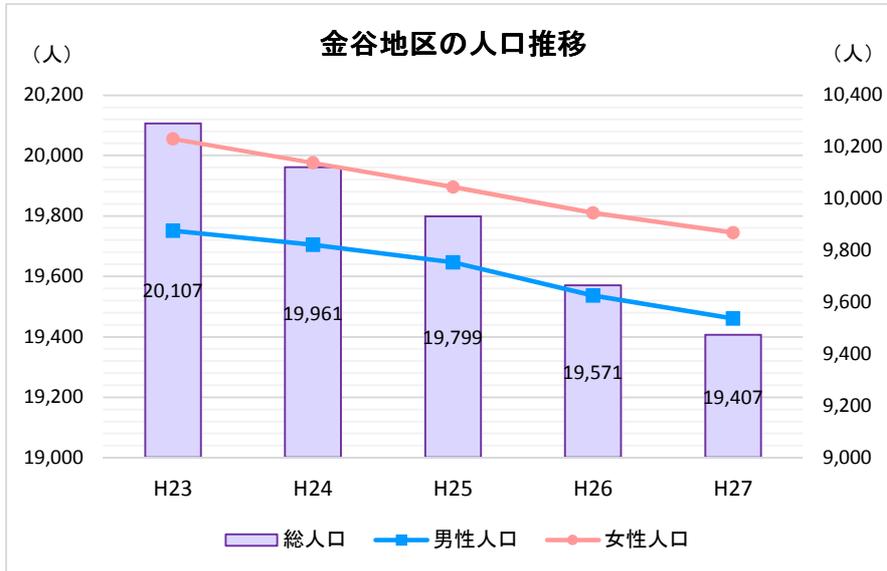
※各年 12 月 31 日現在

資料：島田市市民課「島田市の人口・世帯」

【金谷地区】

総人口が5年間で700人減少し、市内で最も減少しています。

世帯数は5年間で200世帯増加しており、自然減の影響が大きいものと考えられます。



	総人口(人)	男性人口(人)	女性人口(人)	世帯数(世帯)	一世帯当たり人数(人)
H23	20,107	9,876	10,231	6,506	3.09
H24	19,961	9,822	10,139	6,551	3.05
H25	19,799	9,754	10,045	6,571	3.01
H26	19,571	9,626	9,945	6,625	2.95
H27	19,407	9,538	9,869	6,706	2.89

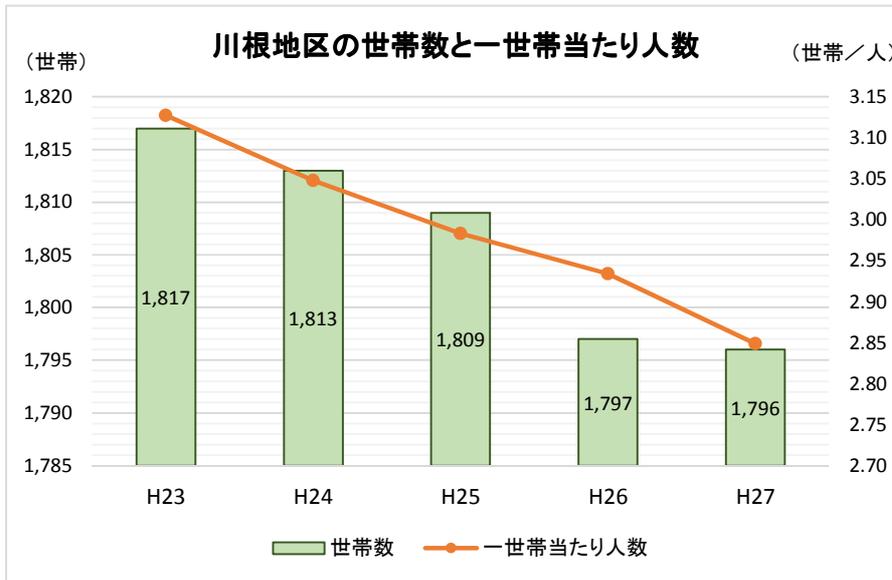
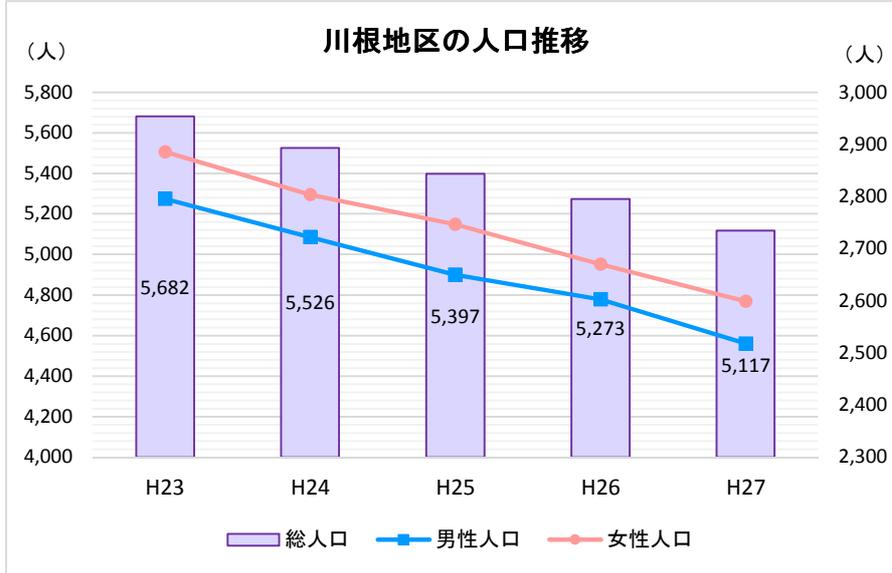
※各年 12月31日現在

資料：島田市市民課「島田市の人口・世帯」

【川根地区】

男女の人口減少幅がほぼ同一となっています。

世帯数が市内で唯一減少傾向にあり、世帯当たり人数も減少していることから、社会減少の影響が考えられます。



	総人口(人)	男性人口(人)	女性人口(人)	世帯数(世帯)	一世帯当たり人数(人)
H23	5,682	2,796	2,886	1,817	3.13
H24	5,526	2,722	2,804	1,813	3.05
H25	5,397	2,650	2,747	1,809	2.98
H26	5,273	2,603	2,670	1,797	2.93
H27	5,117	2,518	2,599	1,796	2.85

※各年 12 月 31 日現在

資料：島田市市民課「島田市の人口・世帯」

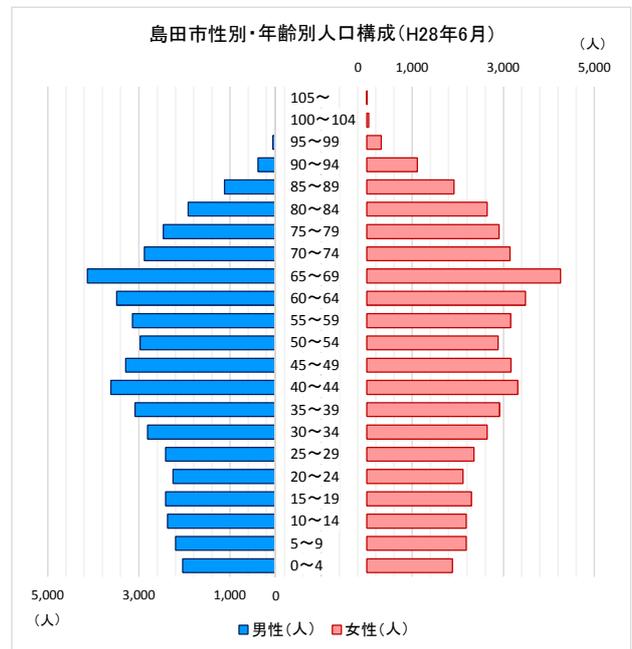
②年齢別人口

人口ピラミッドは年少人口が少なく高齢人口が多い「つぼ型」になっており、少子高齢化が進んでいます。

年齢別にみると、男女共に65～69歳の人口が最も多くなっています。また、0～34歳人口が全体と比較して少なく、若い子育て世代や子どもが減少していることが考えられます。

男女別にみると、年少人口～生産年齢人口まではほとんどの年代で男性の人数が女性の人数を上回っています。65歳以上の高齢人口になると、ほぼ全ての年代で女性の人数が男性の人数を上回り、75歳以上では女性の人数が男性の1.5倍となっています。

	年齢(歳)	男性(人)	女性(人)	計(人)
年少人口	0～4	2,038	1,878	3,916
	5～9	2,197	2,183	4,380
	10～14	2,373	2,184	4,557
生産年齢人口	15～19	2,414	2,295	4,709
	20～24	2,257	2,118	4,375
	25～29	2,417	2,359	4,776
	30～34	2,812	2,645	5,457
	35～39	3,089	2,919	6,008
	40～44	3,615	3,320	6,935
	45～49	3,294	3,167	6,461
	50～54	2,972	2,888	5,860
	55～59	3,139	3,162	6,301
	60～64	3,490	3,485	6,975
高齢人口	65～69	4,128	4,257	8,385
	70～74	2,882	3,150	6,032
	75～79	2,463	2,908	5,371
	80～84	1,920	2,648	4,568
	85～89	1,120	1,920	3,040
	90～94	390	1,111	1,501
	95～99	62	323	385
100～104	11	44	55	
105～	0	5	5	
計		49,083	50,969	100,052



※ 平成28年6月31日現在

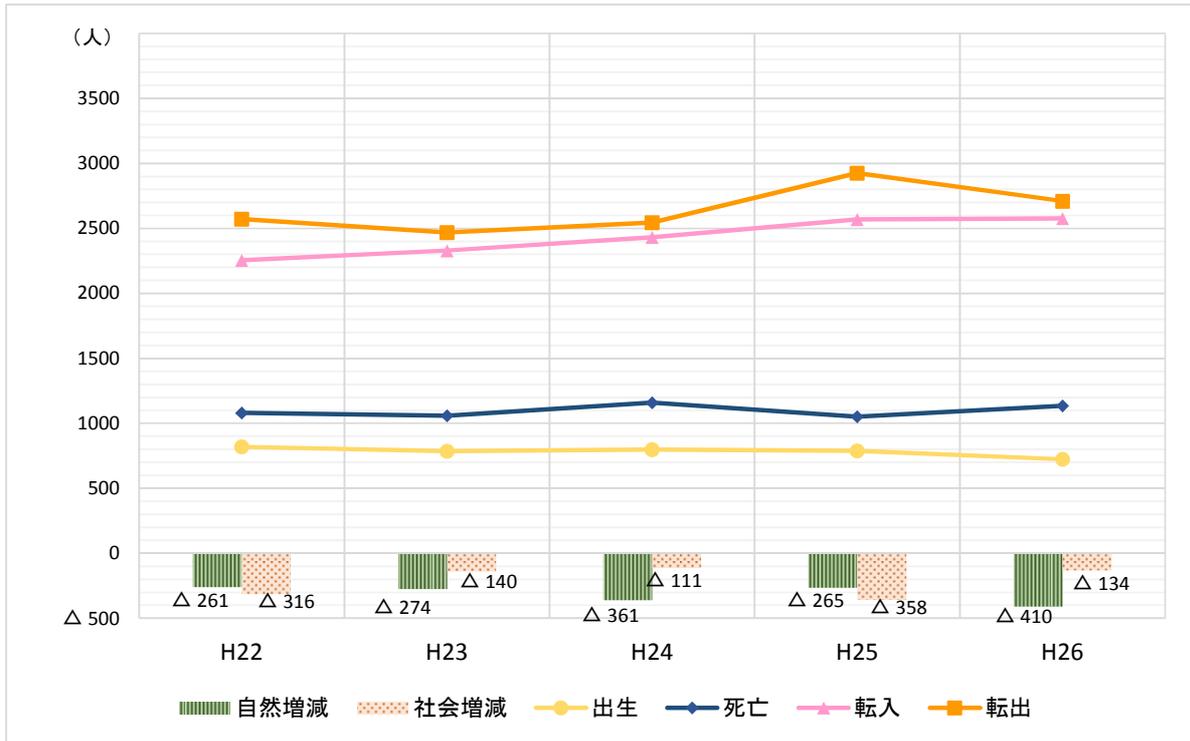
資料：島田市市民課「島田市の人口・世帯」(平成28年度)

③人口動態

島田市が1年に1回公表している「島田市統計書」によると、平成22年以降、島田市では自然動態、社会動態ともに減少傾向が続いています。

自然動態は、出生数がわずかに減少、死亡数が増減を繰り返しており、年度によって自然減の程度にばらつきがみられます。

社会動態は、一定して転出数が転入数を上回っていますが、平成22年以降、転入数は増加傾向にあります。転出数は平成26年に3年ぶりの減少となっています。



※各年1月1日～12月31日

資料：島田市「島田市統計書」(平成26年度)

④人口流動

国勢調査によると、平成 22 年における流出人口は 21,366 人、流入人口は 14,140 人で、流出超過となっています。平成 17 年と比較すると、流出人口は「通勤者」が 1,191 人増加し、「通学者」が 19 人減少しています。流入人口は、「通勤者」が 360 人減少し、「通学者」が 80 人減少しています。

昼間人口指数は平成 17 年と平成 22 年いずれも 100 を割っており、5 年間で 0.9 ポイント減少しています。

市町別にみると、藤枝市への流出・流入がいずれも最も多くなっています。そのほか、静岡市、焼津市、牧之原市、吉田町への流出入が多くなっています。

■流出入状況及び昼夜間人口

	流出人口			流入人口			夜間人口	昼間人口	昼間人口 指数
	総数	通勤者	通学者	総数	通勤者	通学者			
H17	20,194	17,819	2,375	14,620	12,640	1,980	96,078	90,582	94.3
H22	21,366	19,010	2,356	14,140	12,280	1,860	100,276	93,690	93.4

上位5市町	流出総数	通勤	通学	上位5市町	流入総数	通勤	通学
藤枝市	4,729	4,198	531	藤枝市	4,909	4,307	602
静岡市	3,960	3,292	668	焼津市	2,709	2,239	470
焼津市	2,800	2,567	233	吉田町	1,419	1,273	146
牧之原市	2,158	2,130	28	静岡市	1,250	1,168	82
吉田町	2,099	2,008	91	牧之原市	1,197	1,040	157

資料： 総務省「国勢調査」（平成 17 年度、平成 22 年度）

(2) 土地利用等の状況

- ①地目別土地利用 ● 山林が土地利用の半分近くを占めています。動向として規模は少ないながらも、山林や原野、田、畑の減少と宅地の増加が見られます。
- ②市街地整備・開発等の動向 ● 開発行為許可状況は、件数は少ないものの規模(面積)は上昇傾向にあります。
 - 大規模建築物等の届け出状況は、平成 26 年に大規模工作物等の届出が急増しています。
 - 新設住宅戸数は、全体として緩やかな減少傾向にあります。そのうち、貸家は減少し、分譲住宅はわずかに増加しています。
- ③交通基盤等の状況 ● 新東名高速道路や東海道本線など、東海・関東圏の地域をつなぐ交通網が横断していますが、広域公共交通の拠点は市域の南側に集中しています。また、南北には大井川鐵道大井川本線が通っています。
 - 鐵道の通っていない市域北側の地域では、J R 及び大井川鐵道の駅からコミュニティバスが通っています。
 - 市域の南側には富士山静岡空港があり、国内線・国際線が置かれています。島田駅からは直通バスが出ており、アクセスがしやすくなっています。

①地目別土地利用

島田市統計書によると、土地の地目別面積は山林が全体の半分近くを占めていますが、面積は年々減少傾向にあり、平成 22 年から平成 26 年の間に 1.3 km²減少しています。その他にも、原野、田、畑など自然的土地利用の減少が見られます。

宅地はわずかに増加傾向にあり、平成 22 年から平成 26 年の間に 0.38 km²増加しています。

■地目別土地利用面積の推移



- ※ 各年 1 月 1 日現在
 - ※ 「その他」には、道路敷・堤塘敷・墓地などが該当する
 - ※ 税務課「概要調書」（総評価面積＋非課税地籍）に基づく
- 資料：島田市統計書（平成 26 年度）

②市街地整備・開発等の動向

1) 土地区画整理事業

平成 26 年度現在の土地区画整理事業の施行状況は、実施済みが 11 か所、118.7ha であり、
 施工中が 1 か所（41ha）となっています。

■土地区画整理事業施行状況

区 分		施行済		施行中		合 計	
		個所	面積(ha)	個所	面積(ha)	個所	面積(ha)
旧都市計画法		—	—	—	—	—	—
土地 区 画 整 理 事 業	個人・共同施行	—	—	—	—	—	—
	組合施行	8	61.7	1	41.0	9	102.7
	公共団体施行	3	57.0	—	—	3	57.0
	行政庁施行	—	—	—	—	—	—
	公団施行	—	—	—	—	—	—
小 計		11	118.7	1	41.0	12	159.7
合 計		11	118.7	1	41.0	12	159.7

※平成 27 年 3 月 31 日現在

資料：島田市都市計画のあらまし

2) 市街地再開発事業

市内の市街地再開発事業については、2地区、1.5haが実施されています。

■市街地再開発事業

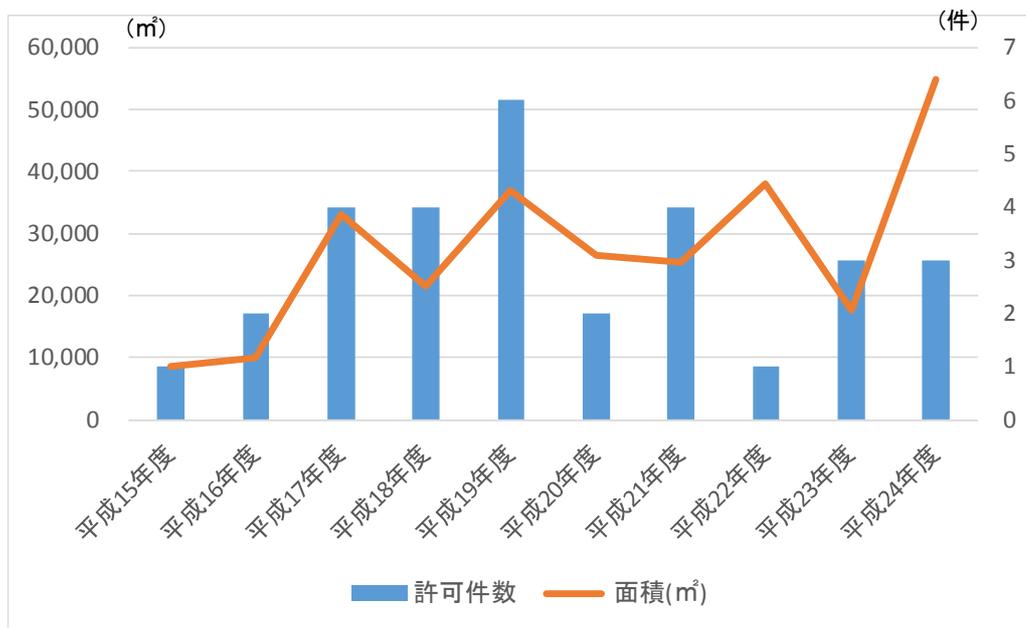
名 称	位 置	面 積	計画決定(変更)事由
本通五丁目地区 第一種 市街地再開発事業	本通五丁目	0.7ha	<p>決定 昭和52年1月11日 静岡県告示第23号 建築面積 3,910㎡ 延べ面積 20,170㎡ 建ぺい率 80% 容積率 400% 主要用途 全て商業店舗 建築・敷地面積 5,300㎡ 敷地内空地面積 1,400㎡</p> <p>変更 昭和52年12月27日 静岡県告示第1016号 建築面積変更(3,850㎡) 延べ面積変更(19,530㎡) 敷地内空地面積変更(1,500㎡)</p> <p>変更 平成17年10月28日 島田市告示第217号 ○名称変更(島田金谷広域都市計画を島田都市計画、本通り五丁目市街地再開発事業(第一種)を本通五丁目地区第一種市街地再開発事業)</p> <p>廃止 平成26年3月24日 島田市告示第39号</p>
本通三丁目地区 第一種 市街地再開発事業	本通三丁目	0.6ha	<p>決定 平成13年10月25日 島田市告示第138号 主要用途 店舗・住宅・公共公益施設・駐車場 建築敷地面積 約4,100㎡ 住宅建設の目標 約50戸</p> <p>変更 平成17年10月28日 島田市告示第217号 ○名称変更(島田金谷広域都市計画を島田都市計画)</p>

資料：島田市都市計画のあらまし

3) 開発行為許可状況

開発行為の許可件数及び面積についてみると、各年度とも件数は10件に満たない状況ですが、面積は上昇傾向にあります。

■開発行為の許可件数及び面積の推移



資料：島田市都市計画のあらまし

4) 大規模建築物等の届出状況

景観まちづくりに掛る一定規模以上の大規模建築物の届出状況についてみると、下表のとおりであり、ここ数年合わせて20～30件程度であったものが、平成26年度では工作物等の関係で件数が58件に増加しています。

年度	大規模建築物等		重点地区		合計
	建築物	工作物等	建築物	工作物等	
平成23年度	18	21	0	0	39
平成24年度	8	15	0	0	23
平成25年度	20	12	0	0	32
平成26年度	17	40	1	0	58

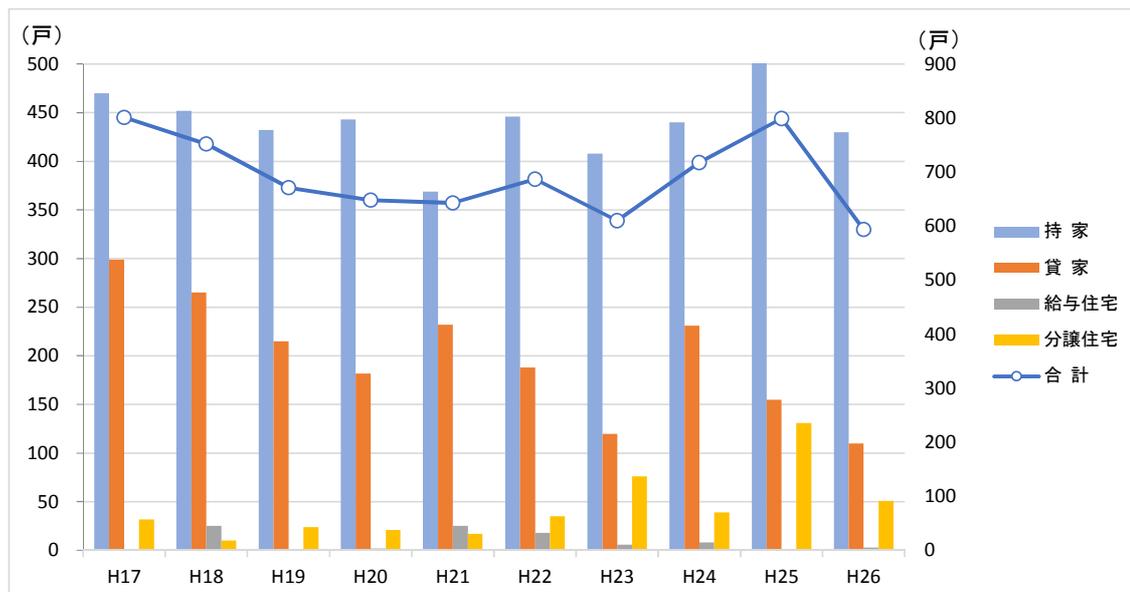
資料 平成25年12月以前は島田市景観形成指導要綱（平成25年12月31日廃止）による届出件数
平成26年1月以降は島田市景観条例（平成26年1月1日施行）による届出件数

5) 新設住宅戸数

新設住宅戸数の推移をみると、平成24年～25年にかけて伸びがみられましたが、この10年間で通してみると、全体としては緩やかな減少傾向となっています。

所有関係別では、平成17年～26年のいずれの年代でも持家が最も多く、全体に占める割合も50%を超えています。また、貸家は10年間で全体としては減少傾向にある一方で、分譲住宅はわずかながら増加傾向にあります。

■所有関係別新設住宅戸数の推移



資料：静岡県住宅行政概要等（住宅着工統計）

③交通基盤等の状況

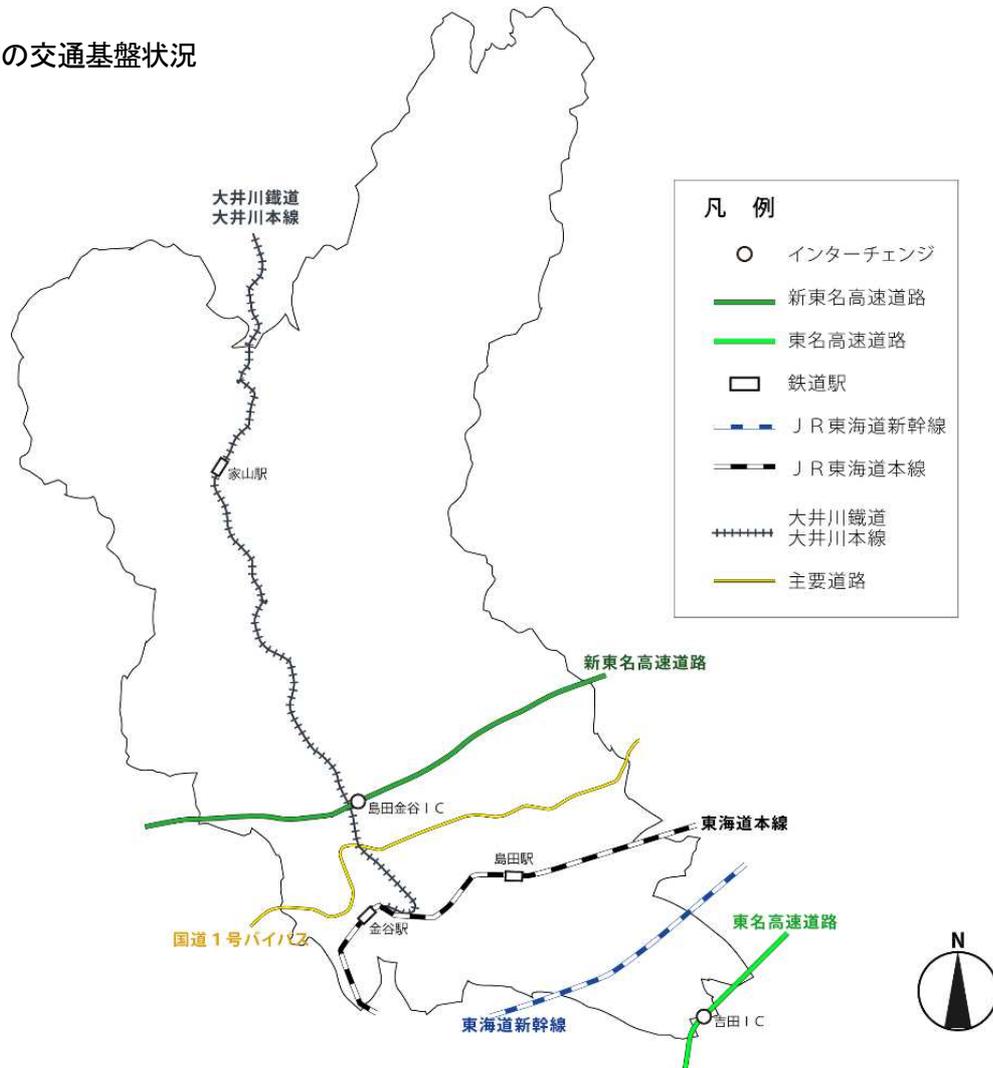
1) 市内都市交通

本市には市域の南端を東西方向に東名高速道路が通り、吉田町との県境付近に吉田インターチェンジが設置されています。市域の中央やや南寄りには東西方向に新東名高速道路が通り、中央部には島田金谷インターチェンジが設置されています。また、新東名高速道路の南側には国道1号が通っています。

鉄道は、国道1号と東名高速道路の間にJ R 東海道本線とJ R 東海道新幹線が通っています。在来線には島田駅と金谷駅の2つの駅を有しています。また、県の中心部には、大井川に沿うようにして南北方向に大井川鐵道大井川本線が通り、金谷駅、新金谷駅、代官町駅、日切駅、五和駅、神尾駅、福用駅、大和田駅、家山駅、抜里駅、川根温泉笹間渡駅の11駅が置かれています。

市内を運行するコミュニティバスについては、島田市自主運行路線とせずつつジャストライン運行路線があります。

■市内の交通基盤状況



※ 平成28年度現在

※ 大井川鐵道大井川線の駅は一部省略

資料：島田市都市マスタープラン

国土交通省「国土地理院 地理院地図」より作成

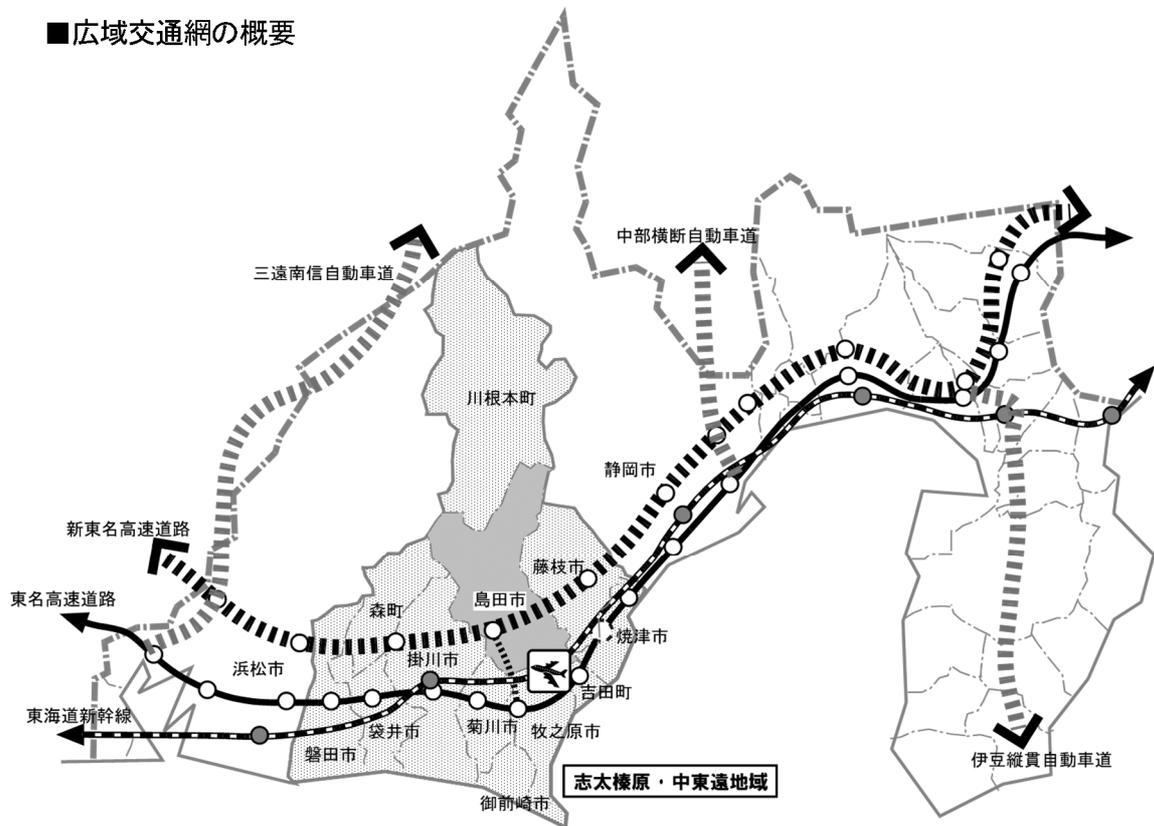
2) 広域交通網

東名高速道路は、小牧 I C～東京 I Cをつなぐ約 350km の高速道路で、静岡県東部地域や名古屋圏内への車でのアクセスを容易にしています。また、浜松いなさ J C Tからは三遠南信自動車道により長野方面へのアクセスも可能となっています。

平成 24 年 4 月に開通した新東名高速道路は、予定路線延長が約 250km と東名高速道路よりも短く、新名神高速道路とともに関東圏・中部圏・関西圏の連携を強化する交通網として整備が進んでいます。

市域の南端、牧之原市との県境付近には、富士山静岡空港が置かれ、国内線では札幌（新千歳）、福岡、鹿児島、沖縄を、国際線では台湾（台北）や中国（上海、寧波など）をつないでいます。島田駅からは、しずてつジャストラインより富士山静岡空港へのバスが出ており、県内でも空港へのアクセスが良い地域となっています。

■広域交通網の概要



(3) 計画主分野に関する状況

①まちの活力

- 産業については全体的には減少傾向にありますが、第3次産業のみ増加傾向にあります。
- 工業については、製造品出荷額等は減少傾向にあるものの、1事業者当たりあるいは1従業員当たりの製造品出荷額等は10年前に比べて増加しています
- 商業については工業と同様、1事業者当たりあるいは1従業員当たりの年間販売額が増加しています。特に卸売業は、15年前に比べて1.5倍程度の増加が見られます。
- 農家数は年々減少傾向にあり、現在は20年前の2分の1以下になっています。

②福祉・医療

- 近年、幼稚園児数はやや減少傾向、保育園児数はやや増加傾向にあります。
- 国民年金の受給額は年々増加しており、8割以上が老齢給付となっています。また、要介護認定数も急速に増加が進んでいます。
- 医療従事者は、一定の数が保たれています。

③生活環境

- ごみの収集量はわずかに減少傾向にあります。
- 救急発生状況はほぼ横ばいとなっています。
- 交通事故件数は、近年減少傾向にありますが、国道・主要地方道・県道以外の道での発生件数が多くなっています。

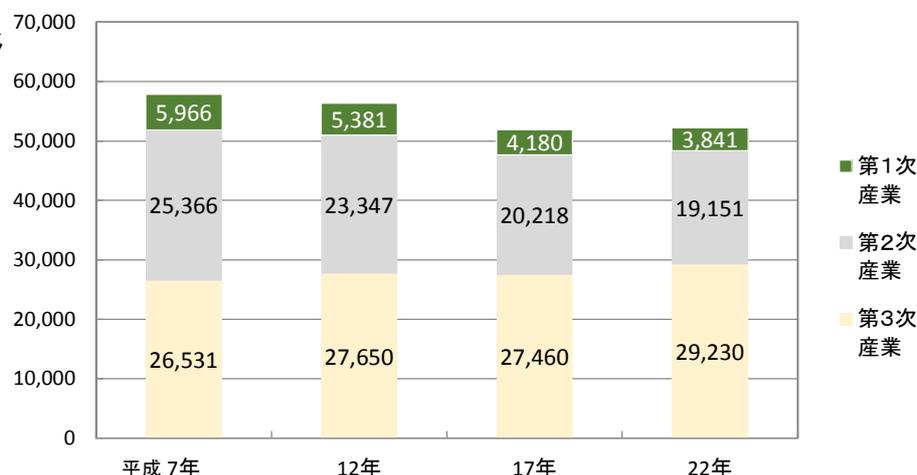
①まちの活力

1) 産業別就業者

国勢調査によると、平成22年10月1日現在の就業者数は52,222人で、産業大分類別に見ると第3次産業就業者が最も多く、全就業者の56.0%にあたる29,230人となっています。

就業者人口は、平成7年～17年までは減少傾向にありましたが、平成22年は増加に転じています。この増加は第3次産業が平成17年～22年で大きく増加したことが影響しており、第1次産業と第2次産業は減少が続いています。

■産業別就業者の推移 〈単位：人〉



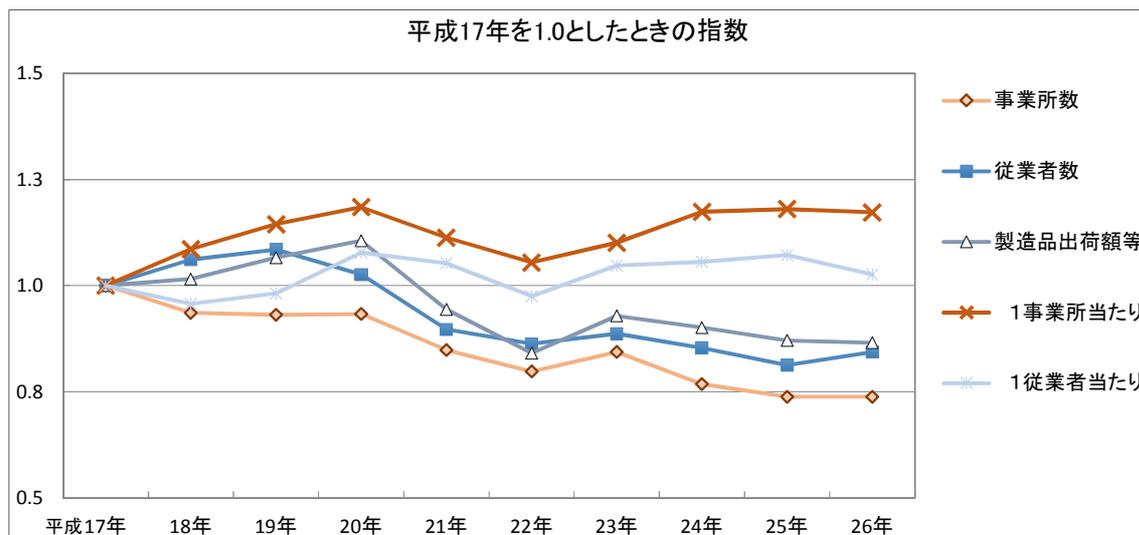
※各年10月1日現在 資料：国勢調査

2) 工業

工業統計調査によると、平成 26 年時点の事業所数は 321 か所、従業者数は 10,243 人、製造品出荷額等は 3,002 億 6,151 万円となっています。

平成 17 年時の値を 1.00 として、各年の推移を比較してみると、事業所数及び従業者数は減少傾向にありますが、1 事業所当たり製造品出荷額等は増加傾向にあります。また、平成 20 年以降、増加傾向にあった製造品出荷額等は減少に転じています。

■工業の状況



■工業の状況 (実数 人・万円)

	平成17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年	24年	25年	26年
事業所数	435	407	405	406	369	347	367	334	321	321
従業者数	12,145	12,891	13,181	12,465	10,894	10,480	10,769	10,368	9,868	10,243
製造品出荷額等	34,696,018	35,244,307	36,978,443	38,376,310	32,757,900	29,187,475	32,227,455	31,280,958	30,224,828	30,026,151
1事業所当たり	79,761	86,595	91,305	94,523	88,775	84,114	87,813	93,656	94,158	93,539
1従業者当たり	2,857	2,734	2,805	3,079	3,007	2,785	2,993	3,017	3,063	2,931

※平成 23 年以外は各年 12 月 31 日現在

※平成 23 年は平成 24 年 2 月 1 日に実施した「経済センサスー活動調査」の製造業に関する調査事項にて把握資料：経済産業省「工業統計調査」

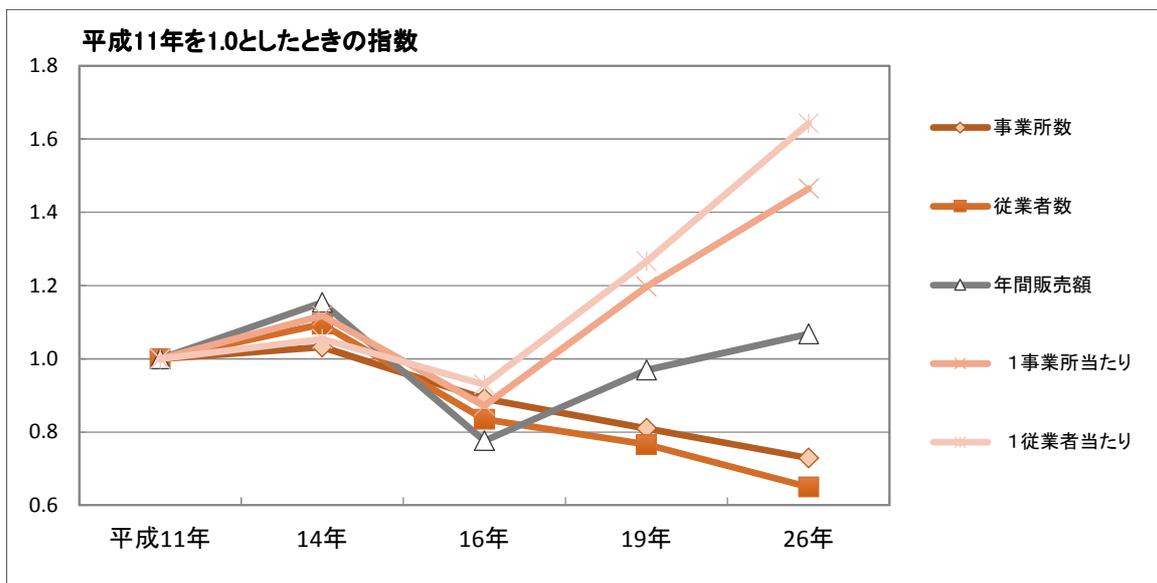
3) 商業

<卸売業>

商業統計調査によると、平成26年時点の卸売業に関する事業所数は180事務所、従業者数は1,083人、年間販売額は672億6,774万円となっています。

平成11年との比較では、1事業所当たり年間販売額及び1従業員当たりの年間販売数は、平成16年度以降大きく増加しています。一方、事業所数と従業者数についてみると平成16年度以降、低下してきています。

■商業の状況（卸売業）



■商業の状況（卸売業）（実数 人・万円）

	平成11年	14年	16年	19年	26年
事業所数	247	255	220	200	180
従業者数	1,666	1,823	1,391	1,276	1,083
年間販売額	6,301,002	7,269,645	4,891,592	6,107,677	6,726,774
1事業所当たり	25,510	28,508	22,235	30,538	37,371
1従業員当たり	3,782	3,988	3,517	4,787	6,211

※各年7月1日現在

※平成16年は簡易調査

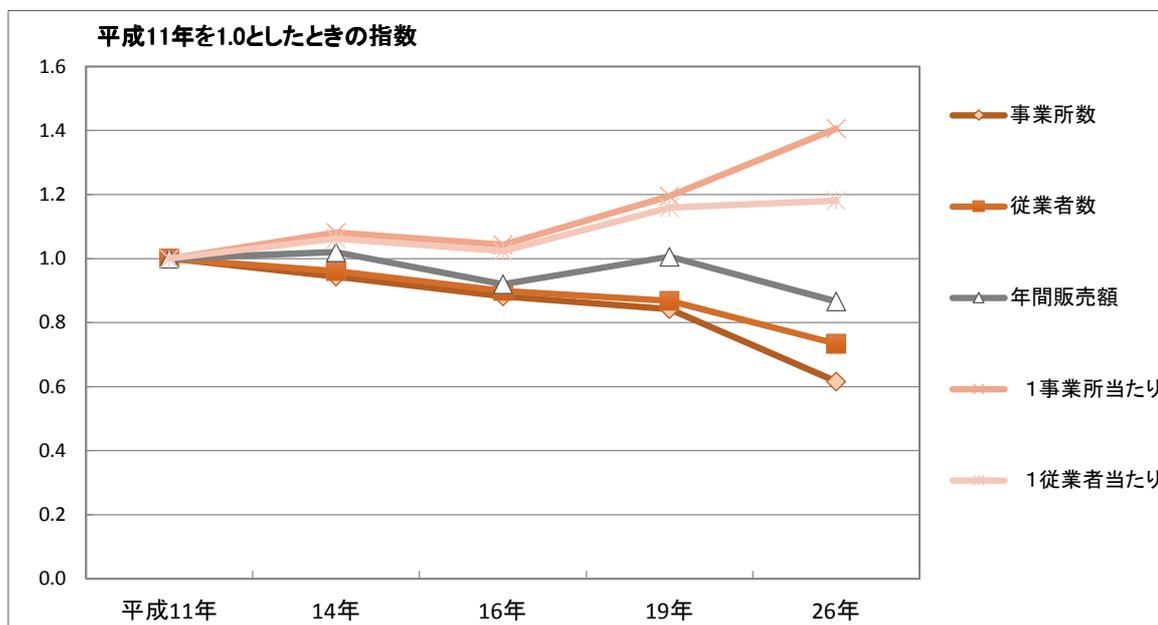
資料：経済産業省「商業統計調査」

<小売業>

平成 26 年時点の小売業に関する事務所数は 779 事務所、従業者数は 4,820 人、年間販売額」は 8,69 億 1,470 万円となっています。

平成 11 年と比べると、1 事業所当たりの年間販売額及び 1 従業者当たりの年間販売額は増加を続けています。一方で、事務所数及び従業者数は平成 11 年以降、平成 26 年までの調査結果においていずれも平成 11 年度の数値を下回っています。

■商業の状況（小売業）



■商業の状況（小売業）（実数 人・万円）

	平成11年	14年	16年	19年	26年
事業所数	1,264	1,193	1,115	1,064	779
従業者数	6,569	6,314	5,906	5,703	4,820
年間販売額	10,033,944	10,236,950	9,230,599	10,095,948	8,691,470
1事業所当たり	7,938	8,581	8,279	9,489	11,157
1従業者当たり	1,527	1,621	1,563	1,770	1,803

※各年 7 月 1 日現在

※平成 16 年は簡易調査

資料：経済産業省「商業統計調査」

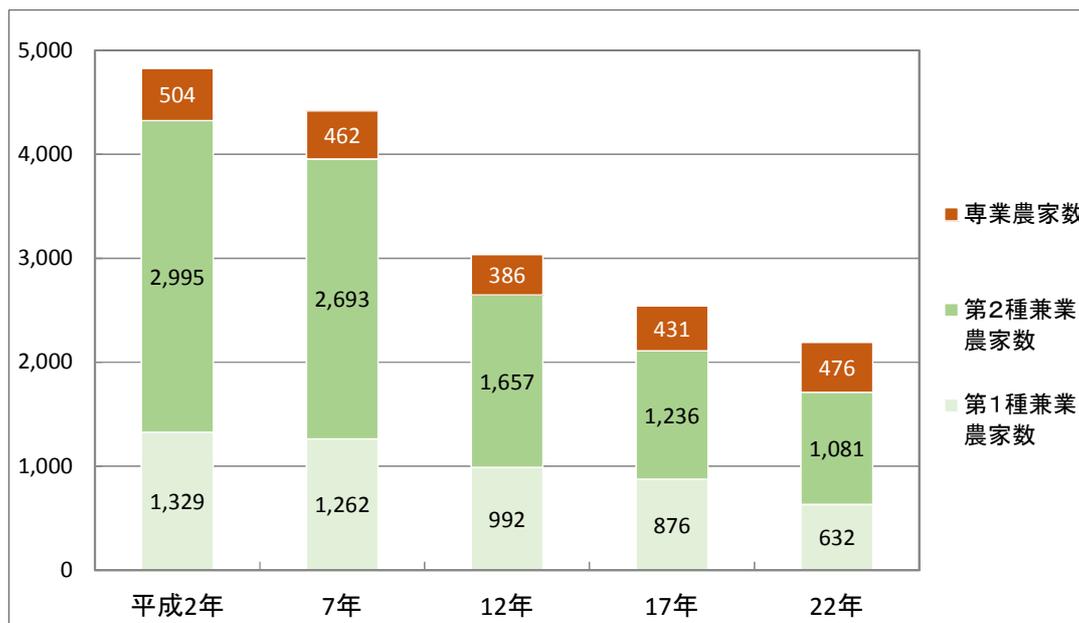
4) 農業

農林業センサスによると、平成 22 年時点の農家数は 2,189 戸となっています。

専業・兼業別でみると、平成 22 年時点では「第 2 種兼業農家数」が 1,081 戸で最も多くなっていますが、平成 2 年（2,995 戸）から 63.9%減少しています。一方で、平成 2 年以降減少傾向にあった「専業農家数」は、平成 22 年に増加に転じています。

■専業・兼業別農家数の推移

〈単位：戸〉



※各年 2 月 1 日現在

資料：農林水産省「農林業センサス」

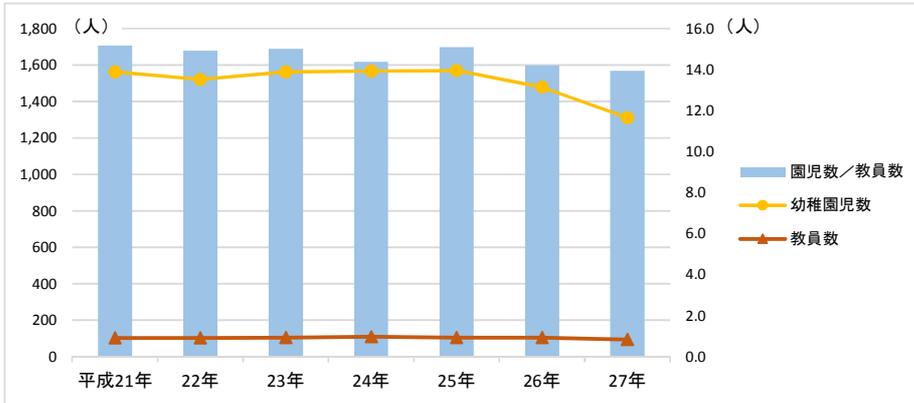
②福祉・医療

1) 幼児教育

<幼稚園>

静岡県が毎年実施している学校基本調査によると、平成27年の「幼稚園園児数」は1,310人と、平成21年から252人減少しています。

■幼稚園の園児数及び教員数の推移



■幼稚園の園児及び教員数（単位：人）

	平成21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年
幼稚園園児数	1,563	1,522	1,563	1,567	1,570	1,478	1,310
教員数	103	102	104	109	104	104	94
園児数/教員数	15.2	14.9	15.0	14.4	15.1	14.2	13.9

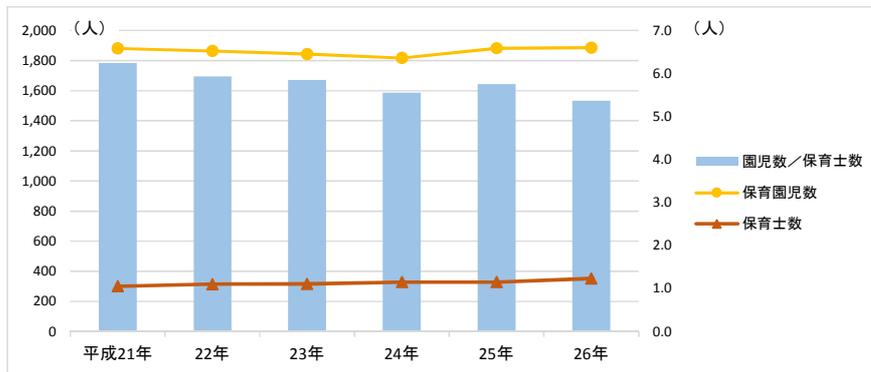
※各年5月1日現在

資料：静岡県統計調査課「学校基本調査」

<保育園>

保育園児数についてみると、平成24年まで減少傾向にありましたが、平成25年以降増加に転じています。「保育士数」は平成21年以降増加傾向にあります。

■保育園の園児数及び教員数の推移



■幼稚園の園児及び教員数（単位：人）

	平成21年	22年	23年	24年	25年	26年
保育園園児数	1,881	1,864	1,843	1,817	1,882	1,886
保育士数	301	314	315	327	327	351
園児数/保育士数	6.2	5.9	5.9	5.6	5.8	5.4

※各年12月1日現在

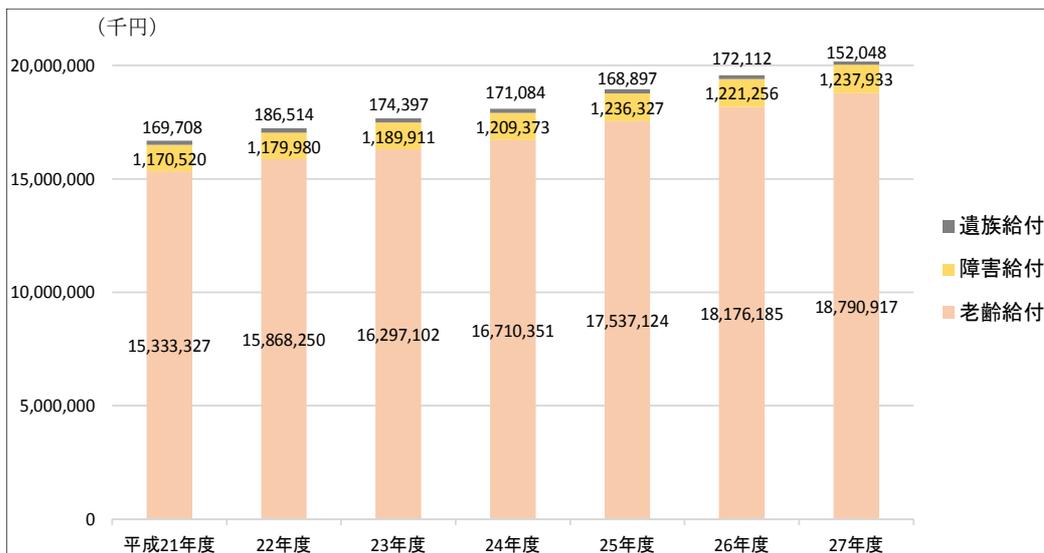
資料：島田市統計書「社会福祉」平成26年

2) 高齢・障害者福祉

<国民年金>

平成27年の国民年金の受給額は、老齢給付が最も多く187億9,091円7千円で、その額は平成21年度以降増加しています。

■国民年金受給額の推移



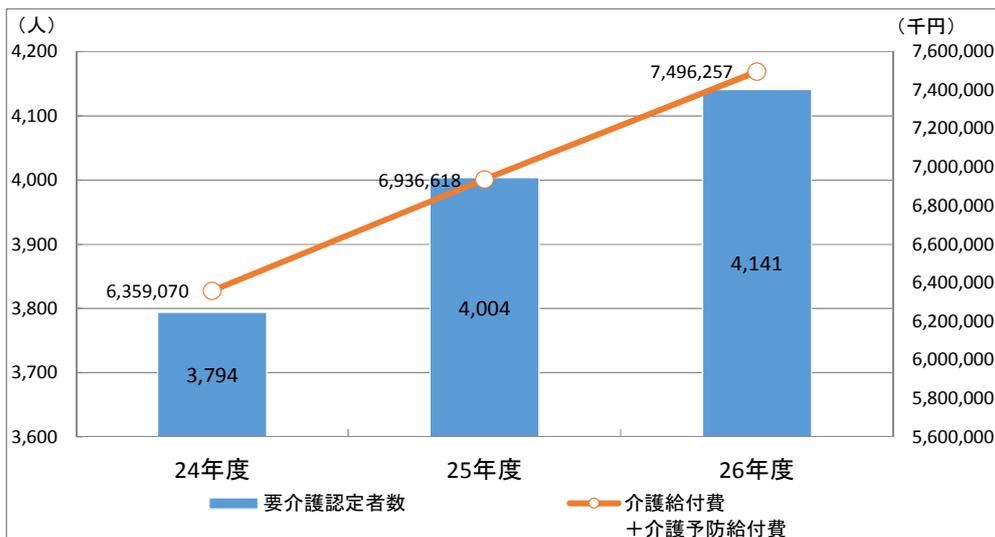
※各年3月現在

資料：厚生労働省「厚生年金保険・国民年金事業況（事業月報）」

<介護保険>

要介護認定者は、平成26年度は4,141人と、前年から137人増加しています。介護給付金と介護予防給付金の総数も、近年増加傾向にあります。

■要介護認定者及び介護保険の状況



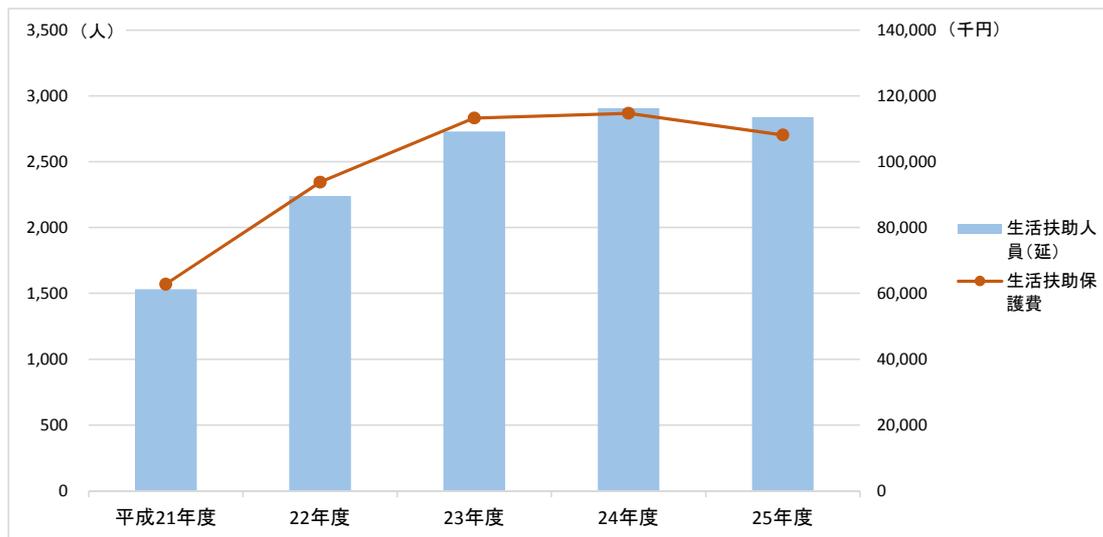
資料：島田市統計書「社会福祉」

3) 社会保障

<生活保護>

生活扶助保護費は、平成 21 年度以降増加傾向にありましたが、平成 25 年は 1 億 893 万 3 千円と前年度から 661 万 9 千円減少しています。生活扶助人員（延）も平成 21～24 年度までは増加傾向にありましたが、平成 25 年は前年度から 70 人減少しています。

■生活扶助保護費・生活扶助人員（延）の推移



■生活扶助保護費・生活扶助人員（延）数 (単位：人・千円)

	平成21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
生活扶助人員(延)	1,531	2,238	2,729	2,908	2,838
生活扶助保護費	62,818	93,828	113,306	114,712	108,093

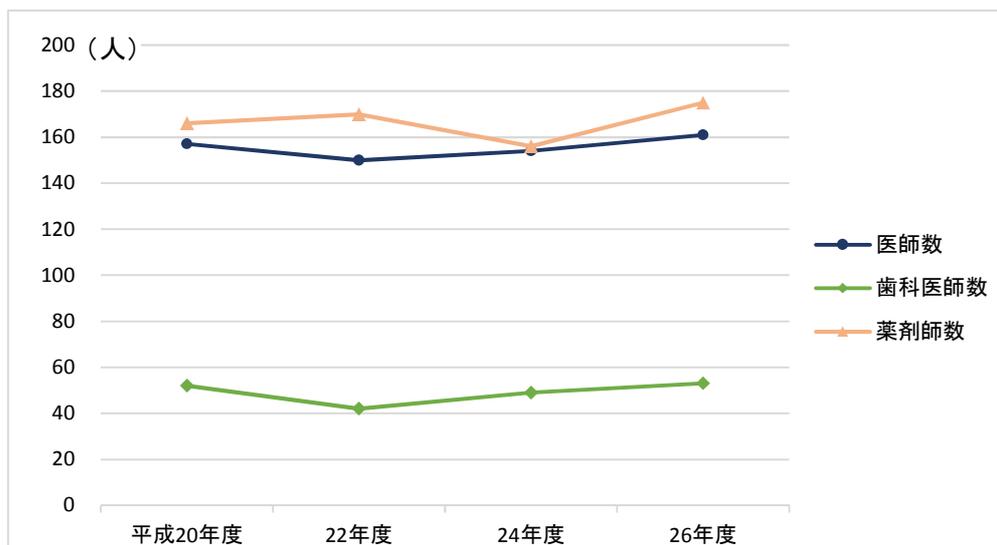
資料：島田市統計書「社会福祉」平成 26 年

4) 医療

<医療従事者数>

医師数、歯科医師数、薬剤師数はいずれもほぼ横ばいとなっています。平成26年度と平成20年度を比較すると、全ての項目で僅かに増加がみられます。

■医師数・歯科医師数・薬剤師数の推移



■医師数・歯科医師数・薬剤師数〈単位：人〉

	平成20年度	22年度	24年度	26年度
医師数	157	150	154	161
歯科医師数	52	42	49	53
薬剤師数	166	170	156	175

※各年12月31日現在

資料：厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師調査」

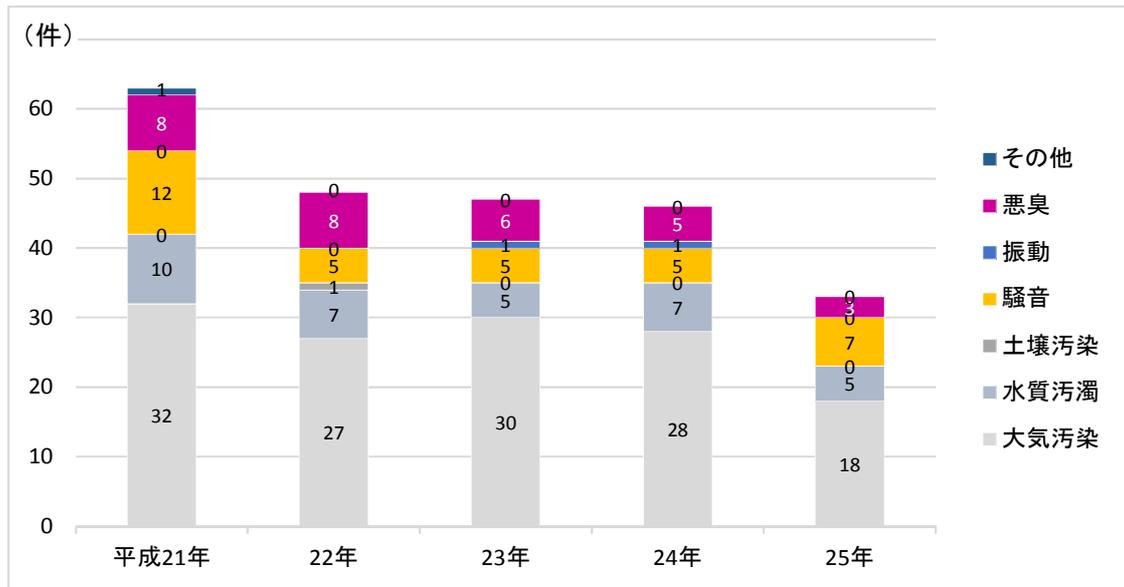
③生活環境

1) 公衆衛生の状況

<公害>

公害苦情受理件数をみると、平成 25 年で最も多かったのは大気汚染（18 件）、次いで騒音（7 件）となっています。全体の件数としては減少傾向にあります。

■ 公害苦情受理件数の推移



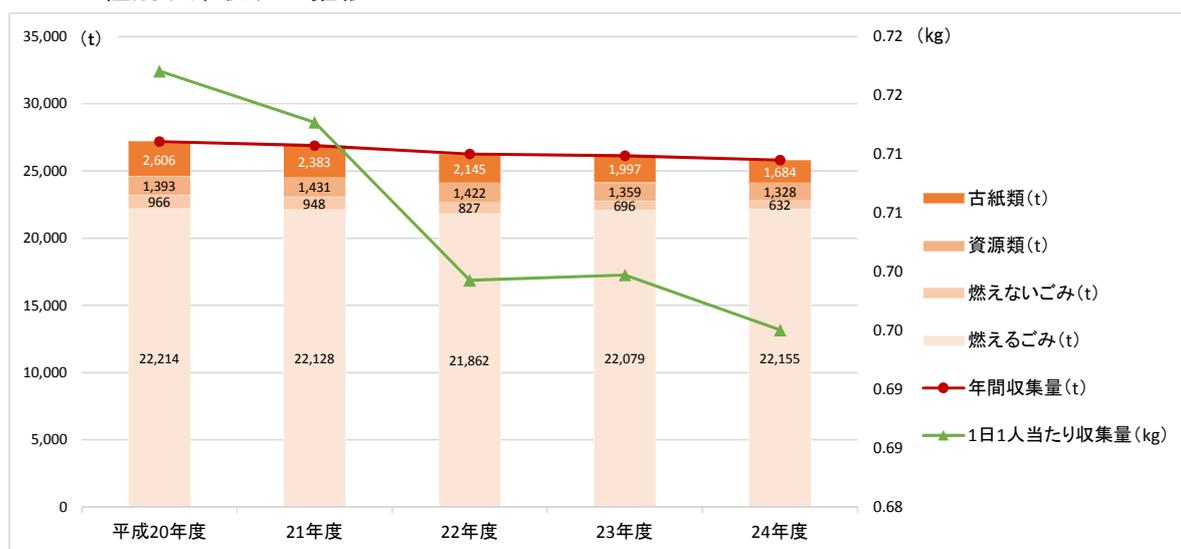
資料：島田市統計書「市民生活」平成 26 年

<ごみ処理>

平成 20～24 年のごみ収集量を種別にみると、燃えるごみが最も多く、平成 24 年度は 2 億 2,155 万 t となっています。年間収集量は減少傾向にあり、特に、燃えないごみは平成 24 年度で 632t と、平成 20 年度から 334t 減少しています。

1 日 1 人当たり収集量は、平成 24 年度で約 0.70kg と、平成 20 年度以降の 5 年間で最も少なくなっています。

■ ごみ種別収集状況の推移



■ ごみ種別収集状況

	平成20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
燃えるごみ(t)	22,214	22,128	21,862	22,079	22,155
燃えないごみ(t)	966	948	827	696	632
資源類(t)	1,393	1,431	1,422	1,359	1,328
古紙類(t)	2,606	2,383	2,145	1,997	1,684
年間収集量(t)	27,179	26,890	26,256	26,131	25,799
対象人口(人)	103,844	103,367	102,870	102,313	101,693
1日1人当たり収集量(kg)	0.72	0.71	0.70	0.70	0.70

※ 1 日 1 人当たり収集量 (kg) = 年間収集量 (kg) ÷ 対象人口 (人) ÷ 365 (日)

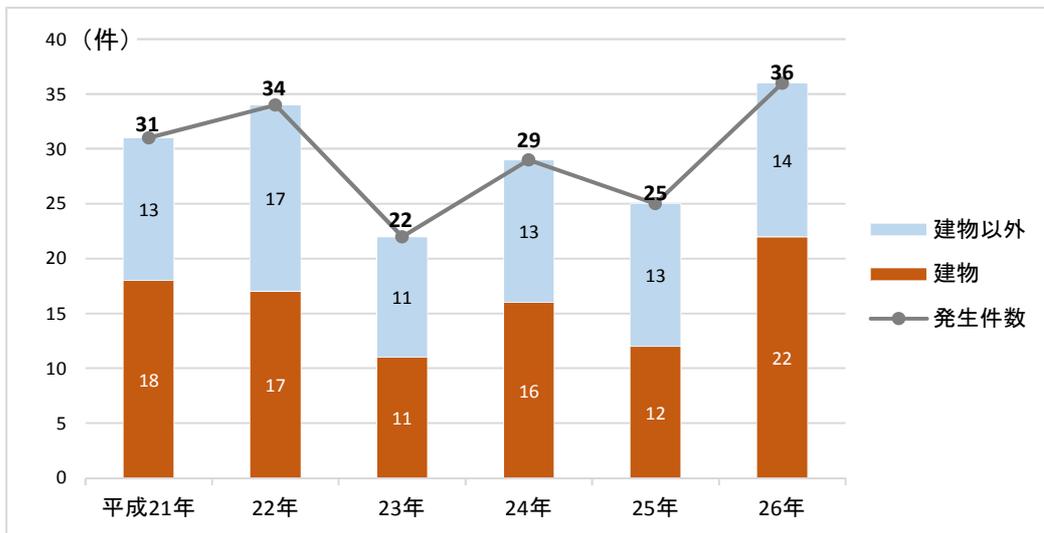
資料：島田市統計書「市民生活」平成 26 年

2) 消防・救急

<火災発生件数>

平成 26 年の火災発生件数は 36 件と、前年から 11 件増加し、特に「建物」の火災発生が 10 件と大きく増加しています。火災発生件数全体は、平成 21～26 年で増減を繰り返しています。

■火災発生件数の推移

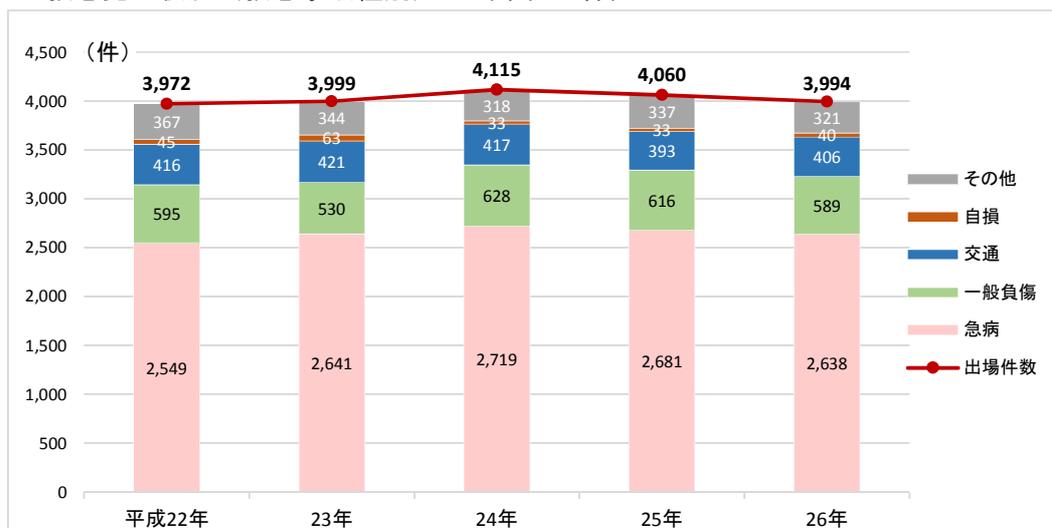


資料：危機管理課「島田市消防本部火災・救急・救助統計」

<救急>

救急発生状況を見ると、平成 26 年は出動件数が 3,994 件で、そのうち、急病が 2,638 件と最も多くなっており、次いで一般負傷、交通が多くなっています。出場件数全体の推移は平成 22～26 年に、4,000 件前後で推移しています。

■救急発生状況（救急事故種別） 〈単位：件〉



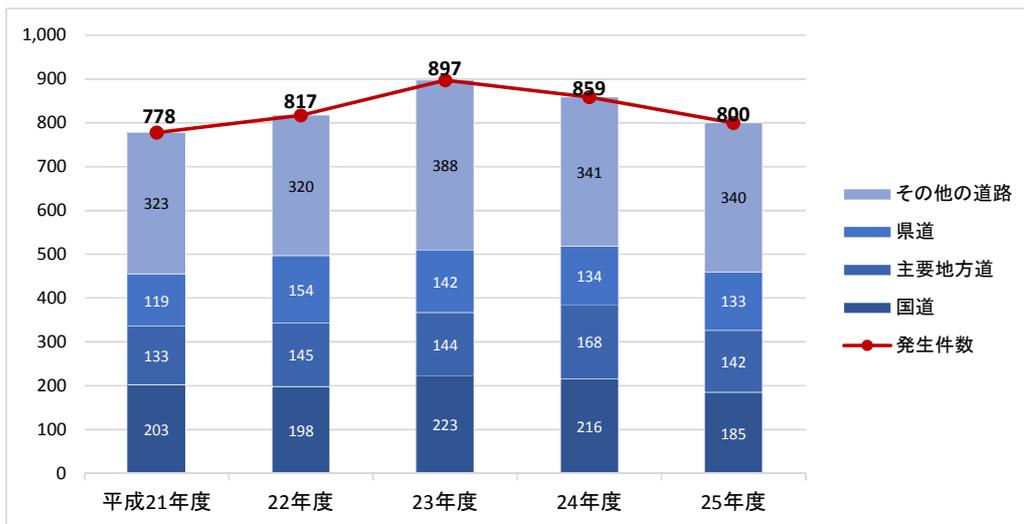
資料：危機管理課「消防年報」

3) 交通事故

平成 21～25 年度の交通事故発生件数（人身事故のみ、管内）の推移をみると、発生件数は平成 23 年度の 897 年をピークとして、近年は減少傾向にあります。

発生場所別でみると、国道、主要地方道、県道以外の、その他の道路での発生件数が最も多く、平成 25 年度では 340 件となっています。また、平成 24 年度までは国道での交通事故も多く発生していましたが、平成 25 年度には 185 件と、前年度から 31 件減少しています。

■交通事故発生件数（人身事故のみ、管内）の推移（単位：件）



■交通事故発生件数（人身事故のみ、管内）

		平成21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
国道	国道1号	148	151	164	147	128
	国道362号	12	14	19	21	11
	国道473号	43	33	40	48	46
主要地方道	島田吉田線	79	91	101	111	85
	川根島田線	54	54	43	57	57
県道	その他主要地方道	30	37	26	15	30
	島田金谷線	60	64	70	77	69
	その他	29	53	46	42	34
その他の道路		323	320	388	341	340
発生件数		778	817	897	859	800

資料：島田市統計書「警察・消防」平成 26 年

(4) 他都市比較

- ・静岡県内市部における「島田市の位置（ポジショニング）」を確認します。

①人口関連

- 「65歳以上人口」の対総人口比は、県内23市中6番目に高くなっています。
- 世帯当たり人員数の多さ（23市中4番目）や、単独世帯が県内23市中最も少なくなっています。
- 世帯当たりの離婚件数が県内23市中15番目と離婚が少ない方の位置にあります。

②産業関連

- 県内では比較的第二次産業事務所数や第二次産業従業者数が多い都市です。
- 製造品出荷額等及び従業者1人あたり年間商品販売額は、県内23市中ではあまり高い水準ではありません。

③福祉環境

- 保育所数の対0~5歳児人口比は、県内23市中では中位にあります。
- 一般病院数及び「一般診療所数の対総人口比は、あまり高い水準ではありませんが、医師数の対総人口比は県内23市中9番目に多くなっています。

④生活環境関連

- 1住宅あたり延べ面積は、県内23市中3番目に広がっています。
- ごみの総排出量の対総人口比は、県内23市中2番目に多くなっており、静岡県の平均を大きく上回っています。

⑤行財政

- 財政力指数は、県内23市中ではあまり高い水準ではありません。
- 歳入決算総額の対総人口比は県内23市中、中位にありますが、「地方税」の対歳入決算額比は低い水準にあります。

①人口関連指標

「15歳未満人口」及び「15～64歳人口」の対総人口比は県内23市中でそれぞれ14番目、19番目とやや下位にある一方で、「65歳以上人口」は対総人口比で25.6%と県内24市中6番目と高くなっており、静岡県内の市でも少子高齢化が進んでいる地域であるといえます。

「出生数」の対総人口比は0.7%と、静岡県平均を0.1ポイント下回り、県内23市中15番目とやや下位にあります。また、「転入者数」の対総人口比は2.3%で県内23市中20番目、「転出者数」の対総人口比は2.4%で県内23市中23番目と、低い水準にあります。しかしながら、「転出者数」が「転入者数」を71人上回っており、社会人口減となっています。静岡県内の多くの市では転出超過が起きており、伊東市(+34人)、袋井市(+7人)、御前崎市(+45人)、菊川市(+74人)の4市のみ転入超過となっています。

「1世帯あたり人員」は、3.0人/世帯と、県内23市中4番目に多く、「単独世帯数」の対一般世帯数比は19.2%で、静岡県内の市では最も低くなっています。

「高齢単身者世帯」の対一般世帯数は6.9%で県内23市中9番目と、比較的高い水準にあります。静岡県平均(7.6%)を0.7%下回っており、県内で最も高い熱海市(23.9%)とは17.0ポイントの差があります。

世帯当たりの離婚件数が県内23市中15番目であり、離婚が少ない方に位置しています。

■3年齢区分別人口に関するポジショニング

県・市名	2010				2010			2010		
	人口総数(人)	15歳未満人口(人)		15～64歳人口(人)			65歳以上人口(人)			
	実数	実数	対総人口比	順位	実数	対総人口比	順位	実数	対総人口比	順位
静岡県	3,765,007	511,575	13.6%		2,339,915	62.1%		891,807	23.7%	
静岡市	716,197	91,673	12.8%	19	444,745	62.1%	15	176,033	24.6%	9
浜松市	800,866	112,093	14.0%	11	499,213	62.3%	14	181,347	22.6%	13
沼津市	202,304	25,911	12.8%	18	126,489	62.5%	12	49,821	24.6%	8
熱海市	39,611	3,204	8.1%	23	21,103	53.3%	23	15,298	38.6%	1
三島市	111,838	15,072	13.5%	15	71,046	63.5%	5	25,442	22.7%	12
富士宮市	132,001	18,762	14.2%	7	82,933	62.8%	11	29,673	22.5%	15
伊東市	71,437	8,014	11.2%	20	39,255	55.0%	22	23,547	33.0%	3
島田市	100,276	13,533	13.5%	14	60,879	60.7%	19	25,697	25.6%	6
富士市	254,027	37,154	14.6%	4	160,844	63.3%	7	55,277	21.8%	19
磐田市	168,625	23,278	13.8%	12	106,079	62.9%	9	37,204	22.1%	16
焼津市	143,249	20,063	14.0%	10	89,377	62.4%	13	33,672	23.5%	11
掛川市	116,363	16,352	14.1%	8	73,464	63.1%	8	25,433	21.9%	18
藤枝市	142,151	19,603	13.8%	13	88,090	62.0%	16	33,846	23.8%	10
御殿場市	89,030	13,763	15.5%	2	57,916	65.1%	1	17,351	19.5%	21
袋井市	84,846	13,145	15.5%	1	55,091	64.9%	2	16,169	19.1%	22
下田市	25,013	2,635	10.5%	22	14,066	56.2%	21	8,260	33.0%	2
裾野市	54,546	8,170	15.0%	3	35,258	64.6%	3	10,259	18.8%	23
湖西市	60,107	8,550	14.2%	6	38,431	63.9%	4	12,778	21.3%	20
伊豆市	34,202	3,617	10.6%	21	19,765	57.8%	20	10,795	31.6%	4
御前崎市	34,700	4,861	14.0%	9	21,810	62.9%	10	7,826	22.6%	14
菊川市	47,041	6,790	14.4%	5	29,800	63.3%	6	10,298	21.9%	17
伊豆の国市	49,269	6,388	13.0%	17	29,950	60.8%	18	12,699	25.8%	5
牧之原市	49,019	6,507	13.3%	16	30,339	61.9%	17	12,116	24.7%	7

資料：総務省統計局「統計でみる市区町村のすがた2016」(平成28年度)

■外国人人口・人口集中地区人口・出生数に関するポジショニング

県・市名	2010	2010			2010			2014		
	人口総数(人)	外国人人口(人)			人口集中地区人口(人)			出生数(人)		
	実数	実数	対総人口比	順位	実数	対総人口比	順位	実数	対総人口比	順位
静岡県	3,765,007	61,610	1.6%		2,242,960	59.6%		28,684	0.8%	
静岡市	716,197	6,816	1.0%	16	625,147	87.3%	1	5,371	0.7%	13
浜松市	800,866	18,167	2.3%	7	477,648	59.6%	6	6,647	0.8%	6
沼津市	202,304	2,549	1.3%	13	166,164	82.1%	2	1,220	0.6%	19
熱海市	39,611	260	0.7%	21	24,622	62.2%	5	147	0.4%	23
三島市	111,838	1,066	1.0%	15	86,824	77.6%	4	846	0.8%	12
富士宮市	132,001	1,279	1.0%	14	68,151	51.6%	11	1,011	0.8%	11
伊東市	71,437	383	0.5%	22	31,840	44.6%	13	367	0.5%	20
島田市	100,276	803	0.8%	18	52,838	52.7%	10	719	0.7%	15
富士市	254,027	4,010	1.6%	11	201,751	79.4%	3	1,959	0.8%	10
磐田市	168,625	4,839	2.9%	4	68,790	40.8%	14	1,312	0.8%	8
焼津市	143,249	2,445	1.7%	10	79,946	55.8%	8	959	0.7%	17
掛川市	116,363	2,842	2.4%	5	29,866	25.7%	19	980	0.8%	5
藤枝市	142,151	1,260	0.9%	17	82,374	57.9%	7	1,113	0.8%	7
御殿場市	89,030	1,626	1.8%	9	31,444	35.3%	16	793	0.9%	3
袋井市	84,846	2,486	2.9%	3	15,631	18.4%	20	894	1.1%	1
下田市	25,013	196	0.8%	19	6,829	27.3%	18	113	0.5%	21
裾野市	54,546	728	1.3%	12	19,858	36.4%	15	537	1.0%	2
湖西市	60,107	2,375	4.0%	2	31,907	53.1%	9	445	0.7%	14
伊豆市	34,202	156	0.5%	23	...	-	-	149	0.4%	22
御前崎市	34,700	835	2.4%	6	...	-	-	268	0.8%	9
菊川市	47,041	2,413	5.1%	1	8,265	17.6%	21	417	0.9%	4
伊豆の国市	49,269	377	0.8%	20	24,422	49.6%	12	322	0.7%	18
牧之原市	49,019	1,062	2.2%	8	15,055	30.7%	17	332	0.7%	16

資料：総務省統計局「統計でみる市区町村のすがた 2016」（平成 28 年度）

■転入者数・転出者数・昼間人口に関するポジショニング

県・市名	2010	2014			2014			2010		
	人口総数(人)	転入者数(人)			転出者数(人)			昼間人口(人)		
	実数	実数	対総人口比	順位	実数	対総人口比	順位	実数	対総人口比	順位
静岡県	3,765,007	120,896	3.2%		128,136	3.4%		3,759,757	99.9%	
静岡市	716,197	23,495	3.3%	8	24,457	3.4%	8	739,584	103.3%	7
浜松市	800,866	31,522	3.9%	3	31,912	4.0%	4	798,622	99.7%	10
沼津市	202,304	5,920	2.9%	12	7,009	3.5%	6	217,376	107.5%	2
熱海市	39,611	1,760	4.4%	1	1,776	4.5%	3	41,787	105.5%	5
三島市	111,838	4,012	3.6%	5	4,291	3.8%	5	108,295	96.8%	14
富士宮市	132,001	3,291	2.5%	18	3,499	2.7%	20	124,975	94.7%	19
伊東市	71,437	2,120	3.0%	11	2,086	2.9%	16	69,118	96.8%	15
島田市	100,276	2,288	2.3%	20	2,359	2.4%	23	93,690	93.4%	22
富士市	254,027	5,459	2.1%	22	6,190	2.4%	22	252,788	99.5%	11
磐田市	168,625	4,296	2.5%	16	4,593	2.7%	19	171,536	101.7%	8
焼津市	143,249	3,226	2.3%	21	3,733	2.6%	21	135,069	94.3%	20
掛川市	116,363	3,219	2.8%	15	3,498	3.0%	14	116,771	100.4%	9
藤枝市	142,151	4,594	3.2%	9	4,239	3.0%	15	129,928	91.4%	23
御殿場市	89,030	3,711	4.2%	2	4,095	4.6%	2	87,651	98.5%	13
袋井市	84,846	2,803	3.3%	7	2,796	3.3%	12	84,286	99.3%	12
下田市	25,013	705	2.8%	14	860	3.4%	7	25,881	103.5%	6
裾野市	54,546	2,121	3.9%	4	2,708	5.0%	1	58,591	107.4%	3
湖西市	60,107	1,885	3.1%	10	1,996	3.3%	11	67,375	112.1%	1
伊豆市	34,202	867	2.5%	17	1,103	3.2%	13	32,147	94.0%	21
御前崎市	34,700	831	2.4%	19	1,162	3.3%	10	33,034	95.2%	17
菊川市	47,041	1,352	2.9%	13	1,307	2.8%	18	44,752	95.1%	18
伊豆の国市	49,269	1,730	3.5%	6	1,656	3.4%	9	46,985	95.4%	16
牧之原市	49,019	946	1.9%	23	1,377	2.8%	17	52,100	106.3%	4

資料：総務省統計局「統計でみる市区町村のすがた 2016」（平成 28 年度）

■世帯等に関するポジショニング

県・市名	2010		2010		2010		2010		2010						
	人口総数(人)		世帯数(世帯)		1世帯あたり人員(人/世帯)		一般世帯数(世帯)		核家族世帯数(世帯)			単独世帯数(世帯)			
	実数	対一般世帯数比	順位	実数	対一般世帯数比	順位	実数	対一般世帯数比	順位	実数	対一般世帯数比	順位	実数	対一般世帯数比	順位
静岡県	3,765,007			1,399,140		2.7	1,397,173	788,276	56.4%		373,881	26.8%			
静岡市	716,197		18	279,019		2.6	278,644	157,927	56.7%	9	80,660	28.9%	6		
浜松市	800,866		15	300,444		2.7	300,004	169,105	56.4%	11	85,316	28.4%	8		
沼津市	202,304		19	79,616		2.5	79,515	45,294	57.0%	6	22,775	28.6%	7		
熱海市	39,611		23	19,740		2.0	19,720	8,855	44.9%	23	9,015	45.7%	1		
三島市	111,838		20	44,620		2.5	44,551	25,851	58.0%	5	13,158	29.5%	5		
富士宮市	132,001		11	46,988		2.8	46,932	27,445	58.5%	3	10,580	22.5%	18		
伊東市	71,437		21	30,636		2.3	30,581	17,310	56.6%	10	9,446	30.9%	4		
島田市	100,276		4	33,280		3.0	33,238	18,913	56.9%	7	6,386	19.2%	23		
富士市	254,027		12	90,980		2.8	90,834	52,853	58.2%	4	21,209	23.3%	16		
磐田市	168,625		9	59,414		2.8	59,349	33,654	56.7%	8	14,239	24.0%	15		
焼津市	143,249		6	49,299		2.9	49,259	28,845	58.6%	2	10,273	20.9%	20		
掛川市	116,363		5	39,497		2.9	39,443	21,742	55.1%	16	8,911	22.6%	17		
藤枝市	142,151		7	49,658		2.9	49,622	30,349	61.2%	1	9,985	20.1%	21		
御殿場市	89,030		10	31,403		2.8	31,268	17,318	55.4%	13	8,471	27.1%	10		
袋井市	84,846		8	29,791		2.8	29,752	16,461	55.3%	14	7,593	25.5%	12		
下田市	25,013		22	10,794		2.3	10,778	5,661	52.5%	19	3,623	33.6%	2		
裾野市	54,546		17	21,042		2.6	21,030	11,303	53.7%	17	6,613	31.4%	3		
湖西市	60,107		13	21,619		2.8	21,603	12,089	56.0%	12	5,620	26.0%	11		
伊豆市	34,202		14	12,583		2.7	12,567	6,566	52.2%	20	3,193	25.4%	13		
御前崎市	34,700		3	11,494		3.0	11,479	5,495	47.9%	22	2,847	24.8%	14		
菊川市	47,041		2	15,485		3.0	15,456	8,130	52.6%	18	3,460	22.4%	19		
伊豆の国市	49,269		16	18,742		2.6	18,715	10,344	55.3%	15	5,102	27.3%	9		
牧之原市	49,019		1	15,607		3.1	15,586	7,824	50.2%	21	3,097	19.9%	22		

資料：総務省統計局「統計でみる市区町村のすがた2016」(平成28年度)

県・市名	2010			2010			2010			2010			2010		
	65歳以上の世帯員がいる核家族世帯数(世帯)			高齢夫婦世帯数(世帯)			高齢単身世帯(世帯)			婚姻件数			離婚件数		
	実数	対一般世帯数比	順位	実数	対一般世帯数比	順位	実数	対一般世帯数比	順位	実数	対一般世帯数比	順位	実数	対一般世帯数比	順位
静岡県	282,516	20.2%		138,565	9.9%		106,279	7.6%		19,323	1.38		6,878	0.49	
静岡市	59,641	21.4%	9	28,481	10.2%	10	23,692	8.5%	7	3,643	1.31	16	1,268	0.46	16
浜松市	57,211	19.1%	15	28,560	9.5%	12	20,387	6.8%	11	4,267	1.42	11	1,365	0.45	17
沼津市	16,752	21.1%	10	8,303	10.4%	9	7,159	9.0%	6	974	1.22	19	438	0.55	8
熱海市	4,685	23.8%	4	2,717	13.8%	2	4,716	23.9%	1	155	0.79	23	75	0.38	22
三島市	8,898	20.0%	11	4,709	10.6%	7	3,657	8.2%	8	581	1.30	17	201	0.45	18
富士宮市	9,365	20.0%	12	4,413	9.4%	13	3,231	6.9%	10	723	1.54	6	282	0.60	5
伊東市	8,219	26.9%	1	4,880	16.0%	1	4,559	14.9%	2	287	0.94	21	163	0.53	10
島田市	7,556	22.7%	5	3,486	10.5%	8	2,307	6.9%	9	465	1.40	13	154	0.46	15
富士市	17,330	19.1%	14	8,103	8.9%	14	5,716	6.3%	12	1,412	1.55	5	560	0.62	4
磐田市	11,390	19.2%	13	5,294	8.9%	15	3,287	5.5%	16	877	1.48	10	263	0.44	19
焼津市	10,617	21.6%	7	4,740	9.6%	11	3,095	6.3%	13	673	1.37	14	244	0.50	13
掛川市	6,851	17.4%	18	3,222	8.2%	17	1,980	5.0%	19	601	1.52	8	185	0.47	14
藤枝市	11,252	22.7%	6	5,537	11.2%	5	2,977	6.0%	14	699	1.41	12	258	0.52	11
御殿場市	4,965	15.9%	20	2,399	7.7%	21	1,694	5.4%	17	572	1.83	1	175	0.56	7
袋井市	4,471	15.0%	23	2,095	7.0%	22	1,244	4.2%	23	502	1.69	4	159	0.53	9
下田市	2,715	25.2%	3	1,458	13.5%	3	1,582	14.7%	3	104	0.96	20	67	0.62	3
裾野市	3,284	15.6%	21	1,627	7.7%	20	968	4.6%	21	360	1.71	3	109	0.52	12
湖西市	4,011	18.6%	16	1,904	8.8%	16	1,155	5.3%	18	293	1.36	15	87	0.40	21
伊豆市	3,195	25.4%	2	1,604	12.8%	4	1,389	11.1%	4	114	0.91	22	45	0.36	23
御前崎市	1,775	15.5%	22	799	7.0%	23	546	4.8%	20	198	1.72	2	73	0.64	2
菊川市	2,584	16.7%	19	1,230	8.0%	18	670	4.3%	22	230	1.49	9	64	0.41	20
伊豆の国市	4,032	21.5%	8	2,031	10.9%	6	1,755	9.4%	5	231	1.23	18	105	0.56	6
牧之原市	2,823	18.1%	17	1,209	7.8%	19	897	5.8%	15	239	1.53	7	105	0.67	1

資料：総務省統計局「統計でみる市区町村のすがた2016」(平成28年度)

②産業関連指標

「第2次産業事務所数」及び「第3次産業事務所数」の対総事務所数比は、それぞれ26.7%（県内23市中7番目）、73.0%（県内23市中17番目）となっています。「第2次産業従業者数」及び「第3次産業従業者数」の対総従業者数比はそれぞれ37.2%（県内23市中9番目）、62.4%（県内23市中15番目）となっています。以上のことから、島田市は県内でも比較的
第2次産業が多い都市であるといえます。

「製造品出荷額等」は302,248百万円で、県内23市中15番目と、静岡県内の市ではやや下位にあります。「従業者1人あたり年間商品販売額」は21.6百万円/人と、静岡県平均（36.8百万円/人）を15.2百万円/人下回っています。県内23市で最も高いのは裾野市で59.4百万円/人で、島田市の2.7倍となっています。

■事務所数に関するポジショニング

県・市名	2010	2009	2009			2009		
	人口総数	事業所数	第2次産業事業所数		第3次産業事業所数			
	実数	実数	実数	対総事務所数比	順位	実数	対総事務所数比	順位
静岡県	3,765,007	194,589	44,086	22.7%		149,739	77.0%	
静岡市	716,197	39,602	8,045	20.3%	18	31,478	79.5%	6
浜松市	800,866	39,572	9,403	23.8%	12	30,003	75.8%	12
沼津市	202,304	11,971	2,467	20.6%	16	9,467	79.1%	8
熱海市	39,611	3,238	408	12.6%	22	2,824	87.2%	2
三島市	111,838	5,790	971	16.8%	20	4,806	83.0%	4
富士宮市	132,001	6,039	1,509	25.0%	9	4,484	74.3%	15
伊東市	71,437	5,019	692	13.8%	21	4,313	85.9%	3
島田市	100,276	4,882	1,305	26.7%	7	3,562	73.0%	17
富士市	254,027	12,939	3,068	23.7%	13	9,852	76.1%	11
磐田市	168,625	7,543	2,169	28.8%	4	5,337	70.8%	20
焼津市	143,249	7,193	1,924	26.7%	6	5,220	72.6%	18
掛川市	116,363	5,206	1,342	25.8%	8	3,846	73.9%	16
藤枝市	142,151	6,603	1,558	23.6%	14	5,028	76.1%	10
御殿場市	89,030	3,985	698	17.5%	19	3,263	81.9%	5
袋井市	84,846	3,842	950	24.7%	10	2,876	74.9%	14
下田市	25,013	2,398	268	11.2%	23	2,119	88.4%	1
裾野市	54,546	2,127	517	24.3%	11	1,595	75.0%	13
湖西市	60,107	2,621	716	27.3%	5	1,878	71.7%	19
伊豆市	34,202	2,152	450	20.9%	15	1,678	78.0%	9
御前崎市	34,700	1,815	580	32.0%	2	1,214	66.9%	23
菊川市	47,041	1,970	576	29.2%	3	1,378	69.9%	21
伊豆の国市	49,269	2,680	552	20.6%	17	2,120	79.1%	7
牧之原市	49,019	2,846	914	32.1%	1	1,919	67.4%	22

資料：総務省統計局「統計でみる市区町村のすがた2016」（平成28年度）

■従業者数に関するポジショニング

県・市名	2010	2009	2009			2009		
	人口総数	従業者数(人)	第2次産業従業者数(人)			第3次産業従業者数(人)		
	実数	実数	実数	対総従業者数比	順位	実数	対総従業者数比	順位
静岡県	3,765,007	1,933,029	611,674	31.6%		1,312,268	67.9%	
静岡市	716,197	385,943	88,332	22.9%	19	296,851	76.9%	5
浜松市	800,866	407,309	126,718	31.1%	14	278,683	68.4%	10
沼津市	202,304	121,591	33,191	27.3%	15	87,896	72.3%	9
熱海市	39,611	23,430	2,227	9.5%	23	21,157	90.3%	1
三島市	111,838	48,921	11,643	23.8%	18	37,189	76.0%	6
富士宮市	132,001	57,474	23,426	40.8%	6	33,598	58.5%	18
伊東市	71,437	32,534	3,672	11.3%	21	28,730	88.3%	3
島田市	100,276	44,536	16,573	37.2%	9	27,775	62.4%	15
富士市	254,027	133,325	50,933	38.2%	8	82,203	61.7%	16
磐田市	168,625	90,256	41,892	46.4%	3	48,000	53.2%	20
焼津市	143,249	68,304	23,645	34.6%	12	43,548	63.8%	13
掛川市	116,363	59,815	25,242	42.2%	5	34,347	57.4%	19
藤枝市	142,151	61,663	19,809	32.1%	13	41,654	67.6%	11
御殿場市	89,030	46,463	12,004	25.8%	17	34,256	73.7%	7
袋井市	84,846	43,503	17,014	39.1%	7	26,341	60.5%	17
下田市	25,013	14,259	1,391	9.8%	22	12,704	89.1%	2
裾野市	54,546	32,818	11,749	35.8%	10	20,946	63.8%	12
湖西市	60,107	37,517	23,404	62.4%	1	13,943	37.2%	23
伊豆市	34,202	15,692	2,805	17.9%	20	12,596	80.3%	4
御前崎市	34,700	17,108	6,065	35.5%	11	10,794	63.1%	14
菊川市	47,041	22,065	9,940	45.0%	4	11,496	52.1%	21
伊豆の国市	49,269	22,100	5,903	26.7%	16	16,132	73.0%	8
牧之原市	49,019	28,702	14,403	50.2%	2	14,204	49.5%	22

資料：総務省統計局「統計でみる市区町村のすがた2016」（平成28年度）

■商業に関するポジショニング

県・市名	2013		2013		2011		2011		2011		2011	
	製造品 出荷額等(百万円)		製造業 従業者数(人)		商業年間 商品販売額(百万円)		商業 事業所数(事務所)		商業 従業者数(人)		従業者1人あたり 年間商品 販売額(百万円/人)	
	実数	順位	実数	実数	実数	実数	実数	実数	実数	実数	実数	順位
静岡県	15,699,131		388,877	8,845,325	34,589	240,080	36.8					
静岡市	1,751,664	2	45,623	2,535,508	7,629	53,202	47.7	2				
浜松市	2,130,271	1	71,193	2,374,892	7,018	53,585	44.3	3				
沼津市	597,615	9	19,140	578,072	1,973	14,869	38.9	4				
熱海市	3,054	22	224	45,115	518	2,422	18.6	22				
三島市	179,453	17	6,802	176,051	945	5,780	30.5	9				
富士宮市	775,044	7	19,212	173,442	1,150	7,486	23.2	15				
伊東市	9,783	21	688	91,781	803	4,405	20.8	19				
島田市	302,248	15	9,868	120,873	937	5,591	21.6	18				
富士市	1,279,087	5	31,822	515,779	2,186	14,927	34.6	7				
磐田市	1,721,102	3	34,839	251,438	1,273	9,346	26.9	11				
焼津市	526,937	10	16,110	252,104	1,294	7,823	32.2	8				
掛川市	1,046,428	6	20,892	170,682	996	6,636	25.7	12				
藤枝市	400,442	13	11,754	242,252	1,227	8,409	28.8	10				
御殿場市	381,532	14	8,499	133,533	723	5,558	24.0	14				
袋井市	495,664	11	12,304	214,174	620	5,592	38.3	5				
下田市	3,046	23	266	38,786	434	2,021	19.2	21				
裾野市	407,351	12	7,574	226,580	324	3,816	59.4	1				
湖西市	1,671,605	4	22,583	66,547	433	2,632	25.3	13				
伊豆市	14,325	20	1,048	33,129	356	1,914	17.3	24				
御前崎市	99,339	19	3,736	29,851	280	1,680	17.8	23				
菊川市	242,476	16	7,735	52,246	338	2,411	21.7	16				
伊豆の国市	107,813	18	3,232	54,624	413	2,521	21.7	17				
牧之原市	611,972	8	8,420	58,102	530	2,988	19.4	20				

資料：総務省統計局「統計でみる市区町村のすがた2016」（平成28年度）

■就業者に関するポジショニング

県・市名	2010	2010			2010			2010	2010		
	就業者数 (人)	自市区町村で就業している 就業者数(人)			他市区町村への 通勤者数(人)			従業地による 就業者数(人)	他市区町村からの 通勤者数(人)		
	実数	実数	対就業者数比	順位	実数	対就業者数比	順位	実数	実数	対就業者数比	順位
静岡県	1,897,194	1,220,809	64.3%		634,575	33.4%		1,898,107	635,488	33.5%	
静岡市	357,916	254,187	71.0%	7	92,971	26.0%	17	375,377	110,432	30.9%	13
浜松市	399,573	233,019	58.3%	17	158,255	39.6%	7	394,574	153,256	38.4%	5
沼津市	100,487	72,369	72.0%	5	25,827	25.7%	19	112,722	38,062	37.9%	7
熱海市	18,047	13,877	76.9%	4	3,704	20.5%	20	20,853	6,510	36.1%	10
三島市	54,802	26,896	49.1%	23	26,603	48.5%	1	49,196	20,997	38.3%	6
富士宮市	66,219	46,617	70.4%	8	17,167	25.9%	18	59,750	10,698	16.2%	22
伊東市	32,277	27,089	83.9%	1	4,566	14.1%	23	30,736	3,025	9.4%	23
島田市	52,222	32,978	63.1%	15	18,488	35.4%	9	46,014	12,280	23.5%	18
富士市	125,812	97,819	77.8%	3	25,123	20.0%	21	127,785	27,096	21.5%	20
磐田市	86,450	56,397	65.2%	13	28,572	33.1%	12	90,426	32,548	37.6%	8
焼津市	72,872	44,597	61.2%	16	26,912	36.9%	8	67,470	21,510	29.5%	15
掛川市	60,958	40,130	65.8%	11	20,150	33.1%	11	62,867	22,059	36.2%	9
藤枝市	72,221	39,175	54.2%	21	31,586	43.7%	4	60,589	19,954	27.6%	16
御殿場市	48,665	33,955	69.8%	9	13,427	27.6%	15	48,283	13,045	26.8%	17
袋井市	44,321	23,590	53.2%	22	19,467	43.9%	2	43,919	19,065	43.0%	4
下田市	11,863	9,867	83.2%	2	1,870	15.8%	22	12,415	2,422	20.4%	21
裾野市	27,655	16,056	58.1%	18	11,252	40.7%	6	32,736	16,333	59.1%	1
湖西市	31,794	22,621	71.1%	6	8,332	26.2%	16	39,969	16,507	51.9%	2
伊豆市	17,079	11,222	65.7%	12	5,634	33.0%	13	15,264	3,819	22.4%	19
御前崎市	18,915	12,013	63.5%	14	6,477	34.2%	10	18,148	5,710	30.2%	14
菊川市	25,685	14,121	55.0%	19	11,097	43.2%	5	23,282	8,694	33.8%	12
伊豆の国市	24,569	13,433	54.7%	20	10,764	43.8%	3	22,297	8,492	34.6%	11
牧之原市	27,312	18,063	66.1%	10	8,872	32.5%	14	30,538	12,098	44.3%	3

資料 総務省統計局「統計でみる市区町村のすがた 2016」(平成 28 年度)

③福祉関連指標

「保育所数」の対0~5歳児人口比は2.7件/1千人と、静岡県の23市内で11番目と中位にあります。また、保育所在所児数の対保育所数比は114.8人/件で、静岡県の平均値(107.2人/件)を上回っています。静岡県内で最も少ないのは伊豆市の56.3人/件で、島田市の2分の1程度となっています。これは、伊豆市の0~5歳児人口が県内でも低い(1,147人)ことも関係していると考えられます。

「一般病院数」は、対総人口比が0.1件/1万人と、静岡県の23市内では最も少なくなっています。「一般診療数」も同様に、対総人口比が6.5件/1万人で県内23市中18番目と低い水準にあります。一方で、医師数の対総人口比は15.4人/1万人で県内23市中9番目と比較的高くなっていることから、島田市では一般病院または一般診療所1件に勤めている医師の数が多いと考えられます。

■保育所及び国民保険に関するポジショニング

県・市名	2010	2010	2013			2014		2013			2013				
	人口総数(人)	0~5歳児人口(人)	保育所数(件)		順位	保育所入所待機児童数(人)		保育所在所児数(人)			国民健康保険被保険者数(人)				
	実数	実数	実数	対0~5歳児人口比(件/1千人)		実数	順位	実数	対保育所数比(人/件)	順位	実数	対総人口比	順位		
静岡県	3,765,007	182,018	489	2.7			567			52,400	107.2		1,018,990	27.1%	
静岡市	716,197	34,339	102	3.0	9		156	2		11,372	111.5	9	187,735	26.2%	15
浜松市	800,866	43,318	82	1.9	19		315	1		9,573	116.7	5	206,142	25.7%	16
沼津市	202,304	9,638	30	3.1	7		0	11		2,581	86.0	20	59,162	29.2%	6
熱海市	39,611	1,107	6	5.4	2		0	11		362	60.3	22	14,705	37.1%	2
三島市	111,838	5,610	16	2.9	10		0	11		1,751	109.4	11	30,689	27.4%	10
富士宮市	132,001	7,120	19	2.7	13		0	11		1,896	99.8	15	37,446	28.4%	9
伊東市	71,437	2,741	9	3.3	6		9	7		809	89.9	18	29,130	40.8%	1
島田市	100,276	5,099	14	2.7	11		4	10		1,607	114.8	6	25,810	25.7%	17
富士市	254,027	13,829	35	2.5	15		13	5		3,652	104.3	12	69,631	27.4%	11
磐田市	168,625	9,081	22	2.4	16		28	3		2,510	114.1	7	44,612	26.5%	13
焼津市	143,249	7,577	13	1.7	23		6	8		1,664	128.0	3	37,692	26.3%	14
掛川市	116,363	6,429	12	1.9	20		12	6		1,564	130.3	1	29,048	25.0%	20
藤枝市	142,151	7,244	13	1.8	21		5	9		1,327	102.1	14	38,091	26.8%	12
御殿場市	89,030	5,558	15	2.7	12		0	11		1,853	123.5	4	20,648	23.2%	23
袋井市	84,846	5,468	12	2.2	17		16	4		1,176	98.0	16	21,207	25.0%	19
下田市	25,013	924	5	5.4	3		0	11		384	76.8	21	8,743	35.0%	3
裾野市	54,546	3,413	6	1.8	22		0	11		777	129.5	2	12,728	23.3%	22
湖西市	60,107	3,103	8	2.6	14		0	11		822	102.8	13	14,739	24.5%	21
伊豆市	34,202	1,147	8	7.0	1		0	11		450	56.3	23	11,293	33.0%	4
御前崎市	34,700	1,841	4	2.2	18		0	11		379	94.8	17	9,863	28.4%	8
菊川市	47,041	2,692	10	3.7	5		0	11		1,140	114.0	8	11,880	25.3%	18
伊豆の国市	49,269	2,297	7	3.0	8		0	11		770	110.0	10	16,073	32.6%	5
牧之原市	49,019	2,443	10	4.1	4		0	11		873	87.3	19	14,255	29.1%	7

資料：総務省統計局「統計でみる市区町村のすがた2016」(平成28年度)
国勢調査(平成22年)

■医療に関するポジショニング

県・市名	2010	2013			2013			2012		
	人口総数	一般病院数(件)		順位	一般診療所数(件)		順位	医師数(人)		
	実数	実数	対総人口比 (件/1万人)		実数	対総人口比 (件/1万人)		実数	対総人口比 (人/1万人)	順位
静岡県	3,765,007	150	0.4		2,705	7.2		7,241	19.2	
静岡市	716,197	23	0.3	14	543	7.6	7	1,551	21.7	4
浜松市	800,866	29	0.4	12	639	8.0	4	2,060	25.7	3
沼津市	202,304	8	0.4	9	158	7.8	5	356	17.6	6
熱海市	39,611	4	1.0	4	36	9.1	2	141	35.6	2
三島市	111,838	5	0.4	6	87	7.8	6	160	14.3	11
富士宮市	132,001	4	0.3	15	91	6.9	12	169	12.8	16
伊東市	71,437	3	0.4	7	58	8.1	3	101	14.1	12
島田市	100,276	1	0.1	23	65	6.5	18	154	15.4	9
富士市	254,027	10	0.4	10	172	6.8	14	352	13.9	13
磐田市	168,625	7	0.4	8	112	6.6	16	282	16.7	7
焼津市	143,249	4	0.3	18	84	5.9	19	212	14.8	10
掛川市	116,363	2	0.2	22	83	7.1	10	144	12.4	18
藤枝市	142,151	4	0.3	17	98	6.9	11	271	19.1	5
御殿場市	89,030	8	0.9	5	45	5.1	22	111	12.5	17
袋井市	84,846	2	0.2	19	57	6.7	15	90	10.6	20
下田市	25,013	3	1.2	3	23	9.2	1	40	16.0	8
裾野市	54,546	2	0.4	11	37	6.8	13	58	10.6	19
湖西市	60,107	2	0.3	13	44	7.3	9	61	10.1	21
伊豆市	34,202	5	1.5	1	18	5.3	21	45	13.2	15
御前崎市	34,700	1	0.3	16	16	4.6	23	31	8.9	23
菊川市	47,041	1	0.2	20	31	6.6	17	65	13.8	14
伊豆の国市	49,269	6	1.2	2	28	5.7	20	251	50.9	1
牧之原市	49,019	1	0.2	21	37	7.5	8	47	9.6	22

資料：総務省統計局「統計でみる市区町村のすがた 2016」（平成 28 年度）

④生活環境関連指標

「持ち家数」及び「借家数」の対居住世帯あり住宅数は、それぞれ68.5%（県内23市中14番目）、30.7%（県内23市中10番目）となっており、いずれも静岡県平均（それぞれ67.7%、30.4%）を僅かに上回っています。また、「1住宅あたり延べ面積」は124.91㎡で、県内23市中3番目と高い水準にあります。これは島田市の「1世帯あたり人員」が3.0人/世帯と、県内で比較的多いことも関係していると考えられます。他の静岡県内の市を見ても、「1世帯あたり人員」が最も多い牧之原市（3.1人/世帯）は、「1住宅あたり延べ面積」も県内23市で最も多くなっています（130.77㎡）。

「ごみの総排出量」の対総人口比は0.79t/人で、県内23市中2番目と高い水準にあり、静岡県平均（0.34t）の2倍以上となっています。一方で、「ごみのリサイクル率」は22.6%で、県内23市中10番目と中位にあり、静岡県平均（21.0%）をやや上回っています。

■住宅に関するポジショニング

県・市名	2013	2013		2013			2013		2010	
	居住世帯あり住宅数(住宅)	持ち家数(住宅)		借家数(住宅)			1住宅あたり延べ面積(㎡)		※参考(再掲) 1世帯あたり人員(人/世帯)	
	実数	実数	対居住世帯あり住宅数 順位	実数	対居住世帯あり住宅数 順位	順位	実数	順位	実数	順位
静岡県	1,380,400	934,800	67.7%	420,200	30.4%		105.42		2.7	
静岡市	302,730	189,790	62.7%	104,300	34.5%	7	97.95	20	2.6	18
浜松市	78,850	50,050	63.5%	27,710	35.1%	6	102.83	17	2.7	15
沼津市	18,690	11,850	63.4%	6,650	35.6%	4	95.34	21	2.5	19
熱海市	45,720	27,240	59.6%	18,150	39.7%	2	82.75	23	2.0	23
三島市	46,710	35,610	76.2%	10,470	22.4%	20	92.27	22	2.5	20
富士宮市	30,520	21,990	72.1%	7,880	25.8%	14	116.53	6	2.8	11
伊東市	33,440	27,570	82.4%	5,690	17.0%	22	99.30	19	2.3	21
島田市	90,750	62,140	68.5%	27,880	30.7%	10	124.91	3	3.0	4
富士市	57,380	42,380	73.9%	14,270	24.9%	15	105.62	15	2.8	12
磐田市	48,790	36,780	75.4%	11,490	23.5%	17	110.53	10	2.8	9
焼津市	39,230	28,340	72.2%	10,310	26.3%	13	114.71	8	2.9	6
掛川市	50,200	37,700	75.1%	11,980	23.9%	16	116.11	7	2.9	5
藤枝市	30,570	20,330	66.5%	10,050	32.9%	8	114.23	9	2.9	7
御殿場市	30,190	18,890	62.6%	10,790	35.7%	3	106.98	13	2.8	10
袋井市	10,280	7,850	76.4%	2,420	23.5%	18	101.94	18	2.8	8
下田市	18,160	11,610	63.9%	6,400	35.2%	5	104.36	16	2.3	22
裾野市	20,900	15,070	72.1%	5,730	27.4%	11	106.73	14	2.6	17
湖西市	12,230	10,020	81.9%	1,990	16.3%	23	110.36	11	2.8	13
伊豆市	11,410	8,130	71.3%	3,080	27.0%	12	123.98	4	2.7	14
御前崎市	15,150	11,430	75.4%	3,560	23.5%	19	117.98	5	3.0	3
菊川市	18,610	12,600	67.7%	5,840	31.4%	9	126.56	2	3.0	2
伊豆の国市	14,740	11,690	79.3%	2,910	19.7%	21	108.56	12	2.6	16
牧之原市	49,019	28,539	58.2%	27,312	55.7%	1	130.77	1	3.1	1

資料：総務省統計局「統計でみる市区町村のすがた2016」（平成28年度）

■衛生に関するポジショニング

県・市名	2010	2013			2013			2013		2013		
	人口総数(人)	非水洗化人口(人)			ごみの総排出量(t)			ごみの リサイクル率(%)		建物火災出火件数(件)		
	実数	実数	対総人口比	順位	実数	対総人口比 (t/人)	順位	実数	順位	実数	対総人口比 (件/1万人)	順位
静岡県	3,765,007	108,076	2.9%		1,273,877	0.34		21.0		603	1.6	
静岡市	716,197	27,927	3.9%	15	266,365	0.37	8	16.3	19	107	1.5	17
浜松市	800,866	4,970	0.6%	18	63,917	0.08	23	21.4	13	35	0.4	21
沼津市	202,304	328	0.2%	22	24,184	0.12	22	24.9	6	42	2.1	15
熱海市	39,611	545	1.4%	16	43,324	1.09	1	24.1	8	30	7.6	4
三島市	111,838	5,848	5.2%	7	47,847	0.43	5	15.1	20	117	10.5	2
富士宮市	132,001	100	0.1%	23	35,335	0.27	14	19.0	16	32	2.4	13
伊東市	71,437	9,012	12.6%	2	34,356	0.48	4	19.8	15	22	3.1	10
島田市	100,276	3,881	3.9%	10	79,079	0.79	2	22.6	10	21	2.1	14
富士市	254,027	5,461	2.1%	13	45,546	0.18	20	12.2	22	11	0.4	22
磐田市	168,625	3,478	2.1%	14	43,764	0.26	15	17.7	17	15	0.9	20
焼津市	143,249	5,816	4.1%	8	27,959	0.20	17	22.1	12	13	0.9	19
掛川市	116,363	4,110	3.5%	12	37,931	0.33	11	16.9	18	3	0.3	23
藤枝市	142,151	1,375	1.0%	17	30,460	0.21	16	23.4	9	38	2.7	12
御殿場市	89,030	272	0.3%	19	28,209	0.32	12	64.4	1	10	1.1	18
袋井市	84,846	226	0.3%	20	12,164	0.14	21	22.6	10	25	2.9	11
下田市	25,013	1,400	5.6%	6	17,340	0.69	3	14.2	21	25	10.0	3
裾野市	54,546	5,792	10.6%	3	20,804	0.38	6	9.7	23	20	3.7	6
湖西市	60,107	157	0.3%	21	11,689	0.19	18	40.7	2	11	1.8	16
伊豆市	34,202	1,292	3.8%	11	12,115	0.35	9	20.9	14	50	14.6	1
御前崎市	34,700	2,011	5.8%	5	11,841	0.34	10	25.3	5	26	7.5	5
菊川市	47,041	705	1.5%	15	17,675	0.38	7	24.9	6	16	3.4	9
伊豆の国市	49,269	3,986	8.1%	4	14,435	0.29	13	27.1	4	17	3.5	8
牧之原市	49,019	18,063	36.8%	1	8,872	0.18	19	29.8	3	17	3.5	7

資料：総務省統計局「統計でみる市区町村のすがた 2016」（平成 28 年度）

⑤行財政関連指標

「財政力指数」は0.75で、県内23市中20番目と下位にあり、最も高い御前崎市(1.11)とは0.26ポイントの差があります。実質収支比率と実質公債費比率はそれぞれ7.1%(県内23市中10番目)、9.6%(県内23市中12番目)と、いずれも中位にあります。

「歳入決算総額」の対総人口比は37.9万円/人で、県内23市中12番目と中位にあります。

「地方税」の対歳入決算総額比は37.9%で、県内23市中19番目と低い水準にあり、静岡県平均(44.3%)を6.4ポイント下回っています。

■行財政に関するポジショニング

県・市名	2010	2013		2013		2013		2013			2013		
	人口総数(人)	財政力指数		実質収支比率(%)		実質公債費比率(%)		歳入決算総額(百万円)			地方税(百万円)		
	実数	実数	順位	実数	順位	実数	順位	実数	対総人口比(万円/人)	順位	実数	対歳入決算総額比	順位
静岡県	3,765,007	-		-		-		1,410,298	37.5		625,280	44.3%	
静岡市	716,197	0.90	9	3.2	22	10.3	10	279,776	39.1	9	125,668	44.9%	10
浜松市	800,866	0.87	13	3.7	19	10.8	9	288,579	36.0	16	126,979	44.0%	13
沼津市	202,304	0.96	6	5.3	15	6.8	21	70,784	35.0	19	35,929	50.8%	4
熱海市	39,611	0.91	7	6.3	13	8.4	18	20,697	52.3	1	9,793	47.3%	7
三島市	111,838	0.90	9	3.7	19	7.2	19	33,864	30.3	23	17,238	50.9%	3
富士宮市	132,001	0.90	9	6.7	11	8.7	16	43,103	32.7	21	20,206	46.9%	8
伊東市	71,437	0.77	18	4.6	16	9.3	13	26,364	36.9	15	11,214	42.5%	15
島田市	100,276	0.75	20	7.1	10	9.6	12	37,981	37.9	12	14,399	37.9%	19
富士市	254,027	0.99	3	4.5	17	4.9	22	85,873	33.8	20	46,207	53.8%	1
磐田市	168,625	0.86	14	3.6	21	12.1	5	60,613	35.9	17	27,024	44.6%	11
焼津市	143,249	0.89	12	8.1	5	9.3	13	50,480	35.2	18	21,287	42.2%	17
掛川市	116,363	0.91	7	6.0	14	11.0	7	46,682	40.1	7	20,760	44.5%	12
藤枝市	142,151	0.85	15	10.5	1	12.3	4	45,631	32.1	22	20,766	45.5%	9
御殿場市	89,030	0.97	4	7.2	8	12.4	3	36,603	41.1	5	15,399	42.1%	18
袋井市	84,846	0.85	15	0.6	23	10.9	8	34,490	40.7	6	14,595	42.3%	16
下田市	25,013	0.50	23	7.7	6	11.4	6	11,199	44.8	4	2,970	26.5%	22
裾野市	54,546	1.01	2	6.4	12	9.0	15	20,411	37.4	13	10,096	49.5%	6
湖西市	60,107	0.97	4	9.3	3	10.2	11	22,270	37.1	14	11,092	49.8%	5
伊豆市	34,202	0.57	22	10.2	2	7.1	20	17,506	51.2	2	4,459	25.5%	23
御前崎市	34,700	1.11	1	7.2	8	2.6	23	16,247	46.8	3	8,345	51.4%	2
菊川市	47,041	0.73	21	4.3	18	14.0	2	18,813	40.0	8	6,922	36.8%	20
伊豆の国市	49,269	0.76	19	7.3	7	8.7	16	19,138	38.8	10	6,745	35.2%	21
牧之原市	49,019	0.81	17	8.5	4	17.0	1	18,584	37.9	11	7,933	42.7%	14

資料：総務省統計局「統計でみる市区町村のすがた2016」(平成28年度)

4. まちづくり課題の整理

- ・前項までの社会情勢の整理や市の現状把握（データ）、都市比較等による市の現状・課題点について、現行計画の主要分野（大綱）ごとに整理します。

①（都市基盤が充実し、ひとやもの、情報が活発に交流するまち）

【当該分野に含む事項】

○物流・交流 ○道路・交通網 ○住環境 ○緑・景観 ○地域情報化

<物流・交流>

- ・新東名高速道路や富士山静岡空港などによる広域交通網の強みを生かし、賑わい交流拠点・新東名島田金谷 IC 周辺・旧金谷中学校跡地などの整備による地域振興と交流人口の拡大を検討する必要がある。
- ・近年第3次産業就業者が急増している一方で、1次・2次産業就業者は減少し、特に農家数は減少ペースが著しい。お茶や木材などの地域資源を活かした産業振興に取り組み、第3次産業の成長に乗った産業全体の活性化を支援していくことが求められる。

<道路・交通>

- ・新東名高速道路の開設により、関東圏・関西圏へのアクセスがより便利になった一方で、広域交通網の拠点は市の南部に集中しており、北部は大井川鐵道とコミュニティバスが走るのみとなっている。地域による交通格差を緩和するためにも、既存路線の路線・ダイヤ見直しやデマンド交通の活用などを含めた、地域のニーズに対して柔軟な対応が求められる。
- ・人口減少が進む一方で高齢者の数は増加しており、今後公共交通ネットワークの維持に対する必要性・重要性は高まっていくと考えられるため、公共交通の安定的な維持と利用しやすい制度作りを検討する必要がある。

<住環境>

- ・市全体では世帯数が増加している一方で1世帯当たり人員は増加しているが、地区別にみると状況はそれぞれ異なっており、地区ごとにさまざまな住環境に対する問題を抱えていると考えられる。
- ・転入者数はわずかに増加傾向にあるが、依然として転出者数が多く、社会減の状態が続いている。そのため、市内からの人口流出を防ぐため、市内で多様な住環境の整備を進め、それぞれの暮らしに合った居住のしかたができる選択肢を広げることが重要である。

<地域情報化>

- ・平成27年（2015年）10月から開始されたマイナンバー制度をはじめとした、社会システムの高度情報化が急速に進む一方で、情報弱者を狙った新たな犯罪が次々と発生している。このことから、情報弱者への支援機会の創出や、地域による情報格差の是正が必要である。
- ・近年、全国の各自治体ではICTを活用した教育、産業、住民参画等の活動が活発化している。こうした活動を普及するためにも、学校や企業、地域団体などでワークショップなどを含めたICT普及啓発活動に取り組むことが重要である。

②（市民が安全・安心に暮らせるまち）

【当該分野を含む事項】

○危機管理 ○自然災害 ○消防・救急 ○防犯 ○交通安全 ○消費生活

<危機管理・自然災害>

- ・熊本地震や北日本の大規模な水害など、近年はこれまで経験したことのないような災害が発生しており、各地における災害対策の弱みが露呈した。そのため、現行の防災体制を見直し、今後どのような自然災害が発生しても対応できるような方法や仕組みの整備が必要である。
- ・人口減少や少子高齢化により、地域コミュニティの希薄化や要援護者を支援できる若年層の減少などが懸念される。
- ・単独高齢世帯の増加により、災害時に孤立する高齢者が出てくる懸念があることから、地域全体での防災訓練や防災教育を普及させるとともに、災害時要援護者の実態把握に努める必要がある。

<消防・救急>

- ・火災発生件数は緩やかに増加傾向にあり、特に建物での発生件数が増加していることから、日ごろからの個人・団体での火災防止意識を高めるとともに、火災予防の指導・啓発を行う必要がある。
- ・高齢化が進み、救急発送件数が増加することを見据えて、救急体制を検証し、施設・人員の適正配置のあり方を見直していくことが求められる。

<防犯・交通安全>

- ・高齢者や子どもが被害者となる凶悪犯罪や、情報高度化に便乗した詐欺犯罪が発生するなど、身近な場所で発生する犯罪への不安が増大している。こうした犯罪に遭わない・発生させないためにも、普段から防犯啓発活動を行うとともに、地域全体で見守りを行うなど、日常的に防犯意識を高める活動を行うことが重要である。
- ・近年人身事故件数は減少しているが、依然として1日2件程度のペースで発生している。特に近年は市町村道における発生件数が多くなっていることから、日常生活における交通安全啓発活動や、市町村道の危険個所の見直しなどが求められる。
- ・島田金谷 I C 付近を通る国道 473 号では、新東名高速道路が開通した平成 24 年度に交通事故（人身事故）発生件数が急増しており、高速道路開通による交通量増加に伴う事故発生の影響が出ていると考えられる。

<消費生活>

- ・電子マネーやネットショッピングなど、販売方法や契約方法の多様化に伴い、新たなトラブルが発生していることから、消費者及び商品・サービスの販売者両者が消費生活に係る基礎的な知識の習得や、相談・指導を受けることのできる体制づくりが求められる。

③（産業がいきいきと活発なまち）

【当該分野に含む事項】

○農林業 ○工業 ○商業 ○観光

<農林業>

- ・第1次産業就業者は年々減少しており、就業者の高齢化も進んでいることから、今後の産業の担い手づくりが課題となる。
- ・市内の農家数は最近20年程度で半分以下に減少しており、農産業の縮小が問題となっている。農業の担い手育成や農業技術の向上による農産業の基盤を強化するほか、農作物の販売方法や加工方法を工夫し、名産品として市内外に発信できるような魅力づくりを行うことが重要である。
- ・島田市では市域のほぼ半分を山林が占めているが、林業従事者の減少により山林管理が不十分になることにより、木材の質の劣化や土砂災害などが起きる可能性がある。林業についても、作業従業者の維持に努めるとともに、山林保全への意識向上に向けた取組が必要である。

<工業>

- ・製造品出荷額等や事務所数、従業者数は年々減少傾向にある一方で、1事務所／1従業者あたりの製造品出荷額等は増加していることから、事務所・従業者各自の技術力や生産効率性は増加していると考えられる。
- ・市内に高速道路インターチェンジと空港を有していることから、輸送面での強みを活かした産業振興や企業誘致への取組が重要である。
- ・静岡県内の市部では比較的第二次産業の事務所数及び就業者数が多いが、減少ペースは年々早くなっており、雇用拡大や人材育成など、産業の基盤づくりに向けた取組が求められる。

<商業>

- ・第3次産業就業者数は近年増加傾向にあるが、市内卸売業と小売業の事務所数及び従業者数は近年減少傾向にある。また、最近15年程で卸売業の年間販売額は増加したが、小売業の年間販売額は減少している。
- ・多様な地域資源を活用した商品開発のほか、販路拡大や業務連携等について、マッチングの機会を提供することで市内全体の活性化も醸成されるものと考えられる。

<観光>

- ・静岡県都市計画区域マスタープランにて指定されている「観光・レクリエーション拠点」の活用方法を見直すとともに、教育普及活動や体験活動などの住民活動を含めた、大井川や山林などの自然資源の保全に取り組むことが重要である。
- ・富士山静岡空港へのアクセスの強みを生かし、台湾や中国をはじめとしたアジア圏を視野に入れた観光PR活動を行うとともに、今後訪日外国人観光客が増加することを見越し、観光地や宿泊地等への外国人を受け入れるにあたっての相談・アドバイスや、駅やバスなどの案内表示の見直しなど、外国人受け入れ体制の強化を図ることが重要である。

④（だれもが健やかで幸せに暮らせる健康・福祉のまち）

【当該分野に含む事項】

○福祉 ○子ども・子育て ○医療・健康 ○社会保障

<福祉>

- ・静岡県内市部では高齢化が進んでいる市であり、高齢夫婦世帯や単身高齢世帯も増加している。日常的に声かけ活動や見守り活動などといった、地域福祉への取組が重要である。
- ・少子化は進んでいるものの、共働き世帯の増加などにより保育園へのニーズは高まっている。市内でもわずかながら保育園児は増加傾向にあり、対応が求められる。

<子ども・子育て>

- ・幼稚園児数は減少傾向にある一方で、保育園児はわずかに増加傾向にある。将来の未就学児童数の推計値を踏まえたうえで、保育園・幼稚園の適正数や施設規模の見直しが求められる。
- ・保育士数は近年増加傾向にあるが、保育園1件あたりの保育園児数は静岡県内の市部でも比較的多く、保育士一人一人の負担が大きくなっていると考えられる。このことから、保育士の確保と、保育士が働きやすい環境の整備が必要である。
- ・全国的に共働き世帯が増加しており、仕事と出産や子育てに不安を持つ若い夫婦も多くなっている。島田市では静岡県内の市部でも比較的市外で働く就業者が多いことから、産後・育児中の働き方の制度や保育時間の制度など、仕事を続けながら安心して出産・子育てができる体制づくりが求められる。

<医療・健康>

- ・病院や一般診療所の件数が少ない一方で、医師数の対総人口比は静岡県内の市部でも比較的多くなっている。このことから、地域の医療体制の格差を是正し、誰もが安心して医療を受けられるように、病院施設の配置や体制の見直しも検討する必要がある。
- ・医療・介護等の社会保障費の抑制を図るためにも、高齢者のみならず、すべての年代で健康を増進し、健康寿命を延伸するための取組が必要である。

<社会保障>

- ・高齢化の進行に伴う医療・介護など今後大きく増大することが見込まれる社会保障費の負担については、費用の増加を抑制するための予防医療や健康づくりが必要であり、全ての世代で健康増進に取り組むことが重要である。
- ・生活扶助人員は最近10年間で急増し、それに伴い生活扶助保護費も増加している。今後高齢化が進むと生活扶助人員も増加すると予想されることから、多くの市民が納得できる負担のあり方について考え、予算配分の適正化などを行っていくことが求められる。

⑤（自然と共生する資源循環型のまち）

【当該分野に含む事項】

○エネルギー ○循環型社会 ○自然保全 ○環境教育

<エネルギー・循環型社会>

- ・国内外で地球温暖化抑制に向けた取組や制度への採択が行われている一方で、地球温暖化は現在でも進んでおり、その影響と考えられる異常気象も多発し、ゲリラ豪雨など予測の難しい自然災害が多く発生している。
- ・バイオマス事業など地球温暖化を抑制するエネルギー事業を検討することに加え、産業にも適切な指導を行い、循環型社会実現に向けた取組を市内企業全体で協力して行う仕組みづくりが重要である。
- ・学校や企業等において環境教育を行い、住民一人一人が環境問題に意識を向け、日々環境保全に取り組む姿勢を作ることが重要である。

<自然保全>

- ・市域の半分以上を山林・田・畑などの自然的土地利用が占めており、豊かな自然を生かした産業や観光業の振興が期待されている。こうした良好な自然資源が将来にわたって受け継がれるように、持続可能な資源の維持・改善方法を検討することが必要である。
- ・蓬莱橋や大井川鐵道など、市内には島田市の豊かな自然を体験できる観光施設が多く存在する。これらの観光施設を市内外に広く宣伝することで、市内の自然を広く人々に認知してもらうとともに、住民が自然保全活動について自主的に取り組める体制づくりや気運づくりを行うことが重要である。

⑥（人を育て、歴史を大切に新しい文化を創造するまち）

【当該分野に含む事項】

○学校教育 ○生涯学習 ○青少年育成 ○スポーツ ○文化・芸術・歴史

<教育>

- ・市全体で少子化により就学児童・生徒数は減少しており、特に中山間地域では減少が顕著であり、将来の児童・生徒数、地区ごとの実情に応じた適正な学校配置・規模などのあり方が問われている。
- ・家庭のあり方が多様化し、様々な問題を抱えた子どもたちが増加していることを踏まえ、児童・生徒一人一人に向き合える体制を作るとともに、地域コミュニティと学校の関わり方や学校の役割等についても検討する必要がある。
- ・高齢者が増加する中、高齢者が生きがいを持ち、いきいきと生活し活躍できる機会を増やすために、様々なニーズに応じた生涯学習の機会を充実させることが求められている。

<スポーツ>

- ・高齢化に伴う社会保障費の増大を抑制するためにも、住民が運動を習慣づけ、健康増進を図ることのできる体制づくりや、施設の充実が重要である。
- ・近年、全国的な子どもの運動能力低下が問題となっていることを踏まえ、学校授業以外でもスポーツのできる機会を増やし、家族全員でスポーツに取り組み健康づくりに取り組むことが重要である。

<文化・芸術・歴史>

- ・地域の特徴、独自の生活風景や文化財が地域の帰属意識や住民の連帯感を高めるキーワードとなっており、産業や観光、教育などでも今一度自分たちの文化や歴史を見つめなおす動きが全国的に高まっている。島田市でも、「島田緑茶化計画」など地域の文化・歴史を活用した取り組みを多く行ってきており、こうした活動を通じて、住民が島田市に愛着を持ち、誇りをもって生活ができるようにするため、文化・歴史普及活動に取り組むことが重要である。

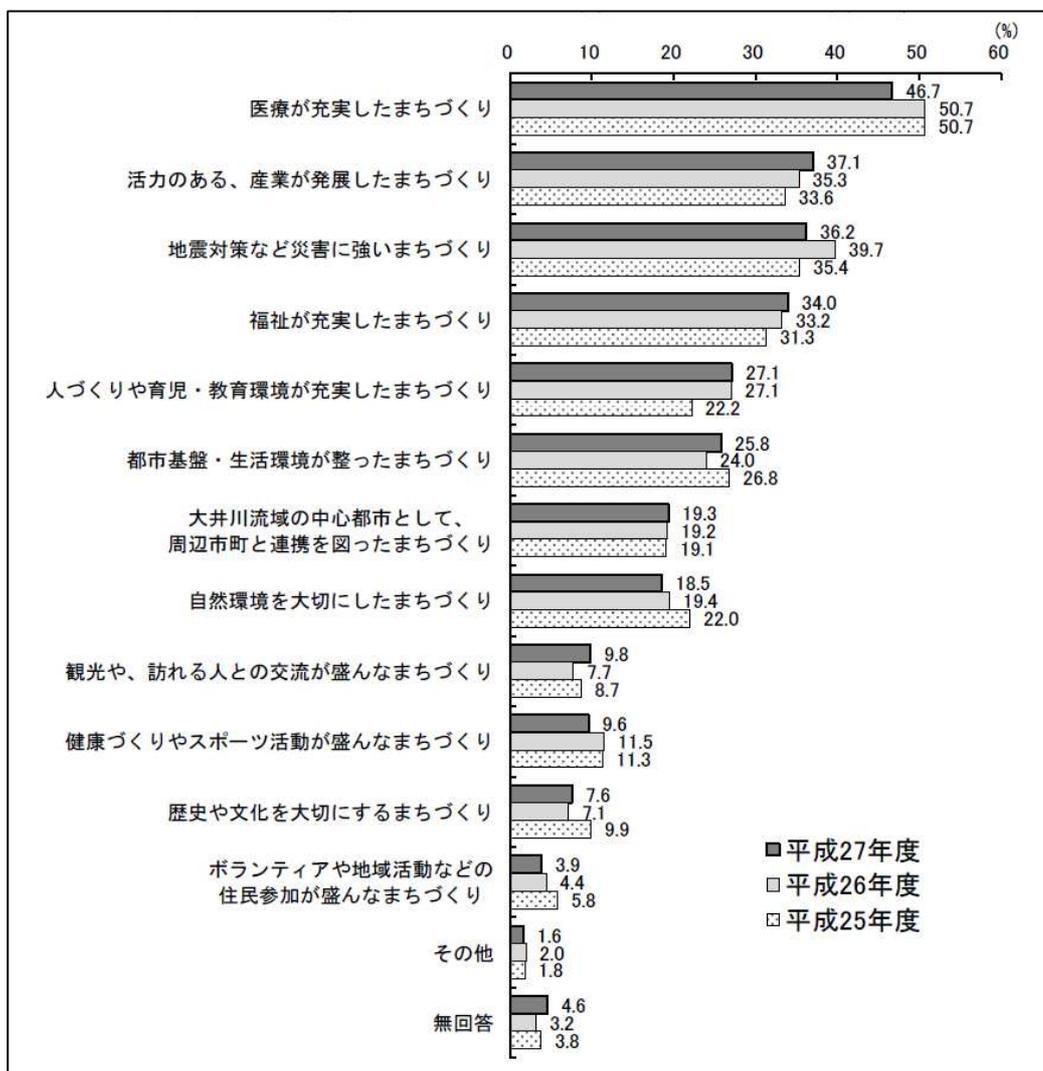
5. 島田市の将来像に関する市民意向

○ 今後目指すべき都市像について

(平成 27 年度島田市総合計画市民意識調査 20 歳以上市民対象 問 12 から【複数回答 N(回答数)=977】)

医療が充実、活力ある産業の発展、災害に強いまちづくりが求められている

- ・島田市が今後目指すべき都市像について、今年度は「医療が充実したまちづくり」が 46.7%と最も高く、次いで「活力のある、産業が発展したまちづくり」が 37.1%、「地震対策など災害に強いまちづくり」が 36.2%となっています。
- ・前年度（平成 26 年度）と比較すると、「活力のある、産業が発展したまちづくり」は、今年度 37.1%、前年度は 35.3%となっており、1.8%増えています。前々年度（平成 25 年度）と比較すると、「活力のある、産業が発展したまちづくり」は、今年度は 37.1%、前々年度は 33.6%となっており、3.5%増えています。



○ まちづくり目標や将来像に関する市民意向

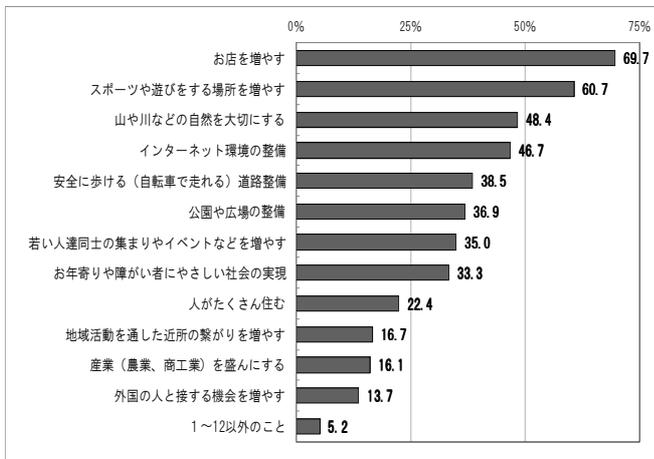
(平成 28 年度 各種市民意識調査)

◆若年層が今後の島田市にもとめること

買い物環境の充実やスポーツや遊ぶ場所の充実など活動的なまちづくりが求められている

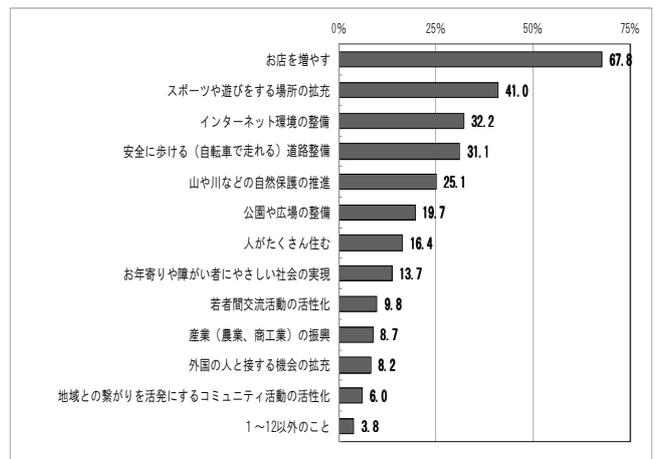
○中学生対象 [市立]問9・[附属]問14から
【複数回答 N=366】

- ・「お店を増やす」(69.7%)や「スポーツや遊びをする場所を増やす」(60.7%)が高く、次いで、「山や川などの自然を大切にする」(48.4%)、「インターネット環境の整備」(46.7%)となっている。



○高校生対象 問18から
【複数回答 N=183】

- ・「お店を増やす」が67.8%、次いで、「スポーツや遊びをする場所の拡充」(41.0%)、「インターネット環境の整備」(32.2%)となっている。



◆市民がイメージするまちづくりの方向

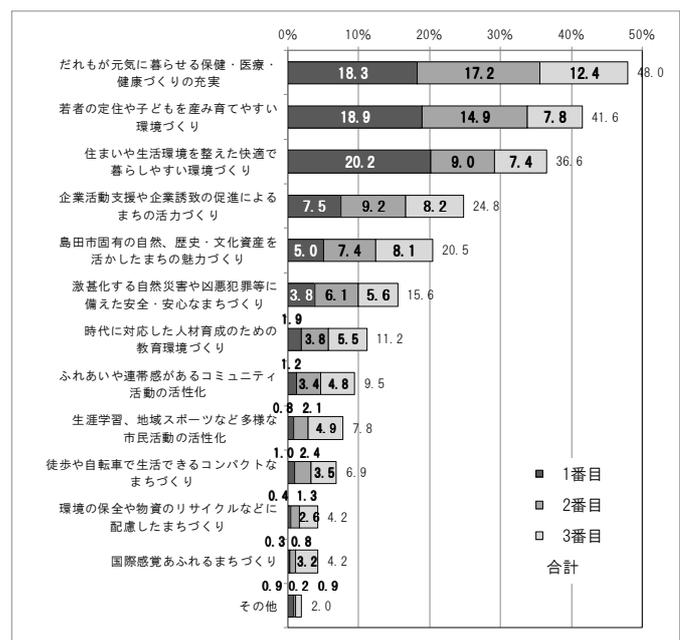
(将来イメージやキャッチフレーズにふさわしいまちづくり)

「だれもが元気に暮らせる保健・医療・健康づくりの充実」や「住まいや生活環境を整えた快適で暮らしやすい環境づくり」

○18歳以上市民対象 問16から

【複数回答 N=1,015】

- ・1番目から3番目までの合計では「だれもが元気に暮らせる保健・医療・健康づくりの充実」(48.0%)、次いで、「若者の定住や子どもを産み育てやすい環境づくり」(41.6%)、「住まいや生活環境を整えた快適で暮らしやすい環境づくり」(36.6%)、「企業活動支援や企業誘致の促進によるまちの活力づくり」(24.8%)、「島田市固有の自然、歴史・文化資産を活かしたまちの魅力づくり」(20.5%)
- ・「1番目」とされた割合のみでは、「住まいや生活環境を整えた快適で暮らしやすい環境づくり」(20.2%)、次いで、「若者の定住や子どもを産み育てやすい環境づくり」(18.9%)、「だれもが元気に暮らせる保健・医療・健康づくりの充実」(18.3%)



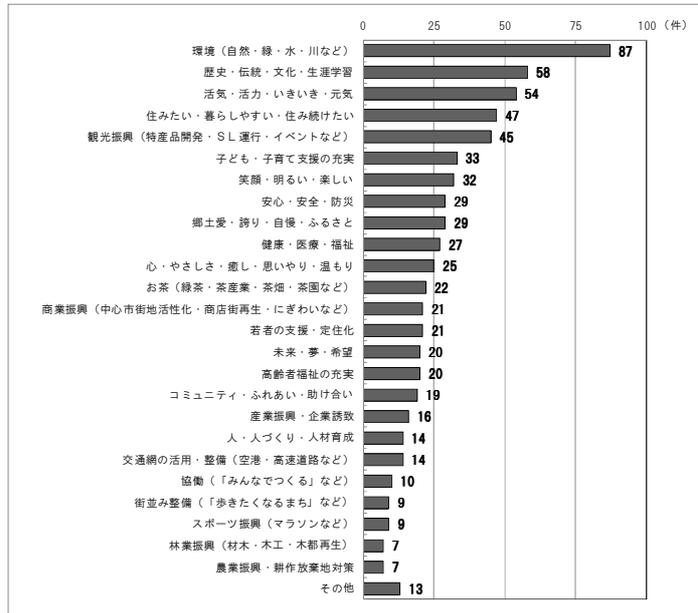
◆島田市の将来像（キーワード分類）

各対象とも「環境（自然・緑・木など）」がトップ、次いで「歴史・伝統・文化・生涯学習」や「コミュニティ（人・地域・助け合い・交流・絆・挨拶など）」

○18歳以上市民対象 問15から

【自由記入 N=1,015】

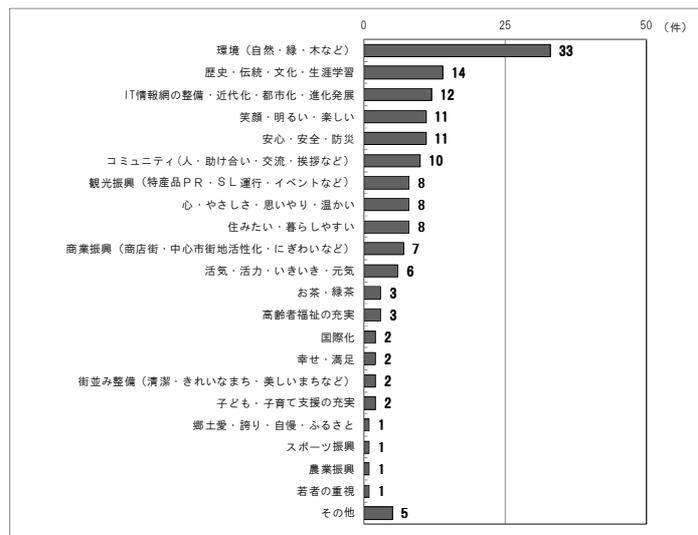
・最も多く挙げられたのは「環境（自然・緑・木など）」(87件)次いで、「歴史・伝統・文化・生涯学習」(58件)、「活気・活力・いきいき・元気」(54件)、「住みたい・暮らしやすい・住み続けたい」(47件)、「観光振興（特産品開発・SL運行・イベントなど）」(45件)などとなっている。



○高校生対象 問19から

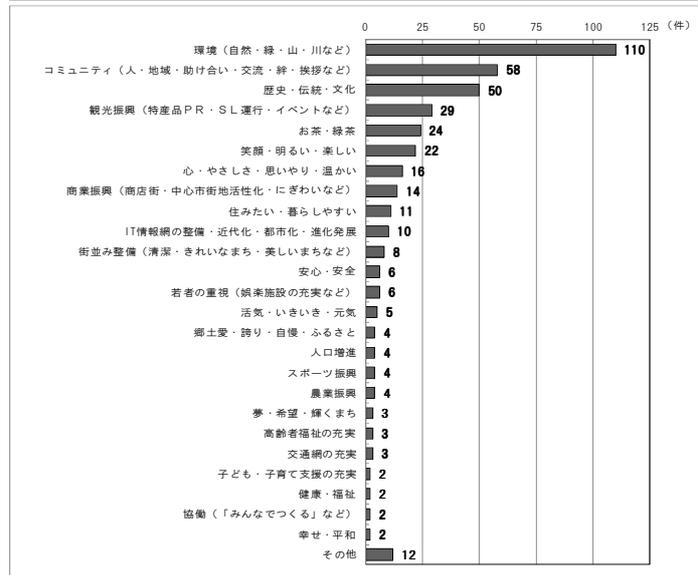
【自由記入 N=183】

・最も多く挙げられたのは「環境（自然・緑・木など）」(33件)次いで、「歴史・伝統・文化・生涯学習」(14件)や、「IT情報網の整備・近代化・都市化・進化発展」(12件)、「笑顔・明るい・楽しい」(11件)、「安心・安全」(11件)、「コミュニティ（人・助け合い・交流・挨拶など）」(10件)となっている。



○中学生対象 [市立]問10・[附属]問15から【自由記入 N=366】

・最も多く挙げられたのは「環境（自然・緑・山・川など）」(110件)次いで、「コミュニティ（人・地域・助け合い・交流・絆・挨拶など）」(58件)や、「歴史・伝統・文化」(50件)、「観光振興（特産品PR・SL運行・イベントなど）」(29件)、「お茶・緑茶」(24件)、「笑顔・明るい・楽しい」(22件)となっている。



◆将来像に関する個別提案（自由記述）

(18歳以上市民対象分)

No.	意見・提案
0274	茶のみどり、山の緑にかこまれて、すくすく育つ、島田の子等は。
0152	お茶の葉香る緑のまち。くつろぐ、やすらぐ緑のまち島田。
0553	大井川と空港とお茶とスポーツの町
0684	1. 歩いていて楽しくなる町づくり 2. 文化の交流を推進する人材づくり 3. お茶の町にふさわしい給茶所の設置等 4. 人の集まる、住める町づくり
0479	“お茶”というワードを入れる
0664	基幹産業が発展して生活が豊かになることが新しい島田市に生まれ変わると思います。茶、木都島田市を再びよみがえらせる事が一番大事です。
0569	農家と茶商との連携でより一層の茶業の意見交換を行い、農家も茶商も消費者も納得するいわゆる一体となれる企業経営を目指す。
0799	・歴史と未来の交差するまち ・自然と文化が混ざり合うまち ・歴史×未来×文化×お茶＝島田市
0165	歴史のある町島田。お茶の里島田。来て良し、食べて良し、泊まって良しの島田。学んで良しの島田。
0042	お茶産業を生かして、川根本町との合併や主要施設でお茶の無料配布のサービスを行う。ふるさと納税のお礼金を豊かにして財政を向上させる。
0295	茶っ茶と島田に遊びにおいでよ
0218	荒れた茶園を見るとかなしくなります。そういう所を市で何か利用する方法を考えてほしいです。車で走りながら地蔵峠を見て思います。
0155	日本の文化が残るまち。お茶のおいしいまち。人情にあふれ、おだやかに生活できるまち。
0700	安心と文化と自然が共存し、茶薫る島田市
0545	茶文化をもっと身近にすすめる。茶にまつわる講座、茶会、茶道具への関心、闘茶会。茶との異業種交流をすすめる事により産業発展にもなる。そして茶を通して皆が健康になる。「楽人・楽茶」
0976	歴史伝える大祭り！ 汽笛響くお茶畑！ 文化香るまち！島田市！
0078	お茶のまち島田
0829	シマダ！チャッチャッチャ 島田！Cha、茶、ちゃ スイーツ！茶（チャ）ンピオン（お茶、スイーツ、茶菓子の一番）目指す
0893	島田市緑茶化計画
0397	島田市緑茶化計画の意味が判らない！今、茶産業はどんどん衰退しており、個人事業者は減っている。
0975	島田市緑茶化計画のロゴが好きです。
0199	住めば都茶のまちローズ
0807	目指すものを具体的に。現在定められているものから選ぶとしたら「水と緑の健康都市」まず大井川水系の川を生かすこと、自然の山、堤防などを生かす。歩いて楽しい人が来なければ何にも進まない。

No.	意見・提案
0050	ぬくもりあるふる里。緑と水清きまち。老若男女活力あるまち。いつまでも自分らしく暮らせるまち。すこやかな子供が育つまち。伝統と誇りある産業の広がるまち。
0752	・きれいな水、緑豊かなまち島田 ・みんなが一つになってがんばるまち島田
0847	・豊かな自然と歴史のある宿場町 ・水と緑と文化のまち ・豊かな自然と利便性、医療や福祉、子育ての安心して住める町
0600	水と緑、安心な町
0635	水と緑と心が豊かな都市島田
0892	・ひとつがどう、ものがどう、ながれるみずとみどりのまち島田 ・回る、巡る、島田
0119	「緑と水の豊かなまち島田」
0596	里山再生、空と水と緑で結ぶ拠点。
0726	・生き生きと緑あふれるまち ・誰もが主役笑顔のまち島田
0405	緑豊かなナチュラルランド。老いも若きも安楽な人生を過ごせる、伝統文化の生きづく、ヒストピアの郷土、島田！！
0787	住みよくして緑豊かな長寿の街づくり。私も一役、あなたも一役参加して。
0325	歴史ある緑多くの健康都市
0400	・緑と自然と活気あるまち島田。 ・人々の交流培う温かい都市島田。
0381	生き生きした緑と健康活力みなぎる島田市
0877	みどり豊か、こころ豊か、生き生き島田
0548	活気あふれる、緑あふれる空気の良い町
0474	昭和の頃のにぎわいあるまちと緑
0288	歴史ある町（帯まつり、まげまつり、木造の橋）、緑豊かな町、住みやすい町、S Lの走っている町
0013	美しい島田。緑のまち島田。
0867	歴史と自然豊かな緑のまち
0566	名高い歴史、緑あふれるまち島田
0543	街中に緑
0809	緑とオレンジの街
0622	緑にあふれた島田市
0839	緑の中の小都市島田
1015	緑の山々に囲まれ住居環境の充実したまち島田
0277	・立地的、地理的に条件の格差がある今後の農林業の取り組みを地域の所有者、耕作者の意見を集約し、人口0の集落を少しでも作らない農林業対策の確立を早期に進めるべきです。・北中学校の横の用水(大井川合流部まで)伊太谷川の中間部に小水力発電所の建設を要望します。・河原町、川越遺跡周辺に長さ300～500mのせせらぎ水路を設け、日本の淡水魚の生息地とした、自然的水路を設け、水と歴史のある憩いの場を作って下さい。
0488	自然と産業の融合。大井川やとうとうと流れる伊太谷川を利用して市独自に水力発電を行い、産業の活性化や市民生活の豊かさを計画してほしい。

No.	意見・提案
0093	河川を充実する事！（被害にあっている大雨が降るたびに住民や関係者は不安）（水害にあわない町）河川にコイや魚類がたくさんいれば、野鳥他エンブイロメント総合が良く島田のみでなく、近隣の文化が良くなります！ 栃山川をもっともっと良くしていく。島田市内の河川をもう一度考え、中期的問題を解決していく事！
0241	材木の街。水と木（樹）の街。
0599	大井川の用水を利用したビオトープ（町中に蛍、とんぼが飛び、水路で鮎が泳ぐ）。民家の空家を都市の人たちにも活用してもらおう（東京方面から市内に遊びに来てくれる人が増えています）。
0097	①水がきれいです。水を利用して上から下へ流す、南アルプスの雪解け水をキャッチフレーズに自然を生かした新鮮な考えを示す。
0695	水と緑の健康都市、新しい島田市づくりに
0702	大井川の流れに勇気をもらい前に進もう島田の友
0319	大井川の豊かな水をもっと活用した町作り。
0750	島田市歌のイメージで質問されておりますので答えにくいですが、街の中央を流れる島田の谷川、ダブダブに流れている様を有り難いな一と思う反面、この水、どこへ行くのだろうと・・・（浄水道と（生活力）ともに食（用水）を潤す町、島田市）（キャッチフレーズ）
0296	住んでいて楽しい島田市、空から陸からこんにちは！笑顔で挨拶かわす島田市
0040	楽しく過ごせるトライアングル空港、島田、金谷
0764	・将来に希望が持てる街島田 ・住んで安心、島田、住んで楽しい街島田 ・子孫に自信を持って引き継げる街島田 ・愛する島田、市民一人一人が誇れる街づくりを！ ・みんなで創る、暮らしやすい町島田
0679	島田市民すべての人が安心して楽しめる町、やさしい町
0897	楽しい人生をすごせるまち
0126	楽しいまち・島田
0927	楽しく暮らせて実は深みのあるまち
0819	誰もが楽しく過ごせるまち
0130	身近な自然の中で明るい笑顔のあるまち。
0694	・若人が集う明るい町づくり ・イベント開催等で全国にアピール、メディア利用 ・（年間における行事）市民参加による名物発掘
0113	子どもが安全に安心して暮らせるまち。活気があるまち。住みたいと思えるまち。明るい、地域の人たちの交流が多い。若者もたくさんいる。
0075	明るく住みたい街
0217	明るく、豊かに子供が育つまち。活気があり、若いいぶくまち。
0071	明るい町。清潔感のある町並み。
0540	・人々が集うまち ・伝統を生かした町づくり ・元気が出るから ・笑い声が絶えない町づくり
0606	記憶に残る市。また来たくなる市（元気と笑顔をもたらす）。全国から注目されるまち。

No.	意見・提案
0127	笑顔と笑顔でふれあうよい島田。こんにちは・元気いっぱい大きな声であいさつしよう島田っ子。防災訓練でみんなで声をかけあい、ふれあいと連帯感がより深まった一日。
0876	0歳～100歳まで笑顔あふれる街
0343	・みんなが笑顔でいるまち。 ・子ども、年配者に優しく、大切にするまち。
0025	笑顔で集うまち・わがまち島田市。活気あふれる健康都市島田市。
0390	活気ある笑顔になれる町
0736	笑顔のまち 安全なまち 住みよいまち
0571	安心安全でどの世代の住民も笑顔が溢れる町島田！
0901	・笑顔あふれる豊かなまち ・自然と共生できるまち
0860	・あいさつのできる町（声をかけあう） ・笑顔のあふれる町
0161	笑顔溢れる市(町)づくり
0690	笑顔あふれる町
0425	みんなが笑顔でくらせるまち
0758	みんなの笑顔を大切にするまち
0230	本通りの商店の人達にがんばって活気ある商店街にしてもらえれば島田の町は元気になる。
0738	・自然と地域コミュニティの豊かなまち ・産業、自然、文化が満ちた健康都市島田 ・人々が暮らしやすい元気なまち島田
0651	島田→S「さわやかで」、金谷→K「元気いっぱい、健康安全な」、川根→K「活力あるまち」
0267	元気で住みやすい街
0614	誰もがうらやむ魅力ある街づくりに挑戦 ①人が集う町づくり、移住したくなる町づくり ②基本的には若者に好かれる町づくり ③高齢者が心配なく終身を迎えられる施設 ④高齢者が趣味を生かせるアトリエ的な施設の提供 ⑤文化・歴史を生かした観光のアピール
0011	生涯学習の充実。スポーツを通して地域の活性化。高齢者が安心して暮らせる町。
0881	若者が集まる活気あふれるまち 将来も安心して生活できるまち
0293	「やさしさを感じるまち—島田市」・子育てがしやすい。・高令者もいきいき。・若者が活やく。・歴史を大事に。・自慢できるまちに。
0669	すべての年代の市民が快適で暮らしやすい環境づくり。老人介護、保育園、市民サービスの充実
0326	若者と高齢者が生活しやすいまち
0499	若者は老人を、老人は若者を大切にする。災害に強いまち。
0661	もう少し若い人が惹きつけられる島田市であってほしいと思います。この市でこれから守っていくべきこと、又自分の新しい力を（可能性）を見出せる事を応援していただける街であって欲しいと思います。守り態勢の市ではなく、未来に向けて挑戦する島田市であってほしいと思います。

No.	意見・提案
0627	・若者の定住増加—住宅等環境づくり ・交流人口の増加—近隣市との連携流通コースの研究開発 ・主要商店街づくり—メインとなる中型店とそれを取りまくミニ商店街づくり ・企業支援—若者が就職出来る企業誘致、新製品開発の支援 島田駅前開発事業は今まで相当な資金を注いできたと思う。その効果はあまり見受けられない。区画整理にかかった地権者は、他町に転居した者が多い。
0806	魅力のある街。それには若い人達が大勢いる街。子育てが上手にできる様に支援。今独身者が多い中、先の見えない理由で結婚はしない、できない人が、それを解決に行かない事には出来ないような気がします。
0590	・若者がにぎわう町 ・福祉の充実した町
0426	若者に投資すること。研究機関を誘致すること（大学なら一番良い）（若者が増えて日中出入りが多い）。
0896	・若い人の仕事（企業誘致）等及び若者が定住する市が第一と考えます。 ・お茶将来明るくないので耕作不能園が増えて産業に明るい希望が持てないと思います。 ・山間地は特に道路整備をお願いしたいと思います。交通安全のためにも
0875	1. 産業や企業の活性化と若夫婦の定住増加 2. 農業の活性化（お茶に続く、新しい特産品の開発）※広い茶畑を活かした南国フルーツなどの特産品化
0015	「県内NO1人口増加率都市 しまだ」
0941	人口の減少にストップをかける
0023	人が増えていくまち
0944	（健康な）高齢者の喜び合える町
0451	あなたの街、皆で良くする、ボランティア。高齢者がもっとボランティアに参加出来るシステム作りと積極的なPR。
0383	穏やかで住みよいまち。お年寄りに優しいまち。散歩したくなるまち。
0778	お年寄りや子供が住みやすい町島田
0329	子供からお年よりの暮らしやすい地域
0593	子供から高齢者全ての人が快適に暮らせるまち。
0828	健やかに育ち、穏やかな老後、住んで安心な島田
0193	島田駅南口が出来ていますが、横井町や南町に活気が感じられません。宝来橋も観光客は多く見られていますが、周辺に飲食店（アピタ以外）も、駐車場もまだまだ少ないような気がします。
0341	だれもが住みやすく、情報がつかみやすい。
0523	ほんわかゆっくりと島田
0654	コンパクトシティ、豊かな自然、ゆったりした時間、心豊か、温かい人々、安全清潔な街
0919	人、物、ことが充実したまち

No.	意見・提案
0640	おもちゃ病院島田を27年8月23日島田博物館1階工作室で毎月第4日曜日13時から15時30分まで受付で1年経過しました。28年7月26日までの集計で受付台数309修理完了270修理不能39です。月平均31台です。静岡市の平均が月30台です。島田市以外が20%あり、焼津市、藤枝市、吉田町、牧之原市の方は非常に重い故障。1ヶ月入院して修理完了するのが多く8月はメンバー10人中8人が修理ドクターで10台中島田市の人の9台が即修理完了し喜んで持ち帰りました。1台は入院しました。焼津市の方も修理完了し持ち帰る時おもちゃ病院焼津の住所電話地図のパンフレットを渡し、次回からそちらに行くよう話をしました。メンバー全員がボランティアで作業しますので事務用品等を島田市からも応援してくれる様お願いします。
0280	島田市にしかできないルールづくり。
0271	市民が活用する町づくり
0203	中央公園とアクセス道路がまだ不十分。中央公園の体育館の外観が工場みたいで行く気になれない。中央公園を広げ、町との交流もてるようにしたい。市民会館がつぶれてしまい、つまらない！！残念。イベントを行う場所がまた減っている。
0082	街づくり島田GO！
0507	三島由紀夫の言ではないが、島田市は静岡県の静かな中心となる様な行政を期待する。
0170	活気がないので、イメージがわからない。
0932	キャッチフレーズなど必要ないのでは？？定められたという将来像は何をイメージしてつけたのか、知りたい。
0192	具体的にどんな取り組みをしたらいいのかわからない為、記入できない。
0810	将来像「・・・」とてもいいと思います。誰しものが実感できます様に努力して頂きたい。
0173	将来像についての状況報告を含めて、活動状況が入ってこない。
0800	①市長が考えるべきである ②市長は自分の公約を第一に守るべきである。また、市民に夢を持たせ、それを遂行することが仕事。 ③設問16は市長が承知しておりますか？承知している様ならば、市長の政治能力を疑います。
0079	島田市が何に投資をして行くのかが見えない為、イメージが出ない。(何で食べて行くのか？)
0395	無い。今の段階では。
1003	よくわからない
0697	私、農業者で茶を栽培しております。島田市での主産業は何業種と認識しているのでしょうか。水は大井川、緑は山々か茶園でしょうか。「緑茶化計画」をロゴと言われましたが、目標を持ったキャッチフレーズの方が市民がうなずくのではないですか。
0122	志太・榛原地区で公共交通の拠点になるまち。林業の再興と木材産業を生かす新素材の育成。

No.	意見・提案
0111	工場を増やしてほしい。自分にあう、できる仕事になかなか見つからなくて生活困っています。
0282	駅前の再開発が遅れているので、集客力のある魅力的な施設の建設が必要では。
0056	フレッシュ！！島田！！
0655	<ul style="list-style-type: none"> ・ご当地グルメを作してほしい ・とにかく市民会館を作り、安く貸し出してイベントを開催する（おおなりでは狭すぎるので）。その時においしい弁当、お菓子（島田独特のものを加える）。 ・リバティの活用をするために三布亭のような宿泊施設を増やし、全国のマラソンファンを誘致し、市全体で歓迎し、マラソン島田市をアピールする。
0563	島田市にはジnkスが昔からあります。島田の街は縦の通りは昔から発展しないとのこと。でも前市長が帯通りを作った。その時昔の人は反対した。とにかく本通りを大切にしなければ島田は発展しない。今はこの事を知っている人はまるでいない。みんな死んでしまったから年の多い生きている人は知っている。今本通はシャッター通りになってしまっている。このことを今の人も守ってほしいと年の多い人達の話です。
0407	藤枝や掛川や菊川に少しでもみならって、島田だけで何でもそろう町にして下さい。
0389	産業の中心地、というのはよくわからないので、文化について。キャッチフレーズではありません。島田市の文化って何ですか。おそらく、島田髷、大井川川越え、近くは合唱の町くらいが出てくるんでしょうが、もっと古い時代からここは歴史的に重要な土地だったことを意識してもらいたい。自分は初倉在住なので、初倉について。もともとは秦氏が治めていた土地で、秦の倉（蔵）から来た言葉。谷口の敬満神社は奈良時代の延喜式に掲載されているこの辺りでは最古の神社であり、明治までは格式も高かった。祭神は敬満。渡来した秦氏の弓月君の先祖の名である。また、南原には奈良時代に国分寺があった。自分は小学生のころ、担任教諭の引率で跡を見学した。なぜ遠州の国分寺が初倉にあったのか。そういったことも含めて、歴史を伝えていくことで、この土地への郷土愛が育まれていき、誇りにつながると思うのだが如何。
0328	河川敷には、きれいに整備された公園があるが、中心街に市民が憩える公園がほしいと思います。旧川根町にある、野守の池的なものがあれば良いのですが、それは無理なので、もう少し小さくても良いので長い目で見て、少しずつ整備してほしいものです。
0256	<ul style="list-style-type: none"> ・蓬来橋を渡った所(権現原側)に茶店がほしい。 ・大井川、地名の吊橋の処にオートキャンプ場がほしい。 ・どこかにお城がほしい。
0009	駅前にビルを建てたらどうか。
0966	耕作放棄地等の再利用はどうでしょう。例えば花一杯運動でも。
0163	島田駅南の歩道に植えてある樹木緑が青々としてよいのですが、あまりにも大きくなりすぎて見通しが悪く、又市の人の手入れも大変の様だし、見通しも良く見栄えも良い樹木で緑の歩道にしたら通る人たちの目も喜ばしてくれるのではないのでしょうか？
0206	島田金谷の街中に個店が昔の様に多くなってほしい。アピタやスーパーばかりで街の中がさびれるばかりだ。
0574	地元民が休日に循環するだけでは活性化には限りがあると思います。

No.	意見・提案
0723	半農半×
0238	人と産業、文化の交流拠点、水と緑の健康都市、将来像としては良いがよくばりすぎ。まず島田市として何を一番充実させるか明確にして計画を進めるべき。住んでみたくなる街“島田”を目指してもらいたいです。
0972	・健康を守る街 ・市民で助け合う街
0308	・子供が多いまちづくり。 ・スポーツでガンバル子供がいるまち。 ・スポーツしせつが充実したまちづくり。
0836	「豊かな自然と豊かな人づくり」
0413	・心と心の通うまち。 ・夢と活気の溢れるまち。
0913	・空、道路とっても便利なまち ・静岡県の”おへそ”のまち島田市 ・ふるさと新しさを併せたまち島田 ・一度住んでよ島田に
0930	せっかく自然もたくさんあるので、もっと自然とふれあえる施設ができればいい。空港もあるので、もっと観光アピールもして、多くの人が集まり楽しめるまちにしてほしい。
0320	駅（島田、六合）からの「蓬莱橋」へのアクセスを確保、直通バス、タクシー利用者（割引券）を出す。
0008	空港を利用して免税店、秋葉原のような商業施設、また、娯楽施設・流通施設等で海外・国内から人を呼び、空港を核にして発展させてもらいたい。
0864	空から陸からみんなでおいでよ観光都市島田。富士山（静岡空港）（新東名）
0884	蓬莱橋周辺の整備 他市、他県から来ていただいても休憩する所は無いし飲食、みやげ物店などもない 道路の整備 各所で道路拡張していますが、行き止まりの道路数か所ある（特に初倉地区）
0116	空港・歴史・SLのコラボするまち。大市民会館を建て、市民が文化を愛するまち。
0993	・島田市は、静岡空港及び新東名島田金谷インター等がありそれに伴い国道473号線上の川根方面の今後の発展を期待しています。 ・島田市行政の頑張りに期待します。
0221	御前崎と東名、空港、第二東名とそろった所は少ないと思います。この条件を利用したまちづくり。
0098	島田市の豊かな自然を再認識(ほり起す)。新しい時代での農林業、島田市産業振興に創造力を発揮したい。そうした前向きな働きが市街地誘致化等につながり、活力ある島田市誕生に連なると思いますが。
0769	・自然豊かで商・工・農バランスのとれたまち しまだ ・市民一人一人が健康で安心して暮らせるまち しまだ ・産業と文化の調和のとれたまち しまだ ・安心して子育てに専念できるまち しまだ ・時代を担う子供達へ、心を育てる教育を実施するまち しまだ
0359	中心市街地の活性化、企業活動、産業の活性化
0759	活気がある街、大企業誘致、ショッピングセンター誘致

No.	意見・提案
0262	①活力を感じる商店街の充実。②歩いて楽しいきれいな街並。 ③人が多く歩く中心街の町造り。
0112	企業誘致。メリハリのある都市造り(街の美化、再生、山間地域の里山、まち造り)。
0775	産業、工業施設の発展と子育てのために必要な施設の充実。自然公園と住宅地の整備。
0035	スローガン、キャッチフレーズは大変良いと思いますが、やはり経済、消費がよくなないと。国の取組は大きいです。
0022	働き場所のあるまち
0753	働く場所
0225	地元産業・木工を中心に復活を。歴史文化財の保護保存活動。地域の文化、観光諸施設の充実、活用。
0272	「木都島田」復活作戦
0755	「市民と行政が力を合わせ活気のある島田」
0139	みんなで創る活力のあるまち。
0266	島田でランチをとと思わせる、雰囲気の良い店、又ティータイムを市外でが多いので豊かな自然の蓬来橋のさきにあつたらと思ひ。「みんなで作る島田」
0575	皆で目指せ、健康、自然、ゆとりを実感できるまちづくり！
0080	あなたが主役になれる事がみつかる町、地域。一人の小さな力が(協力)がたくさん集まったら今よりもっと素敵な町・地域になる。あなたのここが素敵。その素敵な取り組み(思い)をもっと広げよう。自分自身も気付かない自分の力がある。思っている人に使って下さいませんか。必要としている人にいただけませんか。一部の人は実感していても、島田市(地域)の為に一人一人何か出来る事があると気付いていないのでは。
0957	みんなで造る島田市
0704	昔市内にユニーとジャスコのあった頃、市内が人で賑わっていた
0612	夢を持ち、夢をかなえる活力あるまち島田
0820	・歴史と未来を紐ぐまち ・来てごう島田！いっけら ・ずっとここで、ずーっと島田
0872	Shimada's design makes our future!
1013	今だ！しまだ立ち上がろう！明日だ！しまだ創り出そう！
0340	活気ある街。日本、世界に翔く未来へつながる街。
0825	・活性化する島田 ・ばらの町
0518	活気ある商店街
0182	歴史にふれるまち。いきいき、このまち、大好き。いつきても自然にもどれる。ぬくもり伝わるまち。いいら島田。健やかに、ほこらかに。いいところ、豊かな都市。島田っていいら。
0681	・寄ってみたい島田 ・活気があるから集いたいまち島田 ・自然と共生しながら新しいものを受け入れる活気ある島田
0765	来てよかった島田
1005	豊かな自然に生まれ、生き生きと誇りをもって働き自己実現できるまち

No.	意見・提案
0290	歴史と生活が結びつき、活力ある町。だれもが安全に安心して暮らせる町。
0641	歴史と自然と飛び立つまち
0891	安心して生活できる活気ある島田
0099	住みやすく、活力あるまち島田。
0216	安心、便利、活気あるまち。
0757	清らかな山川草木。温泉に伺って走るS L
0415	活力ある街づくりと豊かな自然との調和
0441	環境に良い町作りと活気のあるまち
0938	町の活力と自然。魅力あふれる島田
0456	豊かな自然を利用する。活力あるまちへ。
0906	健康寿命を全うし、活気あふれるまち、島田！！ 私の近所はすでに病気の方は、もちろん、退院後自宅で治療を続けている人、調査を毎月受けている人、高齢で一人暮らしの人（中でも痴呆があり、デイケアに通う人も）がんの手術後の人など大勢の方々が病気と闘っています。私は専門的に見て、薬のみでなく、食事内容も加味されて治療の助けになると考えています。現在病院は2週間位で退院を余儀なくされるので、自宅で何とか生活をしています。日常的に不足するものは、スーパーでは自由に手に入らない”調理した野菜”それも揚げ物ではない野菜料理が不可欠なのです。そして病気関係なく大人も子供も不足しているのです。
0647	活力があり、健康で弱者（言い方が悪いかもしれないか・・・）に優しい島田市
0010	活気ある町、人。みんなが集う町。
0087	活気あるまち
1011	活気あるまち
0751	活気があるまち
0101	活気のあるまち
0716	活力のある街づくり
0235	全ての世代が参加できる活力あるまち島田
0535	誰もがいきいきと活力に満ちたまち。
0500	チャレンジするまち
0762	何事にも活気のあるまち
0920	人間苦勞するのは当たり前。苦勞しがいのある町、家庭を。また、自分の好きな事が出来やり遂げられる様に
1008	町中に活気がない事が一番で、家に居るより町へ出て遊んで来ようという気をおこさせるお町でありたい。
0968	豊かな活気ある島田
0792	わくわくして心燃ゆる島田
0558	「これからの街 島田」
0175	私個人、正直、今の状態から見る方向性でのキャッチフレーズはつくるのにむずかしい！ “希望をつなげる町島田”となってほしい！

No.	意見・提案
0894	「夢のある未来をこの手に！誰もが住みたくなるまち島田」
0942	歴史を重んじ、スピード感ある街島田。限りなき未来を目指す人、街、自然が共有する街
0349	心安まる町島田。ふるさと島田。明日に向かって島田と共に。
0658	歴史を守り、自然を守る、豊かな未来を目指すまち
0745	歴史あるまちから新しいまちへ
0570	若々しく瑞々しく未来志向島田
0183	輝け子どもの未来。誰にもやさしい街、島田。
0339	子どもの未来を守る都市
0172	ここから発しん(信・進)島田市。ツナガル未来へ島田市。
0138	蓬莱橋からの街並み作り。島田球場の再生。
0721	スポーツを通じた交流。新発見！しまだ(観光)
0039	大井川を利用して、もっとスポーツが楽しめるようにしてほしい。若者は体力が余っているので発散させるのにスポーツが一番いいと思います。手軽にできるサッカー、卓球などどこでも誰でも安い料金で参加できるようにして、年に数回大会をすると良い。年令に分けて、ジュニア・シニアのように。昔あった市民体育大会の事を思い出します。
0645	せっかくリバティや周辺のスポーツ広場があるのでそれを前面に出して「健康づくりができる街」にしたい。ローズアリーナの中やスタッフも充実し、もっと市民が通りやすい、又は通いたくなるような魅力がほしい。
0592	各種スポーツに力を入れる。スポーツ都市を目指す。他の都市との差別化、指導者の教育。
0685	1. 蓬莱橋の初倉側を整備して小公園を作り店を出す。トイレの整備。 2. バラの丘公園の上部の坂を芝桜を植えて整備する。 ①②と島田駅とを結ぶ観光定期バスの運行を計画し、観光客の誘致をする。 ※観光の目玉を作って市内を賑やかにする以外に道はない。
0297	江戸時代のにぎわい、再び
0316	世界に自慢、来て見て泊まって、魅力の島田市
0804	誇りあるまち。イベントの開催。人の集まるまちづくり
0904	歴史あり、国際交流あり、自然あり。時期人材の育成の町
0174	文化の交流拠点でいえば、蓬莱橋、川越遺跡、空港周辺の整備。観光客を多く呼べる様な魅力ある町づくり。
0276	ほうらい橋、宿場、帯祭など、誇れる歴史がたくさんあるのに、今いちそれを活かせてないと思う。島田市に住む人も、他から旅行で来た人も、歴史にふれ、楽しめるような場所作りをしてほしい。
0249	・昔の様に来客者にウェルカム来るものこばまないアットホームな地域。 ・他の町に比べて人もやさしいし豊かな自然は強みです。 ・いつでもおいでほっとくつろげるいやしな町。
0740	・訪ねてみたいまち ・豊かな自然と自然と融和した近代的なまち

No.	意見・提案
	・癒される町
0925	富士山の見える玄関でおもてない。豊かな自然を満喫できるまち
0149	歩いてまわれるわかりやすい導線の施設マップ、病院・市役所・銀行・買い物(お店)マップ、地下街がほしい。
0610	行ってみたいまち！
0689	イベントがあるのに宣伝が少ない為、知らない人が多く、せっかくのイベントなのに人が集まらなく残念。もっと宣伝が必要。
0962	ウェルカム。みんなで目指すブランド島田
0546	各地区でイベント回数を多くする。市内駐車料が高い。
0135	観光をもっと充実して、バス等を使い、茶畑・ほうらい橋・河原町・バラの丘等を廻るコースとか、川根を廻るコース等を考えてみてはどうだろうか。
1009	島田の帯まつり。市全体のまつりを望む。浜松まつりの様全町で楽しめる祭を。
0960	歩きたくなる街島田
0330	带状に美しく綾なす街づくり。
0006	歴史・文化を生かした誇りあるまち。安心安全、暮らしやすい、子育てしやすいまち。
0744	・守ります自然。継承します、文化。育みます、子育て。 ・いつでも故郷
0935	今までの島田、これからも島田(都市化しなくて島田のいい所をこわさないでほしい)
1014	自然がありながらも”島田”っていいなって思える様な、魅力あるまち
0578	・自分のまちを好きになって誇りに思うこと ・医療制度が充実したまち ・人が優しいまち
0539	(キャッチフレーズではありませんが)一度離れた(仕事や結婚その他で)人達が懐かしく思い出して将来また戻ってくる、そんな島田市。
0977	・市民に愛されるまち ・誇りあるまちでありたい
0490	生まれた事、住んでいること、働いていることを誇れる町、島田。
0287	個性あるまち
0789	個性豊かなまちづくり
0044	島田BEST-CITY。わいら！わいら！皆で島田。まるさあらで誇りある島田に！！
0466	島田市民が特別感を感じられるまちづくり
0366	島田らしく！！ いなかなので、いなからしく、良い所アピールする所、沢山あるのに、もったいないです。
0309	想像から創造する街。ホッコリして誇りある街。
0688	受け継ぎ受け渡す自然と歴史
0670	自然、文化、命を守る優しいまち島田
0259	・豊かな自然を身近に感じられる町。 ・歴史に目を向ける町。
0559	自然と歴史を大切にする街
0458	歴史(…伝統を受け継ぎ未来に発展させる)と文化(…大ホールを備えた多目的会館の建設)と自然(…グリーンツーリズムを楽しめる仕掛けを考案する)のまち。

No.	意見・提案
0335	歴史と文化、自然のゆたかな色どりのまち
0888	歴史を大切に市民を大切にできる島田
0594	人と人をつなぐ温故知新のまち島田
0255	来て、見て、島田宿！！
0511	日本古来の芸能や諸外国からのオーケストラ等呼んで公演が出来るコンサートホールが文化芸術都市島田が最初に取り組む重要課題だと思う。キャッチフレーズ「芸術、文化の街島田市」。
0120	年令差の文化交流会のあるまち
0728	歴史のあるまち
0066	歴史の町島田
0866	歴史を感じれるまち
0107	歴史をはぐくむ島田
0815	街中に、こころのあかり灯るまち。あんぜん、安心、住み続けたい街
0604	安心安全住みやすい町
0278	安心して、住める島田
0208	医・食・住すべてに安心できるまち。
0874	くらしやすいいい町
0261	住んで安全な町
0004	老若男女誰もが安心して長く暮らせる町
0632	自然と共存した住みやすい街島田
0687	自然豊かなまち、住みやすいまち島田
0212	子育てしやすい。住みやすい。
0969	ゆとりある生活。ゆとりある心
0380	島田に居住してよかったという町づくり。全世帯が快適で暮らしやすいまちへ。
0300	市民全員がくらしやすいまち
0822	住みたくなる町
0824	住みやすい街、島田
0201	住んで良かった！島田
0970	そこそこの街。（勢いを求めるのではなく、落ち着いていて気が休まる街）
0141	地域格差のない、どこでも満足してらせるまち。
0509	のんびり過ごせる静かなまち。
0924	ほっとする街
0224	未来の子供達のため安心して生活できる地域。対話ができる地域。
0032	安全。子育てしやすい。
0227	子育てが安心してできて、安心して暮らせる街。
0489	豊かな自然を守り、人も自然の一部であるという自覚をもつ事。子供やお年寄り、その他弱者を1つの命として大切に作る感性豊かな人間を育てる町。
0629	やさしいまち・・・島田 市民に環境に。

No.	意見・提案
0791	自然と人共有する町島田
0961	自然を活かした町島田・人と自然、調和のとれた町島田。
0748	人と自然の調和するまち
0496	人と自然を育てる町を望んでいます。
0244	自然豊かなまち
0611	自然を生かす島田市
0667	野生動物との共存、共生（人も動物も大切な命）
0361	豊かな自然島田市
0675	他人に優しく、おもてなしの心で、島田は静かで落ち着いた町であってほしい。子育て支援の街“島田”！
0662	・助け合い人とのふれあい ・ニコニコ子育て出来るまち
0983	教育日本一。世界で活躍する子供が育つまち、島田市。
0406	県下一、子供の声が響く街
0459	現在の将来像がすごくぼんやりしている。1つの事を実現するのも難しいのに「人・産業・文化・水・緑・健康」はよくばりすぎだと思います。人口減少が問題になっているなら、「子育てしやすい街」と、うたって、子育て施設の充実、子育て金の補助、公園増設など、まずは根本の問題を解決してから「交流」「健康」などの目標をたてるのはどうでしょうか？人がいなくてはなにもできません。島田市の子育て環境が良くなれば市外から引越してくる家庭もあるはずです。
0077	子供達の育む環境づくり。市街地へ集合。
0057	子供とくらしやすいまち島田
0722	幼稚園や保育園に入りやすい町。子育て女性の働きやすい町
0560	医療、福祉の充実したまち
0043	一、健康。二、やさしい心。三、教養。新しい島田市。新しいとは隣町がまだ行っていないことを島田市はもう始めた、行っていると言う事である。新しく誰にも良い事。たとえば健康診断など三ヶ月に一度くらい行うとか医師との話し合い等の時間も出来ればなお自身が健康に気遣い自信が持てる事となる。どんなに時代が変わっても、都会でも田園でも一番大切なことは健康である。自分が健康でなければ人にもやさしく出来ないからだ。二番目に大切なことはやさしい心を持つ人になることである。三番目は教養のある人間であるということだ。いろいろ知って正しい判断が出来ることが大切である。歴史を作っていくのは人間であるが、人間も歴史の消耗品であると言えよう。いろいろ知っていても、その上で何が出来るかが大切なことだ。告げ伝えつきすすみゆく時間(とき)の生命(いのち)君歌を持ってまた愛のため正美。
0952	1. 健康都市島田 2.
0626	統合により2つの町が1つになり島田市になったのですが、市外、山間地の実状は人口は減少し、老人と茶の衰退など考えると自分達の生活をいかに無駄使いしない様にするか考える事。健康に長くいられる事しか考えられません。
0059	福祉の充実した町づくり

No.	意見・提案
0621	・市民全員が平等に暮らせるまち（ハンディキャップを持っている人もみんなで補いあえる）。 ・助け合えるまち。 ・あたたかいまち
0125	すべての人に優しい街。思いやりあふれる街。
0851	小さな親切の有るまち
0576	人間らしいまち
0247	人にやさしい
0805	みんなにやさしいまち島田
0525	（Hot）ホッとできる町
0817	困っている人がいたら手を差し伸べられるような、島田市。誰とでもあいさつができるような島田
0065	人と人とがふれあえる島田市
0552	集結や島田
0464	島田（島田市）マン（人）パワー（総合力）、市民力（方言の「島田ん人」とかどこんち人とかどここの人の言い方から）⇒島んパワー
0144	魅力ある街。魅力ある人作りの街。

(高校生対象分)

No.	意見・提案
2	若者も高齢者も住みやすい町
3	老若男女納得のいく地域活性化
4	自然あふれる温かいまち 歴史の伝統が残るまち
5	特産物を使った町づくり
6	お茶・SLの街 島田
7	金谷、五和地区にも優しく
8	快適に過ごせる町
9	ベンチとかもうちょっと増やしてお年寄りとかにやさしいまちを目指したらいいと思う
11	・新・島田市田舎じゃないんだしプロジェクト ・日サロとオレンジを特産物にするでコレ
12	安心して住むことができるまち
13	寄りたいたいと思えるような明るいまちづくり
15	明るくて活気がある
17	多くの人に知ってもらえる有名なまち
18	本通がもう少し活性化したらいいなと思います
19	自然が豊かな美しい町
21	緑広がる自然豊かなまち
24	自然と文化あふれるまち
25	だれもが安心して暮らせるまち
26	農業・商業が盛んな町・島田
27	人にも環境にも優しい地域づくり
29	・安心・安全、幸せ・幸福の町 ・外国人の人とも仲の良い町
31	・若者だけでなく、お年寄りの人や子供でも安心して住める町 ・老若男女に愛されるまち
32	人々の活気があふれる明るいまち
33	木・田んぼ・森 自然豊かな島田市
34	ああ、いい町だ
35	自然を生かした観光
36	自然と共存するまち
37	「みんなでつながるお茶の町」人が快適に暮らしていく町の設備と共に、今の魅力である歴史・自然を保護し、両立していく。
38	伝える歴史、広がる島田市
39	自然を大切に守っていくまち
40	イメージ・・・島田市みんなが助け合い支え合う町
41	自然とともに・・・
44	文化を守る
45	自然を守る
46	歴史や伝統を守りつつ、さらにそれらを活かすビジネスなどをする

No.	意見・提案
47	お茶のまち
48	歴史が生える緑のまち島田
49	人・歴史を大切にしていこまち
50	子供からお年寄りまで誰もが住みやすいと言えるまち。小さな声も聞きもらさない
51	自然を守りつつ、発展してゆく
52	もう少し都市化してほしい
53	楽しいまち
54	子供が全力で遊べる町
55	人にも動物にも自然にも優しいまち
56	日本一暮らしやすい町 島田市
57	来たいと思えるまちづくり
58	歴史、文化を多く残して、これからも伝えていく
61	～変わる・島田～
64	親しみやすいまち
65	人それぞれ明るくいきいきとしたまち
66	人や自然・つながりを大事にする
68	人からではなく、自分から親切さを見つける
69	自然を体で感じ、地域の人たちとも、たくさん関わることのできるまち
70	商店街が発展している 活気溢れるまち
71	誰もが安全に暮らせる町づくり
72	のびのびと暮らせるまち
73	過ごしやすく温かいまち
75	その時代にそって町が発展していく
76	人々が安心して暮らせるまち
77	生まれ変わろう島田
78	自然が豊かな島田市
79	人をよびこむまち
81	静岡市に負けないまちづくり
86	自然を大切に
87	お店を増やす
88	お店を増やす
90	木々だらけ島田
92	自然が豊かなまち
93	楽しく人が集まる町
98	明るく楽しく元気よく
102	自然を守る町
107	自然いっぱい島田市
109	文化を大切にしたまち

No.	意見・提案
112	インターネット整備
113	スポーツ
117	市民が満足できる町へ
118	世界にはばたく島田市
119	あいさつ
121	日本の首都を島田へ!!
122	自然が豊かな町 島田!!
123	みんなが楽しめる町
124	住みやすい町
128	笑顔・自然あふれるまち
130	島田市を楽しく・明るく・元気な町へ
144	町と自然の調和
147	地域の人々が安心・安全・楽しいと思えるまち
149	自然豊か
150	自然豊かなまち
151	自然豊かで安全なまち
153	緑のまち
154	島田市人と自然がおりなす町
155	誰もが安全、安心に暮らせるまち
156	みんなの町
158	自然多い町
163	マナーを守れ
164	歴史伝統を守るまち
165	誰もが安心して暮らせる町
166	文化
169	1人1人心が広い町
170	都会
171	人、歴史、文化、地理を生かした地域総ぐるみのまち
172	蓬莱橋、木の橋で長い
173	安心して暮らせるすばらしいまち
176	現代感を出してほしい
178	自然を大事にした町
180	人と人が仲良く暮らせるまち

(中学生対象分)

No.	意見・提案
公立 2	多くの人と関わり、自然を大切にする町
公立 9	自然豊かな町
公立 10	公共施設を増やす
公立 11	色々な人に目を向ける 広い心で差別もなく過ごす
公立 12	助け合う気持ち
公立 13	全てを活かした豊かなまち
公立 14	豊かな自然と人々の調和したまち
公立 15	お茶の郷
公立 17	自然豊かで人があたたかいまち
公立 18	地域総ぐるみのまち
公立 19	自然がたくさん
公立 21	自然を大切にするまち
公立 22	豊かな暮らし
公立 24	人、文化、歴史、地理を活かした地域総ぐるみのまち
公立 25	歴史を増やす
公立 26	自然が豊かな町
公立 27	お茶がおいしいまち
公立 28	お茶の町
公立 29	自然・地域・つながる
公立 31	自然豊かな町
公立 32	自然があふれる
公立 33	お店を増やししながら、近場に自然を感じられる場所をつくる
公立 34	お茶（茶畑）
公立 46	人と人とのつながりを活かした協力のまち
公立 48	緑と笑顔があふれる島田市
公立 49	目指せ！皆が住みやすい島田市へ
公立 50	田んぼ・平地・田舎・特に何もない町
公立 51	島田市は 緑がいっぱい 明るいな 人々が あいさつしあって 暮らしてる
公立 52	自然の町
公立 53	人・歴史・文化・地理を活かした地域総ぐるみの町！
公立 54	自然と共存するまち
公立 56	協力しあえるまち
公立 57	豊かな自然があふれるまち
公立 59	緑の街
公立 60	お茶を活かした健康づくり
公立 61	今のままでいい
公立 62	自然を大切にする

No.	意見・提案	
公立	63	自然を大切にする
公立	64	緑のあふれる島田市～♪
公立	66	人を大切に食べものも豊かにするまち
公立	67	自然の町
公立	68	お茶の町 飲んで食べて自然で遊ぶ
公立	71	市全体で協力しあえるまち
公立	72	人口を増やす
公立	73	人が集まるまち
公立	74	「人・文化がたくさんあるまち」
公立	79	自然に囲まれた島田市のイメージ
公立	81	安心できるまち
公立	83	SL が走る町 島田市
公立	84	自然がたくさんあるまち
公立	87	地域の人がとても親切なまち
公立	89	緑が多いイメージ
公立	94	緑が多い街づくり
公立	95	自然
公立	96	豊かな感じ
公立	97	自然文化を活かした地域総ぐるみのまち
公立	98	地域との関わりを大切に
公立	100	年齢問わず関わり助け合うまち
公立	102	茶を盛んにしよう
公立	103	島田市をみんなで作る
公立	104	歴史などあるまち
公立	105	・そうだ、島田に行こう ・町並み、道路をきれいに目指してください
公立	106	安全に暮らせるまち
公立	107	文化を活性化する町
公立	108	みんな、仲がよい
公立	109	明るく緑茶のおいしい町
公立	110	どこでも WiFi 完備！の島田
公立	111	みんな元気・笑顔が輝く町
公立	112	やさしい人が多い町
公立	113	人にやさしい町
公立	114	人・自然・文化が多い豊かな町
公立	116	笑顔が素敵なまち
公立	118	歴史や自然を大切にする
公立	119	みんなが集える場所
公立	120	人がくるような市を目指す

No.	意見・提案	
公立	121	人と人との関わりを大切にする
公立	122	住民が暮らしやすい 明るく楽しい町
公立	123	文化をたくさん増やし歴史を作る
公立	125	自然豊かなまち
公立	126	地域の仲が良い
公立	127	もっと人を増やそう！
公立	129	緑豊かな島田市
公立	130	自然豊かな島田市
公立	131	もっと田舎にお店を!!
公立	132	地域のつながりが深いまち
公立	133	自然がたくさん島の島田市
公立	135	都会にしよう島田市！
公立	136	自然を大切にする島田市
公立	137	自然がたくさん島の島田市
公立	138	自然を守りつつ進化する島田市！
公立	139	歴史や文化を大切にする町
公立	140	若い世代が楽しめるようにする
公立	142	イベントの町
公立	146	いろいろあふれる島田市
公立	147	自然が多い町
公立	148	昔からの文化などを活かしたまち
公立	149	自然、豊か、空気おいしい、美しい町 島田
公立	150	自然・豊かな町づくり
公立	151	自然の多い町
公立	153	ネット環境を増やしてほしい
公立	155	自然と生きる、まち
公立	156	自然・人・歴史・文化が盛んなシティ
公立	157	自然・食べ物・・・豊かな町島田市
公立	159	自然あふれる島田市
公立	160	いろいろあふれる島田市
公立	161	優しさを大事にするまち
公立	162	歴史をいかす。
公立	163	皆が楽しく、安全に住める町。
公立	165	島田市だけにある歴史や自然を大切にする。
公立	166	世界へ伸びゆく島田市
公立	167	自然豊かな明るいまち。
公立	169	人と自然織りなす町に。きずな深めて、共に生きてゆく、ああ、喜びあふれる島田市。

No.	意見・提案
公立 170	自然あふれる島田市。
公立 171	自然豊かな明るい地域。
公立 172	SLをよりPRしていく。
公立 173	山や川、歴史や伝統をみんなで守っていこう。
公立 175	ばし、ばし、ばし、ほうらいばし
公立 187	人との関わりを増やす町づくり。
公立 188	人と歴史、自然がつながるシマダ。
公立 189	文化・歴史・自然が豊富な町。
公立 190	なごめるまち。
公立 197	茶や伝統を引き継ぐまち。
公立 198	自然と人の共和ができる町。
公立 200	外国人やほかの県の人達が来てくれるような、にぎやかな島田。
公立 202	文化かがやく夢の町
公立 203	おもてなし。
公立 204	おもてなし。
公立 205	・蓬莱橋がある町、島田 ・緑に囲まれた町、島田
公立 206	・自然豊かな町。・最強の町。
公立 207	歴史、文化、自然が多い。
公立 208	緑豊かな島田市。
公立 209	緑豊かな、自然あふれるまち。
公立 211	自然を大切に、緑あふれる豊かなまち。
公立 212	自然を生かしたまち。
公立 213	お茶の郷 島田市
公立 214	緑あふれる自然のまち。
公立 217	緑につつまれた、文化の香る島田市。
公立 218	駅をもっとにぎやかにする。(イメージ)
公立 219	歴史ある町「島田」
公立 220	自然を取り入れつつ、いろいろな店を増やし、若い人がつまらなくなるようにする。
公立 221	生き生き元気な地域づくりのまち。
公立 222	人と自然の協力ができたまち。
公立 224	夢をのせた SL が走る輝く町。
公立 232	人であふれる活気のあるまち。
公立 234	緑あふれるまち。
公立 235	人、文化、優しさを活かした地域。
公立 236	子供や高齢者が安心して暮らせる地域。
公立 237	自然豊かな、お茶のまち。
公立 238	自然や文化がたくさんあるまち。

No.	意見・提案
公立 239	自然たくさんのもちおこし。
公立 240	近代的な街。
公立 241	緑茶を世界にはばたかせる。
公立 242	特産品や有名な建物をいかした地域総ぐるみのまち。
公立 243	スポーツが盛んなまち。
公立 244	自然豊かな緑のまち。
公立 245	自然あふれるきれいなまち。
公立 246	自然と地域団結のまち。
公立 247	歴史を残した文化を大切にするまち。
公立 248	自然もお店も豊かな環境のいいまち。
公立 249	いろいろな店があつて、活気のあるまち。
公立 251	スポーツや遊びをする場所を増やして、人がたくさん住むところ。
公立 252	文化を活かした地域。
公立 253	お茶が有名なこの地域
公立 254	平和
公立 255	・人が優しく、特産物の多い、人のことを思う島田市。 ・人と自然を織りなすまち島田市。
公立 257	誰もが住みやすく楽しいまち。
公立 258	自然を活かした地域総ぐるみのまち。
公立 260	人との交流を大切にし、自然を守る町。
公立 261	・お茶など力をそそいで、育ててつくる場所。 ・昔からつないだ文化があるところ。
公立 262	若い人も、お年寄りも安全に楽しく、温かいまち。
公立 264	人と人との絆を深め、歴史伝える、明るい、温かいまち。
公立 266	歴史、文化が深いバラ色のまち。
公立 269	誰でも楽しめるまち。
公立 270	おいしいよ。島田のお茶。
公立 271	自然と人と文化がつながる輝く島田市。
公立 274	B I G C I T Y
公立 277	グランドゴルフばかりつくるのではなく、若者が楽しめる場所も少しはつくった方がよい。
公立 279	自然豊かな町。
公立 280	きれいな町。
公立 281	楽しい町。
公立 282	歴史と文化を活かし、若い人達を集め、その伝統をつないでいく町。
公立 285	・遊園地。・大型ショッピングモール。・自然のまち。
公立 286	人とのつながりを大切にする町。
公立 287	ゴミ、いじめ、ポイット捨て

No.	意見・提案
公立 288	自然豊かな島田市。
公立 289	みんな笑顔で、楽しい地域のまち。
公立 290	自然豊か。(山、川)
公立 291	挨拶、返事をするまち。
公立 292	「笑顔いっぱい」のまち 「自然ゆたかなまち」
公立 293	ガンバレ、島田
公立 294	都会。
公立 296	落ち着いた歴史にふれる自然豊かなまち。
公立 297	伝統を大切にしよう。
公立 298	みんなが楽しく生活できる島田市。
公立 299	お茶やみかんがおいしい町。
公立 300	S Lが走り、自然が豊かな町。
公立 301	みんな幸せ、島田市。
公立 302	自然豊かで、楽しい地域。
公立 305	人との輪が広がるまち。
公立 306	自然が豊かなまち。
公立 308	・バス、電車など交通の便をよくする。 ・お年寄りが使うところ。
公立 309	笑顔があふれる。
公立 311	お茶、S Lこれが島田の誇るもの。
公立 312	観光できる場所など、自慢できる所をもっと主張する。
公立 313	自然があるまち。
公立 315	地域活動を通して、なじみやすいまち。
公立 316	笑顔、人を大切にしたい町。
公立 317	お茶の町、島田市。
公立 318	スポーツ大好き、地域総ぐるみのまち。
公立 321	お茶のまち。
公立 322	自然豊かな、魅力あふれる町。
公立 324	人、お茶、文化を活かした地域。
公立 326	みんなが住みやすい町づくり。
公立 327	お茶がおいしく、自然豊かなまち。
公立 329	農業などのお茶や野菜が多くなるまち。
公立 330	もっと、歴史を活かす。
公立 331	島田市全体が、他の市の人や外国人が来ても、気軽に話せるような人になる。
公立 332	苦勞しない市、島田市。
公立 333	農業を活発にする。
公立 335	自然を活かした街づくり。
公立 336	島田市の歴史や自然を大切にする。
公立 338	自然を活かしたまちづくり。

No.	意見・提案	
公立	355	島田市の文化を大切にし、人との交流を深める町。
公立	358	自然と人と動物にやさしいまち。
付属	1	・若者が先頭をきる緑のまち ・温故知新～古い歴史と現代の情報
付属	4	・歴史と自然あふれる静岡県代表のお茶地域 ・静岡第2の都市、お茶市
付属	5	・店いっぱいな町。 ・きれいな町。
付属	6	通り過ぎるのではなく、ここを目的として人がくる町。
付属	7	・東京に追いつくような便利な町。 ・自然・お茶・優しいみどりの町。
付属	8	・清潔 ・設備
付属	9	お店増え、人口も増え、緑増え、全ての人が住みよい町に 子供増え、観光客も 多い日々、活気あふれる すてきな島田市(短歌のようにしました)
付属	10	人が優しい自然が豊かな町
付属	11	自然豊かな、交流盛んなまち。
付属	12	自然と人間が共存する市。
付属	13	安全、安心、みんなが立ち寄るまち。
付属	14	人・伝統が強くつながったまち。
付属	15	世界へ広がる温かい町島田
付属	16	人・歴史・文化・地理を活かした地域総ぐるみのまち・
付属	17	文化を知り、自然を感じる人による町。
付属	18	誰もが住みやすい自然豊かなまち。
付属	19	みんなでつくる世界の島田。
付属	20	みんなにここに、そんな町。
付属	21	人が集まるまち。
付属	22	自然と文明化を両方充実させたまち。
付属	23	・自然が豊かというイメージがあるから、そのイメージに合うような環境づくりを。 ・人も自然も元気いっぱい明るいまち。
付属	24	福祉が充実、交通が充実、暮らしやすいまち。
付属	25	歴史文化、そして自然の豊かなまち。
付属	26	自然の豊かな街
付属	27	きれいなまち
付属	28	自然、人がどちらとも丁度良い町。
付属	29	自然豊かな、イベントの町。
付属	30	地域で助け合えるまち。→お互いのことをよく知らなくても、何かあったときには助け合いたいと思う。
付属	31	人が優しく、人に優しいまち。
付属	32	・きれいな町で、歴史をひきたてよう。・歴史だけじゃない。他の良さも知ろう。・自然が豊かな歴史ある町。
付属	33	住みやすい、通いやすいまち。
付属	34	個性的なまち「島田」

No.	意見・提案	
付属	35	島田市がもつ歴史を活かした観光客が多いまち。
付属	36	子饅頭がある市
付属	37	・自然、文化が豊かなまち。 ・自然、歴史が豊かなみんなのふるさと。 ・大井川から歴史が伝わる人と自然が豊かなまち。
付属	38	自然を活かしつつ、もっとさかえるまち。
付属	39	歴史、文化、スポーツを広める町。
付属	40	緑が豊かで、人々が明るく活発なまち。

